

第9章 社会教育

第1節 概要

1 社会教育一般

県社会教育委員の会議では、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策の成果及び課題を整理するとともに、様々な課題が多様化、複雑化、専門化した現代において「人づくり」「地域づくり」に取り組む社会教育の役割の重要性を鑑み、震災後12年を迎える今、数々の現代的課題を乗り越える社会教育の在り方について考え、議論した。このことを社会教育委員の立場から、進捗状況を検証してきた。(第2章 第7節に記載)

2 地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携・協力を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、互いの役割分担を明確に認識し、対等な協働関係を築くことにより、社会総がかりでの教育の実現を目指す「地域学校協働本部事業」を実施した。地域住民による学校支援を「学校を核とした地域づくり」に深化させていくために、地域には地域コーディネーターを、学校には地域との連携の窓口となる地域連携担当教職員を置き、地域と学校が双方向で連携・協働する活動の充実を図った。特に、震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応するための支援を行い、教育環境の復興に努めた。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

3 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、PTAや企業との連携や支援の届かない家庭へのアウトリーチ型支援等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

4 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのため、「福島県地域学校協働本部」を設置し、学校・家庭・地域の連携・協力の充実を図りながら、

地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりを推進した。また、子どもと大人が、共通の体験をとおして感動したことや共感したこと、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への想いや震災の記憶の継承などを日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「ふくしまを十七音で奏でよう絆ふれあい支援事業」を実施した。

5 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動の充実や社会参加活動の促進に努めた。

6 子どもの読書活動推進

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとする中高校生によるビブリオバトル福島県大会の開催や、子どもの発達段階や新しい生活様式を踏まえた読書活動の推進を図った。

7 ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

(1) 事業1 ふくしまキッズパワーアップ事業

自然体験活動に加え福島ならではの多様な体験活動等とおして、心身の健康の維持向上を図るとともに、社会に貢献する意識を高め、主体的にふくしまの未来を切り拓く、たくましい子どもたちを育成するために「ふくしまキッズパワーアップ事業」を実施した。充実した自然体験活動や震災を学ぶ体験活動等への取組を支援し、心身ともに健康な子どもの育成を図る団体に対し、補助金を交付した。

(2) 事業2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

子どもたちが主体的に復興の発信や震災の教訓の継承等に寄与する社会体験活動を県内外で広く体験することで、子どもたちの「志」を育み、復興・地域創生の担い手を育成するため、「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

(3) 事業3 心のケアが必要な子ども（不登校等）を対象とした自然体験事業

不登校等で不安を抱えている子どもたちを支援するため

に、自然の家を活用した自然体験活動や交流活動等を継続的に提供した。

第2節 社会教育一般

1 社会教育推進体制の充実

(1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日 時 令和5年4月7日(金)

場 所 中町ビル

第2回 日 時 令和6年2月9日(金)

場 所 あづま荘

(2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、自然の家へ社会教育主事の配置を求めるなど設置促進に努めた。

(3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

(4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

2 社会教育施設の整備充実

(1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実を図るとともに、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

(2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

3 社会教育関係職員の研修

(1) 公民館職員研修会

ア 期日 令和5年5月26日(金)、31日(水)

イ 会場 オンライン研修、参集研修(男女共生センター)

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者及び社会教育関係者

エ 参加者数 26日74名、31日71名

オ 講師 岡山県岡山市立京山公民館長 内藤 元久

福島大学人間発達文化学類特任教授 天野 和彦

福島県男女共生センター館長 千葉 悦子

白石市市民経済部まちづくり支援係長 佐々木さつき

(2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 令和5年7月31日(月)～8月1日(火)

イ 会場 オンライン研修、参集研修(コミュタン福島)

ウ 参加対象 市町村教育委員会生涯学習・社会教育担当者、社会教育主事、公民館主事、社会教育委員、社会教育指導員、公民館運営審議会委員、ボランティア実践者、地域コーディネーター等の社会教育に関心のある県民、過去に社会教育主事講習を受講した方等

エ 参加者数 7月31日40名、8月1日24名

オ 講師

NPO法人きらりよしじまネットワーク事務局長 高橋 由和

一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事 廣瀬 隆人

福島大学人間発達文化学類特任教授 天野 和彦

4 社会教育研究集会

(1) 主催 福島県市町村社会教育委員連絡協議会

一般社団法人全国社会教育委員連合

(2) 期日 令和5年9月28日(木)～29日(金)

(3) 開催地 南会津町 御蔵入交流館

(4) 内容 令和5年度福島県社会教育研究集会

ア 1日目 9月28日(木)

アトラクション、表彰式、基調講演、県の行政説明を実施した。

イ 2日目 9月29日(金)

分科会(4分科会)を実施した。

5 社会教育指導員の設置

(1) 設置数

(単位：人)

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
社会教育指導員数	36	10	11	48	8	11	6	130

(2) 福島県市町村社会教育指導員研修会(年2回)

ア 第1回

(ア) 期日 令和5年5月11日(木)

(イ) 会場 郡山市立中央公民館

(ウ) 参加者数 118名

イ 第2回

(ア) 期日 令和5年10月12日(木)

(イ) 会場 喜多方プラザ文化センター

(ウ) 参加者数 110名

6 社会教育主事の市町村派遣

※ 平成22年度より派遣していない。

7 社会教育研修会

(1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

(2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

(3) 期日・会場

域内	期日	実施市町村等	参加者
県北	7月5日	二本松市	13名
	10月4日	本宮市	3名
県中	9月21日	平田村	5名
	1月17日	石川町	5名
県南	9月4日	棚倉町	15名
	10月5日	埴町	11名
	12月15日	鮫川村	15名
会津	10月13日	北塩原村	6名
	11月7日	三島町	4名
	11月29日	会津若松市	28名
	1月25日	喜多方市	40名
南会津	10月24日	下郷町	18名
	12月6日	南会津町	21名
相双	6月6日	相馬市	12名
	10月11日	新地町	10名
	10月25日	葛尾村	6名
いわき	5月16日	いわき市	46名
	5月17日	いわき市	38名
	5月18日	いわき市	37名

合計 19か所 参加者 333名

8 福島県公民館研究集会

(1) 期日 令和5年10月3日(火)

(2) 参加対象 公民館職員等

(3) 会場 埴町中央公民館

9 社会教育職員研修派遣

(1) 東北大学社会教育主事講習

ア 主催 東北大学教育学部

イ 期日 令和5年6月13日(火)～8月8日(火)

ウ 受講者数 13名

(2) 国立教育政策研究所主催講習

ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 令和5年7月11日(火)～8月18日(金)

b B講習 令和6年1月12日(金)～2月16日(金)

(ウ) 受講者数

a A講習 1名

b B講習 4名

イ 専門講座等

講座名	期間	受講者数
公民館職員専門講座	11月16日(木)～21日(火)	2

10 出版資料

資料名	部門	規格	頁数	広報手段
社会教育 No.344	社会教育	A4	11	Web掲載

第3節 地域コミュニティの再生

1 地域学校協働本部事業

(1) 目的

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校と地域が相互に連携・協力を進めるとともに、互いの役割を明確に認識し対等な協働関係を築くことにより、社会総がかりでの教育の実現を目指す。

(2) 県事業

ア 評価・検証委員会の設置

第1回 令和5年7月27日(木)

第2回 令和5年11月28日(火)

第3回 令和6年3月5日(火)

イ 推進委員会の開催

令和6年1月26日(金)

ウ 地域学校協働研修会の実施 参加者計 198名

【県北】 令和5年11月1日(水) 27名

【県中】 令和5年7月27日(木) 30名

【県南】 令和5年12月20日(水) 31名

【会津】 令和5年8月3日(木) 45名

【南会津】 令和5年5月2日(火) 36名

【相双】 令和5年12月19日(火) 29名

エ 地域学校協働活動事業推進フォーラムの実施

(ア) 期日：令和6年2月15日(木)

(イ) 会場：ビッグパレットふくしま

(ウ) 参加者数：125名

(エ) 内容

・実践発表：地域学校協働活動の取組

榎葉町地域学校協働センター長 猿渡 智衛

・実践発表：家庭教育支援活動の取組

国見町教育委員会生涯学習課主査 鈴木 智衣

・実践発表：特別支援学校における地域連携の取組

福島県立会津支援学校校長 加藤 香洋

・パネルディスカッション

モデレータ

郡山ふれあい科学館 特定事業専門員 吉川 和夫

パネリスト

榎葉町地域学校協働センター長 猿渡 智衛

国見町教育委員会生涯学習課主査 鈴木 智衣

福島県立会津支援学校長 加藤 香洋
 アドバイザー
 文部科学省総合教育政策局CSマイスター
 ふくしま学校と地域の未来研究所代表 安齋 宏之

(3) 市町村等事業

41 の市町村（川俣町、国見町、二本松市、本宮市、大玉村、須賀川市、鏡石町、天栄村、石川町、田村市、三春町、小野町、白河市、西郷村、矢吹町、棚倉町、塙町、矢祭町、鮫川村、会津若松市、猪苗代町、喜多方市、西会津町、会津坂下町、湯川村、柳津町、会津美里町、三島町、金山町、南会津町、下郷町、只見町、相馬市、南相馬市、浪江町、葛尾村、双葉町、富岡町、川内村、楡葉町、広野町）と1 NPO に59 の地域学校協働本部が設置され実施した。

2 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

(1) 目的

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館（あづま号）の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

(2) 内容

- ア 震災及び原発事故関連資料収集
資料収集件数 15,552 件（累計）
- イ 被災地図書館支援事業
移動図書館（あづま号）による資料貸出
稼働 20 回 貸出 3,983 冊
（実施場所 楡葉町、富岡町ほか 計 32 か所）

第4節 家庭教育

地域でつながる家庭教育応援事業

1 目的

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTA、企業と連携し、親自身が学ぶ機会の充実を図る。また、各地域で活躍する家庭教育支援者の養成・育成をする研修会を実施するとともに、子育てに不安や悩みを抱える家庭に対し個別かつ継続的に支援を行う「家庭教育支援チーム」の登録・研修を行い、地域や関係機関と連携した家庭教育の支援体制の構築を図る。

2 家庭教育応援プロジェクト

- ア 福島県地域家庭教育推進協議会
第1回 令和5年5月30日(火)
第2回 令和6年2月19日(月)
- イ 地域家庭教育推進各地区ブロック会議
各教育事務所域内（7地区）
- ウ 家庭教育応援企業推進活動
連携企業数
※（ ）内は令和6年3月31日現在の連携企業数の計

県北地区	4社	(192社)
県中地区	2社	(249社)
県南地区	0社	(73社)
会津地区	1社	(156社)
南会津地区	0社	(66社)
相双地区	0社	(10社)
いわき地区	0社	(317社)
計	7社	(1,063社)

エ 親子の学び応援講座

【県北地区】

- ・川俣町PTA連絡協議会 97名
令和5年11月21日(火)
- ・福島市小中学校PTA連合会 81名
令和5年12月9日(土)

【県中地区】

- ・須賀川市立白方小学校PTA 75名
令和5年6月30日(金)
- ・玉川村立玉川第一小学校・須釜小学校PTA 367名
令和5年10月28日(土)

【県南地区】

- ・中島村立吉子川小学校PTA 209名
令和5年9月2日(土)
- ・矢吹町立三神小学校PTA 46名
令和5年9月8日(金)

【会津地区】

- ・会津美里町連合PTA 40名
令和5年12月19日(火)

【南会津地区】

- ・楡枝岐村立楡枝岐小・中学校PTA 38名
令和5年6月26日(月)
- ・下郷町立下郷中学校PTA 160名
令和5年7月12日(水)

【相双地区】

- ・楡葉町立楡葉小学校PTA 28名
令和6年1月26日(金)

【いわき地区】

- ・いわき市立江名中学校PTA 156名
令和5年7月4日(火)
- ・いわき市立勿来第二小学校PTA 80名
令和5年11月2日(木)

3 家庭教育応援リーダー育成事業

- ア 家庭教育支援チームスキルアップ研修会
第1回 令和5年12月18日(月) 33名
第2回 令和6年3月6日(水) 35名
 - イ 家庭教育支援者地区別研修 7地区 242名
- 【県北地区】**
令和5年8月1日(火)自由民主福島会館中町ビル 17名
- 【県中地区】**
令和5年12月2日(土)郡山市労働福祉会館 42名

【県南地区】

令和5年11月14日(火)白河市表郷公民館 24名

【会津地区】

令和5年7月27日(木)会津若松市北会津公民館 43名

【南会津地区】

令和5年8月5日(土)南会津町御蔵入交流館 38名

【相双地区】

令和6年1月25日(木)小高生涯学習センター 26名

【いわき地区】

令和5年10月20日(金)いわき市文化センター 52名

第5節 青少年教育

1 福島県地域学校協働本部

(1) 目的

青少年及びその保護者の教育活動等を支援するボランティア制度を整備し、学校・家庭・地域における体験活動やボランティア活動の充実を図るとともに、学校と地域が連携したすべての教育活動を一層効果的・効率的に展開することにより、青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むことを目的とする。

(2) 内容

ア 県本部の設置

(ア) 構成

- ・本部長（政策監）
- ・副本部長（教育総務課長）
- ・事務局長（社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事兼指導主事）

(イ) 内容

- ・「学習支援等ボランティア人材バンク」の管理と学習支援等ボランティア等(以下「ボランティア」という。)の登録促進に関する事
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関する事
- ・実践事例などの情報収集や情報提供、実施状況調査に関する事
- ・地域本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事

イ 地域本部の設置

(ア) 構成

- ・本部長（教育事務所長）
- ・副本部長（次長兼総務社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

(イ) 内容

- ・公民館及び学校の訪問指導に関する事
- ・ボランティア人材の発掘と「学習支援等ボランティア人材バンク」の活用に関する事
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関する事
- ・市町村本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事
- ・各学校（地域学校協働推進委員会等）との連絡調整

に関する事

- ・地方振興局（復興支援・地域連携室を含む）との連絡調整に関する事

ウ 市町村本部の設置

(ア) 構成

- ・各市町村内においては、自主的に地域学校協働本部・市町村本部を設置する。
- ・各市町村本部の人数は各本部の計画による。

(イ) 内容

- ・ボランティア活動を推進するための、情報提供・相談及びコーディネートに関する事
- ・各種ボランティアの登録や活用の推進及び活用状況の把握に関する事
- ・域内各学校との連携に関する事

エ 「地域学校協働推進委員会」の設置

(ア) 構成

- ・各学校内に地域学校協働推進委員会を設置する。
- ・地域学校協働推進委員会の組織は各学校の計画による。

(イ) 内容

- ・学校と地域が連携した取組の調整に関する事
- ・学校と地域が連携した取組の連絡や情報収集に関する事
- ・学校と地域が連携した取組の充実に関する事
- ・福島県地域学校協働本部事業における地域学校協働推進委員会に関する事

オ 「学習支援ボランティア人材バンク」の管理

学校や地域における青少年の学習活動や体験活動、児童生徒が行うボランティア活動を支援する団体及び人材の登録を行う。

2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

(1) 目的

日常生活や自然・社会体験活動などの共通体験を通して感じた思いや願い、震災を乗り越えてきた体験や、ふくしまへの想いなどについて、子どもと大人あるいは子ども同士のペアで、十七音で綴った作品を県内外から募集し、広く発信することで、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

(2) 内容

ア 応募期間 令和5年6月13日(火)～9月7日(水)

イ 応募総数 41,678組

ウ 第一次審査 令和5年9月19日(火)～29日(金)

エ 第二次審査 令和5年10月23日(月)あづま荘

オ 最終審査 令和5年11月8日(水)福島県庁舟場分室

カ 表彰式 令和5年12月9日(土)

キ 入賞数 キョウワグループ・テルサホール(福島テルサ)

絆部門・ふるさと部門
最優秀賞各5組、優秀賞各5組、
佳作各10組

ク 語り部から聞く震災「ふるさとの今と未来」 希望する学校に講師（語り部）を派遣し実施 9校 936名

(ア) 令和5年6月30日(金)

伊達市立大田小学校 参加人数 30名

講師 子どもに音楽を贈る会 佐藤 日向

(イ) 令和5年7月3日(月)

三春町立岩江小学校 参加人数 52名

講師 NPO法人富岡町3.11を語る会 渡辺 好

(ウ) 令和5年7月6日(木)

南相馬市立鹿島小学校 参加人数 64名

講師 いわき語り部の会 石塚 洋悦

(エ) 令和5年7月7日(金)

郡山市立明健中学校 参加人数 275名

講師 NPO法人富岡町3.11を語る会 渡辺 好

(オ) 令和5年7月11日(火)

塙町立塙小学校 参加人数 55名

講師 NPO法人富岡町3.11を語る会 渡辺 好

(カ) 令和5年7月11日(火)

白河市立白河第二中学校 参加人数 171名

講師 NPO法人富岡町3.11を語る会 渡辺 好

(キ) 令和5年7月11日(火)

会津美里町立高田小学校 参加人数 162名

講師 會空 庄子ヤウ子

(ク) 令和5年7月13日(木)

南会津町立館岩中学校 参加人数 25名

講師 NPO法人富岡町3.11を語る会 渡辺 好

(ケ) 令和5年7月14日(金)

浅川町立浅川小学校 参加人数 102名

講師 NPO法人富岡町3.11を語る会 渡辺 好

(3) 広報・普及活動

ア 募集・応募

県内各保育所、認定こども園、幼稚園、小・中学校、高等学校、義務教育学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページ、社会教育課 Twitter に掲載した。

イ 事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、作品集の作成、全応募者、後援団体等への作品集配布や社会教育課 note、YouTube、Twitter、Instagram、県庁パネル展示等により紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

第6節 成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

第7節 子どもの読書活動推進

ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

1 福島県子ども読書活動推進会議

【第1回】令和5年6月23日(金)

ふくしま中町会館 6階 特別会議室

【第2回】令和6年2月7日(水)

ふくしま中町会館 6階 特別会議室

ア 目的

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

イ 子ども読書推進会議委員

氏名	職業等	区分
高野 保夫	国立大学法人福島大学名誉教授	学識経験者
鈴木 進一	福島県高等学校PTA連合会副会長	社会教育関係者
橋本ゆかり	福島県学校図書館協議会長	学校図書館関係者
佐藤 真紀	南相馬市立中央図書館資料サービス係長	公立図書館等関係者
遠藤貴美子	家庭教育インストラクター	家庭教育関係者
齋藤 睦	つきだておはなし会	読書活動に係るボランティア団体関係者
桑原 真希	平田村立ひらたこども園保育教諭	保育所・幼稚園等の関係者

2 読書活動支援者育成事業

【県北地区】 令和5年7月1日(土)

福島県自治会館 受講者30名

【県中地区】 令和5年6月20日(火)

郡山市労働福祉会館 受講者53名

【県南地区】 令和5年10月17日(火)

新自信ビル(白河市) 受講者43名

【会津地区】 令和5年7月4日(火)

会津若松市文化センター 受講者61名

【南会津地区】 令和5年8月22日(火)

御蔵入交流館(南会津町) 受講者33名

【相双地区】 令和5年7月28日(金)

環境放射線センター(南相馬市) 受講者45名

【いわき地区】 令和5年6月13日(火)

いわき市文化センター 受講者42名

3 読書活動推進委託事業

○「発達段階に応じた読書活動研修会」

期日 令和5年10月14日(土)

場所 ユーパル矢祭

受講者 167名

内容 発達段階に応じた読書研修会

ポスターセッション

平田村立ひらたこども園主任保育教諭 桑原 真希

郡山市立富田東小学校学校司書 遠藤広美

福島県立会津西陵高等学校主任学校司書 阿部 多喜子

矢祭町もったいない図書館館長 緑川 宏子
統括 福島大学名誉教授 高野 保夫
体験・演習

- ・ユールパル矢祭 もったいない文庫、本の交換スタンド、ワークショップ開催の展示
- ・もったいない図書館 図書館・キャラバンカー見学、手作り絵本コンクール展示
- ・矢祭小学校 図書館（メディアセンター）見学、子ども司書、としよ部の紹介

講演 「乳幼児期から高校期までの切れ目の無い読書活動のために」

学習院大学文学部教育学科教授 秋田 喜代美

○「学校司書・図書館司書等を対象としたオンライン研修会」

期日 令和6年1月23日(火) 参加人数 131名

※ オンデマンド総視聴回数 404回

講義 「子どもの視点について」

埼玉県立飯能高等学校主任司書 湯川 康宏

「デジタル社会への対応について」

長野県高森町子ども読書支援センター司書 宮澤 優子

「多様な子どもたちについて」

星槎大学特任教授 藤堂 栄子

「学校と公立図書館との連携について」

新潟市学校図書館支援センター主任 渡邊 実和

4 情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」

ア 地区予選会(高校生のみ) 発表者 42名 観戦者 272名

【会津地区】 令和5年9月2日(土)

御蔵入交流館(南会津町) 発表者 8名 観戦者 83名

【中通り地区】 令和5年9月3日(日)

パルセいいざか(福島市) 発表者 17名 観戦者 80名

【浜通り地区】 令和5年9月30日(土)

いわき市文化センター(いわき市) 発表者 17名 観戦者 109名

イ 県大会

期日 令和5年11月25日(土)

場所 とうほう・みんなの文化センター

参加者 発表者 20名(中学生 15名、高校生 5名)

観戦者 202名

【中学生の部】

チャンプ本 「アリス殺し」

南会津町立田島中学校 細井 みず保

準チャンプ本 「成瀬は天下を取りに行く」

二本松市立二本松第二中学校 佐藤 梨乃

優秀賞 「夢をかなえるゾウ0」

白河市立表郷中学校 辻村 幸太郎

優秀賞 「成瀬は天下を取りに行く」

下郷町立下郷中学校 佐々木 優空

【高校生の部】

チャンプ本 「パールの正しい使い方」

福島県立四倉高等学校 松本 望愛

準チャンプ本 「熱帯」

福島県立磐城高等学校 渡邊 奏太

優秀賞 「岸辺露伴は倒れない」

福島県立若松商業高等学校 馬場 侑大

優秀賞 「人魚の眠る家」

福島県立あさか開成高等学校 横田 塔吾

優秀賞 「三日間の幸福」

福島県立白河旭高等学校 鈴木 珂琳

【講演】

「ビブリオバトルを通して『育つ』とは」

立命館大学情報理工学部教授 谷口 忠大

第8節 ユネスコ活動

1 ユネスコ協会事務局一覧

協会名	会長名	事務局	事務局長	設立年月日
須賀川地方ユネスコ協会	八木沼智恵子	須賀川市教委生涯学習スポーツ課内 須賀川市八幡町135	須藤 友子	S46. 9. 13
いわきユネスコ協会	横山 貞夫	いわき市教委生涯学習課内 いわき市堂根町4-8	沢 宏一	S51. 10. 23
郡山ユネスコ協会	倉又 晴男	学校法人尚志学園本部内 郡山市大槻町字坦ノ腰2	橋本 裕	S53. 1. 24
白河ユネスコ協会	小野 利廣	白河市教委生涯学習スポーツ課内 白河市八幡小路7-1	大熊 頌太	S53. 11. 19
福島ユネスコ協会	佐藤 一好	福島市中央学習センター内 福島市松木町1-7	宗川 孝	S55. 7. 19
会津ユネスコ協会	星 憲隆	会津若松市教委生涯学習センター内 会津若松市栄町3-50	石田 明夫	S55. 11. 16
郡山次世代ユネスコ協会	鈴木 淳弥	学校法人こおりやま東都学園本部気付 郡山市函景2-9-3	田中 良季	H28. 1. 16
福島県ユネスコ連絡協議会	小野 利廣	福島市方木田字辻51-12 矢吹 稔宅	矢吹 稔	S56. 12. 5

2 福島県ユネスコ活動研修会

令和5年11月21日(火) 福島市 福島市北信学習センター 参加者 34名

第9節 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

1 ふくしまキッズパワーアップ事業

(1) 内容

対象者 福島県内の小中学校及び特別支援学校小学部・中学部、福島県内の小中学生が所属する社会教育団体

対象期間 令和5年4月1日(土)～令和6年2月29日(木)

実施内容 ア 小中学生を対象とした宿泊を伴う自然体験活動及び震災を学ぶ活動等多様な体験活動への補助

イ 社会教育団体が行う小中学生を対象とした長期宿泊型(3泊4日以上)の自然体験活動及び震災を学ぶ活動等多様な体験活動への補助

補助について ①活動費、②交通費、③宿泊費について、補助対象経費の80%以内か100万円の低い方

(2) 実績

ア 小・中学校自然体験活動支援事業

件数：167件 参加者：8,729名 (うち 子ども7,887名)

イ 社会教育団体自然体験活動支援事業

件数：0件 参加者：0名 (うち 子ども0名)

2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

(1) 内容

事業1 元気を届ける交流・体験事業

事業2 今を知り思いを伝える事業

(2) 実績

採択団体 29団体 (事業1 2団体、事業2 27団体)

(3) 成果発表会

日時 令和6年1月20日(土) 参加者 162名

場所 郡山市立中央公民館

3 心のケアが必要な子どもを対象とした事業

(1) 内容

対象者 県内の不登校等で不安を抱えている子ども及び引率者等

対象期間 令和5年5月19日(金)～令和6年2月21日(水)

実施内容 県内3自然の家(郡山・会津・いわき)を会場に、不登校等で不安を抱えている子どもたちを対象に、自然体験活動や交流体験活動等を実施する。

(2) 実績 計 18回実施 合計 参加者 264名

○郡山自然の家

実施日	主な内容	参加者数
5月19日(金)	農業体験、自然散策	児童生徒、保護者 8名
10月13日(金)	農業体験、自然散策	児童生徒、保護者 27名
10月28日(土)	自然散策、職業体験等	児童生徒、保護者 7名
12月10日(日)	クリスマスリースづくり	児童生徒、保護者 7名
1月28日(日)	バレンタインチョコレートづくり	児童生徒、保護者 10名

○会津自然の家

実施日	主な内容	参加者数
7月8日(土)	ペットボトルロケット、カヌー	児童生徒、保護者 12名
9月19日(火)	野外クッキング体験、カヌー	児童生徒、保護者 15名
9月30日(土)～10月1日(日)	ツリーイング体験	児童生徒、保護者 12名
11月5日(日)	そば打ち体験、自然散策	児童生徒、保護者 10名
11月18日(土)	ミニパフェづくり体験、工作体験	児童生徒、保護者 16名
12月10日(日)	ケーキづくり体験、焼き芋体験	児童生徒、保護者 17名
1月28日(日)	見学学習、自然観察	児童生徒、保護者 14名
2月21日(水)	自然散策、フォトフレームづくり体験	児童生徒、保護者 21名

○いわき海浜自然の家

実施日	主な内容	参加者数
5月26日(金)	磯遊び、海釣り、草木染め	児童生徒、保護者 20名
9月17日(日)	磯遊び、海釣り、ペンダントづくり体験	児童生徒、保護者 6名
10月25日(水)	野外炊飯、クラフト活動	児童生徒、保護者 17名
11月18日(土)・19日(日)	オリエンテーリング、ニュースポーツ、宿泊体験等	児童生徒、保護者 31名
2月2日(金)	餅つき体験、ニュースポーツ、豆まき体験	児童生徒、保護者 14名

第10節 公民館等社会教育施設

1 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

(1) 図書館の設置状況

ア 県立

名称	所在地	電話番号	設置者
福島県立図書館	福島市森合字西養山1	024-535-3218	福島県

イ 市町村立

名称	所在地	電話番号	設置者
福島市立図書館	福島市松木町1-1	024-531-6551	福島市
福島市西口ライブラリー	福島市三河南町1-20	024-525-4023	福島市
福島市子どもライブラリー	福島市早稲町1-1(こむこむ内)	024-526-4200	福島市
伊達市立図書館	伊達市箱崎字川端7	024-551-2132	伊達市
国見町図書館	国見町藤田字観月台15	024-585-2676	国見町
二本松市立二本松図書館	二本松市本町1丁目102番地	0243-23-5082	二本松市
二本松市立岩代図書館	二本松市小浜字藤町242番地	0243-55-3255	二本松市
本宮市立しらさわ夢図書館	本宮市白岩字堤崎500	0243-44-2112	本宮市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
郡山市中央図書館	郡山市麓山一丁目 5-25	024-923-6601	郡山市
郡山市希望ヶ丘図書館	郡山市希望ヶ丘 1-5	024-961-1600	郡山市
郡山市安積図書館	郡山市安積一丁目 38	024-946-8850	郡山市
郡山市富久山図書館	郡山市富久山町福原字泉崎 181-1	024-921-0030	郡山市
郡山市中央図書館 田村分館	郡山市田村町岩作字穂多礼 40-3	024-955-3842	郡山市
郡山市中央図書館 喜久田分館	郡山市喜久田堀之内字下河原 1	024-959-2205	郡山市
郡山市中央図書館 緑ヶ丘分館	郡山市緑ヶ丘東三丁目 1-21	024-944-0001	郡山市
郡山市中央図書館 日和田分館	郡山市日和田町字小堰 23-4	024-958-2352	郡山市
郡山市中央図書館 三穂田分館	郡山市三穂田町八幡字東屋敷 6	024-953-2820	郡山市
郡山市中央図書館 中田分館	郡山市中田町下枝字大平 358	024-973-2951	郡山市
郡山市中央図書館 西田分館	郡山市西田町三丁目桜内 259	024-972-2807	郡山市
郡山市中央図書館 大槻分館	郡山市大槻町字中前田 56-1	024-951-1512	郡山市
郡山市中央図書館 熱海分館	郡山市熱海町熱海二丁目 15-1	024-984-2679	郡山市
郡山市中央図書館 湖南分館	郡山市湖南町福良字家老 9390-4	024-983-2543	郡山市
郡山市中央図書館 富田分館	郡山市東三丁目 84 番地	024-951-0260	郡山市
郡山市中央図書館 逢瀬分館	郡山市逢瀬町多田野字南原 3 番地	024-957-2417	郡山市
郡山市中央図書館 片平分館	郡山市片平町字南 7-2	024-957-5730	郡山市
須賀川市中央図書館	須賀川市中町 4-1	0248-75-3309	須賀川市
須賀川市長沼図書館	須賀川市長沼字金町 85	0248-67-2138	須賀川市
須賀川市岩瀬図書館	須賀川市柱田字中地前 22	0248-65-3549	須賀川市
鏡石町図書館	鏡石町旭町 440-6	0248-62-1288	鏡石町
石川町立図書館	石川町字関根 165	0247-26-9136	石川町
浅川町立あさかわ図書館	浅川町大字箕輪字山敷田 75	0247-36-2900	浅川町
古殿町図書館	古殿町大字松川字横川 235	0247-53-2305	古殿町
三春町民図書館	三春町字大町 12-1	0247-62-3375	三春町
小野町ふるさと文化の館	小野町大字小野新町字中通 2	0247-72-2120	小野町
田村市図書館	田村市船引町船引字扇田 19	0247-82-1001	田村市
田村市図書館滝根分館	田村市滝根町神俣字町 48-1	0247-78-2001	田村市
田村市図書館大越分館	田村市大越町上大越字水神宮 62-1 大越行政局内	0247-79-2161	田村市
田村市図書館常葉分館	田村市常葉町常葉字町裏 1	0247-77-2013	田村市
田村市図書館都路分館	田村市都路町古道字本町 33-4	0247-75-2063	田村市
白河市立図書館	白河市道場小路 96-5	0248-23-3250	白河市
白河市立表郷図書館	白河市表郷金山字長者久保 2	0248-32-4784	白河市
白河市立東図書館	白河市東釜子字狐内 47	0248-34-1130	白河市
白河市立大信図書館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
矢吹町図書館	矢吹町本町 165	0248-44-3595	矢吹町
泉崎図書館	泉崎村大字泉崎字館 24-9	0248-53-4779	泉崎村
棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字新町 21-1	0247-33-4342	棚倉町
塙町立図書館	塙町大字塙字栄町 68-6	0247-43-0808	塙町
矢祭もったいない図書館	矢祭町大字東館字石田 25	0247-46-4646	矢祭町
鮫川村図書館	鮫川村大字赤坂中野字新宿 64-1	0247-29-1150	鮫川村
会津若松市立会津図書館	会津若松市栄町 3-50	0242-22-4711	会津若松市
猪苗代町図書館歴史情報館	猪苗代町字古城町 132-7	0242-23-7855	猪苗代町
喜多方市立図書館	喜多方市字柳原 7503-1	0241-22-1855	喜多方市
会津美里町図書館	会津美里町字新布才地 1	0242-54-2911	会津美里町
南会津町図書館	南会津町田島字宮本東 22	0241-62-5522	南会津町
相馬市図書館	相馬市中村字塚ノ町 65-16	0244-37-2630	相馬市
新地町図書館	新地町谷地小屋字樋掛田 40-1	0244-62-5031	新地町
南相馬市立中央図書館	南相馬市原町区朝日町二丁目 7-1	0244-23-7789	南相馬市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
南相馬市立鹿島図書館	南相馬市鹿島区寺内字迎田 22-1	0244-46-5116	南相馬市
南相馬市立小高図書館	南相馬市小高区本町二丁目 89-1	0244-44-3049	南相馬市
浪江町図書館	浪江町権現堂字矢沢町 40-1	0240-23-5613	浪江町
大熊町図書館 (休館中)	大熊町大川原南平 1717	0240-23-7532	大熊町
富岡町図書館	富岡町大字本岡字王塚 622-1	0240-21-3665	富岡町
いわき市立いわき総合図書館	いわき市平字田町 120	0246-22-5552	いわき市
いわき市立内郷図書館	いわき市内郷綴町榎下 40-1	0246-45-1030	いわき市
いわき市立小名浜図書館	いわき市小名浜愛宕上 7-2	0246-54-9257	いわき市
いわき市立常磐図書館	いわき市常磐関船町作田 1-1	0246-44-6218	いわき市
いわき市立勿来図書館	いわき市植田町南町一丁目 2-2	0246-62-7431	いわき市
いわき市立四倉図書館	いわき市四倉町字東一丁目 50	0246-32-5980	いわき市

ウ 法人

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
クローバー子供図書館	郡山市開成 6 丁目 346-1	024-932-2118	公益財団法人金森和心会

(2) 博物館の設置状況

ア 登録博物館

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	登録年月日
福島県立美術館	福島市森合字西養山 1	024-531-5511	福島県	美術博物館	S59. 7. 16
福島県立博物館	会津若松市城東町 1-25	0242-28-6000	福島県	総合博物館	S61. 11. 28
須賀川市立博物館	須賀川市池上町 6	0248-75-3239	須賀川市	歴史博物館	S46. 7. 10
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町 4-4	0246-25-1111	いわき市	美術博物館	S59. 9. 3
郡山市立美術館	郡山市安原町字大谷地 130-2	024-956-2200	郡山市	美術博物館	H5. 1. 20
南相馬市博物館	南相馬市原町区牛来字出口 194	0244-23-6421	南相馬市	総合博物館	H8. 5. 9
野口英世記念館	猪苗代町大字三ツ和字前田 81	0242-85-7867	(公財)野口英世記念会	歴史博物館	S29. 10. 21
会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田 33-1	0242-65-2600	会津民俗館	歴史博物館	S55. 10. 3
白虎隊記念館	会津若松市一箕町大字八幡字弁天下 33	0242-24-9170	(一財)白虎隊記念館	歴史博物館	S63. 6. 30
奥会津博物館	南会津町糸沢字西沢山 3692-20	0241-66-3077	南会津町	歴史博物館	H16. 6. 1
諸橋近代美術館	北塩原村大字桧原字剣ヶ峰 1093-23	0241-37-1088	(公財)諸橋近代美術館	美術博物館	H11. 8. 17
藤田記念博物館	白河市二番町 46-1	0248-24-1780	(公財)藤田教育振興会	美術博物館	S54. 9. 1
郡山開成学園生活文化博物館	郡山市開成 3 丁目 25 番 2 号	024-932-4848	学校法人郡山開成学園	歴史博物館	R5. 10. 4

イ 博物館相当施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	指定年月日
安積歴史博物館	郡山市開成 5-25-63	024-938-0778	(公財)安積歴史博物館	歴史博物館	S61. 3. 17
須賀川市立博物館	須賀川市長沼字門口 186	0248-57-2030	須賀川市	歴史博物館	H7. 11. 2
会津武家屋敷会津歴史資料館	会津若松市東山町大字石山字院内 1	0242-28-2525	(株)会津武家屋敷	歴史博物館	S56. 11. 25
龍が城美術館 (休館中)	いわき市平字旧城跡 27-1	0246-22-1601	(一財)白龍会	美術博物館	S30. 2. 10
やないづ町立齋藤清美術館	柳津町柳津字下平乙 187	0241-42-3630	柳津町	美術博物館	H11. 9. 28
磐梯山噴火記念館	北塩原村桧原字剣ヶ峰 1093-36	0241-32-2888	(株)ゴールドハウス目黒	科学博物館	H5. 7. 1
會津藩校日新館	会津若松市河東町南高野字高塚山 10 番地	0242-75-2525	(株)会津武家屋敷	歴史博物館	H12. 11. 28
はじまりの美術館	猪苗代町新町 4873	0242-62-3454	(福)安積愛育園	美術博物館	H28. 12. 6

ウ 類似施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
ふくしま海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町 50	0246-73-2525	福島県
福島県文化財センター白河館	白河市白坂一里段 86	0248-21-0700	福島県
福島県歴史資料館	福島市春日町 5-54	024-534-9195	福島県
福島市郷土資料室	福島市松山町 39-1	024-563-7858	福島市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内	024-593-5249	福島市
福島市古閑裕而記念館	福島市入江町1-1	024-531-3012	福島市
福島市写真美術館	福島市森合町11-36	024-523-1201	福島市
宮畑遺跡史跡公園体験学習施設	福島市岡島字宮田78	024-573-0015	福島市
羽山の森美術館	川俣町大字西福沢字山柁内20	024-566-3367	川俣町
伊達市梁川美術館	伊達市梁川町字中町10	024-527-2656	伊達市
伊達市保原歴史文化資料館	伊達市保原町大泉字宮脇265	024-575-1615	伊達市
霊山こどもの村 遊びと学びのミュージアム	伊達市霊山町石田字宝司沢9-1	024-589-2211	伊達市
二本松市歴史資料館	二本松市本町1-102	0243-23-3910	二本松市
二本松市智恵子記念館	二本松市油井字漆原町36	0243-22-6151	二本松市
二本松市大山忠作美術館	二本松市本町2-3-1	0243-24-1217	二本松市
あだたらふるさとホール	大玉村玉井字西庵183	0243-48-2569	大玉村
本宮市立歴史民俗資料館	本宮市字南町裡130	0243-33-2546	本宮市
本宮市白沢ふれあい文化ホール	本宮市白岩字堤崎494-44	0243-44-3185	本宮市
郡山市開成館	郡山市開成3-3-7	024-923-2157	郡山市
郡山市歴史資料館	郡山市麓山1-8-3	024-932-5306	郡山市
郡山市こおりやま文学の森資料館	郡山市豊田町3-5	024-991-7610	郡山市
郡山市ふれあい科学館	郡山市駅前2-11-1 ビッグアイ20F~24F	024-936-0201	郡山市
大安場史跡公園	郡山市田村町大善寺大安場160	024-965-1088	郡山市
ふくしまの森の科学体験センター	須賀川市虹の台100	0248-89-1120	須賀川市
鏡石町歴史民俗資料館	鏡石町成田343	0248-62-4323	鏡石町
天栄村ふるさと文化伝承館	天栄村大字大里字八石1-2	0248-81-1030	天栄村
石川町立歴史民俗資料館	石川町字高田200-2	0247-26-3768	石川町
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下287	0247-36-4129	財団法人
浅川町歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地144-6	0247-36-2134	浅川町
三春町歴史民俗資料館	三春町字桜谷5	0247-62-5263	三春町
三春郷土人形館	三春町字大町30	0247-62-7053	三春町
小野町ふるさと文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通2	0247-72-2120	小野町
田村市歴史民俗資料館	田村市船引町船引字四城内前196番地	0247-81-1215	田村市
白河市歴史民俗資料館	白河市中田7-1	0248-27-2310	白河市
小峰城歴史館(旧 白河集古苑)	白河市郭内1-73	0248-24-5050	白河市
中山義秀記念文学館(義秀展示館)	白河市大信町屋字沢田25	0248-46-3614	白河市
白河市大信ふるさと文化伝承館	白河市大信町屋字沢田25	0248-46-3614	白河市
西郷村歴史民俗資料館	西郷村大字小田倉字上野原463	0248-25-0959	西郷村
矢吹町ふるさとの森芸術村	矢吹町大池243-2	0248-42-4506	矢吹町
泉崎資料館	泉崎村大字泉崎字館24-9	0248-53-4777	泉崎村
塙町立あぶくま高原美術館	塙町大字那倉字吉元86-2	0247-42-2510	塙町
矢祭町歴史民俗資料館	矢祭町大字東館字石田25	0247-46-4646	矢祭町
鮫川村歴史民俗資料館	鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作128-4	0247-49-3106	鮫川村
国指定名勝会津松平氏庭園	会津若松市花春町8-1	0242-27-2472	会津若松市
若松城天守閣郷土博物館	会津若松市追手町1-1	0242-27-4005	会津若松市
会津町方伝承館	会津若松市大町2-8-8	0242-22-8686	会津若松市
茶室麟閣	会津若松市追手町1-1	0242-27-4005	会津若松市
会津若松市歴史資料センター	会津若松市城東町2-3	0242-27-2705	会津若松市
アクアマリンいなわしろカワセミ水族館	猪苗代町大字長田字東中丸3447-4	0242-72-1135	猪苗代町
喜多方市美術館	喜多方市字押切2-2	0241-23-0404	喜多方市
喜多方市カイギュウランドたかさと	喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂3163	0241-44-2024	喜多方市
会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台ノ下842	0242-84-1233	会津坂下町
ほっと in やないづ縄文館	柳津町大字柳津字下平乙151-1	0241-41-1077	柳津町

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
からむし工芸博物館	昭和村大字佐倉字上ノ原 1	0241-58-1677	昭和村
旧南会津郡役所	南会津町田島字丸山甲 4681	0241-62-3848	南会津町
奥会津博物館南郷館	南会津町界字川久保 552	0241-73-2829	南会津町
奥会津博物館伊南館	南会津町青柳字久川 24	0241-76-2071	南会津町
奥会津博物館館岩館	南会津町松戸原 55	0241-78-2110	南会津町
檜枝岐村歴史民俗資料館	檜枝岐村字下ノ原 887-1	0241-75-2342	檜枝岐村
ただみ・モノとくらしのミュージアム	只見町大倉字窪田 30	0241-86-2175	只見町
相馬市歴史資料収蔵館	相馬市中村字北町 51-1	0244-37-2191	相馬市
埴谷・島尾記念文学資料館	南相馬市小高区本町 2丁目 89-1	0244-66-1011	南相馬市
葛尾村郷土文化保存伝習館	葛尾村落合字落合 16	0240-29-2008	葛尾村
双葉町歴史民俗資料館（休館中）	双葉町大字新山字本町 27-1	0240-33-4763	双葉町
大熊町民俗伝承館（休館中）	大熊町大字下野上字大野 669-3	0240-32-3011	大熊町
とみおかアーカイブ・ミュージアム	富岡町大字本岡字王塚 760-1	0240-25-8644	富岡町
檜葉町歴史資料館	檜葉町大字北田字鐘突堂 5-4	0240-25-2492	檜葉町
いわき市石炭・化石館	いわき市常磐湯本町向田 3-1	0246-42-3155	いわき市
いわき市勿来関文学歴史館	いわき市勿来関町長沢 6-1	0246-65-6166	いわき市
いわき市アンモナイトセンター	いわき市大久町大久字鶴房 147-2	0246-82-4561	いわき市
いわき市考古資料館	いわき市常磐藤原町手這 50-1	0246-43-0391	いわき市
いわき市立草野心平記念文学館	いわき市小川町高萩字下夕道 1-39	0246-83-0005	いわき市
いわき市草野心平生家	いわき市小川町上小川字植ノ内 6-1	0246-83-2901	いわき市
いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野 14-16	0246-29-2230	いわき市
桑折町種徳美術館（休館中）	桑折町字陣屋 12	024-582-5507	桑折町
喜多方蔵品美術館	喜多方市梅竹 7294-4	0241-24-3576	私人
大和川酒造北方風土館	喜多方市字寺町 4761	0241-22-2233	私人
原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚 3-183	024-593-0639	公益財団法人
デコ屋敷資料館	郡山市西田町高柴字福内 41	024-971-3900	私人

(3) 青少年教育関係施設の設置状況

ア 県設置

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県郡山自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46	024-957-2111	福島県
福島県会津自然の家	会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1	0242-83-2480	福島県
福島県いわき海浜自然の家	いわき市久之浜町田之網字向山 53	0246-32-7700	福島県

イ 教育施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
国立那須甲子青少年自然の家	西郷村大字真船字村火 6-1	0248-36-2331	独立行政法人
国立磐梯青少年交流の家	猪苗代町字五輪原 7136-1	0242-62-2530	独立行政法人
市町村（条例）設置	※14 施設（別掲）		
他県設置等	※3 施設（別掲）		

《市町村（条例）設置 14 施設》

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県青少年会館	福島市黒岩字田部屋 53-5	024-546-8311	公益財団法人
福島市社会教育会館「立子山自然の家」	福島市立子山字金井作 1	024-597-2951	福島市
福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館	福島市早稲町 1-1	024-524-3131	福島市
霊山子どもの村キャンプ場	伊達市霊山町石田字宝司沢 9-1	024-589-2211	伊達市
郡山市青少年会館	郡山市大槻町字漆棒 82	024-961-8282	郡山市
郡山市少年湖畔の村	郡山市湖南町横沢字村西 112	024-982-2115	郡山市
須賀川市市民の森	須賀川市塩田音森 20	0248-79-2187	須賀川市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
石川町勤労青少年ホーム	石川町字当町 418-1	0247-26-2566	石川町
矢祭山友情の森	矢祭町大字山下字下河原 1-1	0247-46-2162	矢祭町
会津若松市少年の家	会津若松市城東町 15-62	0242-39-1304	会津若松市
会津若松市勤労青少年ホーム	会津若松市城東町 14-52	0242-26-6662	会津若松市
喜多方市勤労青少年ホーム	喜多方市舞台田 3119-1	0241-22-1403	喜多方市
喜多方市勤労青少年体育センター	喜多方市舞台田 3119-1	0241-22-1403	喜多方市
びわ沢原森林公園（休館中）	猪苗代町字琵琶沢原 7095	0242-62-3291	猪苗代町
《他県設置等3施設》			
名 称	所 在 地	電話番号	設置者
さいたま市立館岩少年自然の家	南会津町宮里字向山 2847-1	0241-78-2311	さいたま市
一般財団法人小野田自然塾	東白川郡高町大字片貝字長久木先 384	022-281-8228	一般財団法人
ばんだいふれあいぴあ	北塩原村松原字南黄連沢山 1157-336	0241-33-2567	公益財団法人

2 文化施設の整備充実

(1) 県立美術館の整備充実

常設展・企画展等の充実を図り、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

(2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

(3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

第11節 福島県立図書館

1 概要

福島県立図書館は、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

また、令和4年3月に『福島県立図書館アクションプラン（第4次）』（令和4年度～令和6年度）を策定し、基本理念と4つの目標に基づき、読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

併せて、令和2年2月に策定された「第四次福島県子ども読書活動推進計画」（令和2年度から概ね5年間）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んだ。

(1) 図書館協議会

開催日 令和5年8月31日（木） 於：福島県立図書館 議題等

- ・福島県立図書館の概要について
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第4次）」に係る

令和4年度実績について

- ・令和4年度図書館利用実績について

図書館協議会委員名（令和6年3月31日現在）

[任期：令和5年10月21日～令和7年10月20日]

区分	氏 名	所属団体等（主な役職名等）
学 識 経 験 者	◎井實 充史	福島大学（人間発達文化学類教授）
	三瓶 千香子	桜の聖母短期大学（キャリア教養学科教授 生涯学習センター長・地域連携センター長）
	渡部 育夫	株式会社福島民報社 （編集局長次兼文化部長）
	菅野 隆一	福島民友新聞株式会社 （論説委員会委員長）
	林 文子	公募
	高橋 正人	公募
家庭 教育	佐藤 房枝	福島県家庭教育インストラクター連絡 協議会（会津さざなみの会）
社会 教育	佐藤 美千代	福島県公共図書館協会 （新地町図書館副主幹兼管理係長兼司書）
学 校 教 育 関 係	○中村 充幸	福島県高等学校長協会 （福島県立福島北高等学校長）
	星野 亜紀	福島県中学校長会 （郡山市立逢瀬中学校長）

◎会長 ○副会長

(2) 「福島県立図書館アクションプラン（第4次）」

令和4年度～令和6年度

ア 基本理念

「ふくしまの未来をひらくため、『知の拠点』として県内図書館ネットワークを支え、県民一人ひとりの夢と学びを応援します。」

福島県立図書館は、県民に対する資料の提供（貸出・閲覧）やレファレンス等のサービスの向上に努めます。

また、市町村図書館（未設置自治体にあつては公民館図書室等）の円滑な活動を支援するため、資料を体系的に収集・保存・提供するとともに、市町村間のネットワーク体制の強化に努めます。

さらに、子どもの読書活動を推進し、未来を担う子どもたちが、人生をより深く生きる力を身に付けられるよ

う支援します。

こうした取組により、「知の拠点」として、県民の課題解決を図るとともに、ふくしまの復興を文化・情報面から支え、ふくしまの未来をひらいていくための一翼を担います。

イ 福島県立図書館が目指す4つの目標

基本理念の実現に向けて、「福島県立図書館が目指す4つの目標」を定め、これに向けた取組を進めるとともに、新型コロナウイルス感染症の感染予防、新しい生活様式への対応をふまえ、図書館サービスを①非来館サービス（図書館に行かなくても利用できるサービス）の推進、②デジタル情報の発信、③図書館間ネットワークの強化、の3つの視点から充実させていきます。

(7) 県民のための図書館

福島県立図書館は、資料・情報を収集し、保存し、提供することで、県民の役に立つ図書館を目指すとともに、年齢、障がいの有無などにかかわらず、あらゆる県民が等しく利用できる図書館を目指します。

(4) 子どもたちの今と未来のための図書館

ふくしまの未来を担う子どもたちのために、資料を収集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的・対話的で深い学びを支えることができる図書館を目指します。

(7) 市町村（図書館・公民館等）を支える図書館

県民がどこにいても図書館に親しみ、また、生活、学習、事業などに必要な資料を利用できるように、県内の図書館・公民館・学校を支え、ネットワーク体制を強化し、全県的な図書館活動の振興を目指します。

(1) ふくしまを知ることができる図書館

「ふくしま」の資料・情報を収集し、保存し、発信することで、将来にわたり、いつでも、どこにいても「ふくしま」を知ることができる図書館を目指します。

2 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第4次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

(1) 図書館資料の収集

ア 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

イ 地域資料の収集

福島県に関する資料については新刊書及び古書を購入した。県人著作については新刊書及び旧刊図書の遡及購入により、充実を図った。非売品の資料については出版した個人・団体・機関等への寄贈依頼や、寄贈を呼びかけるチラシを常時館内掲示し県立図書館ホームページにも「図書寄贈のお願い」をトップに表示するなど広報に努めた。

行政資料は各部局へ寄贈依頼を通知したほか、庁内Webで周知を行った。県内公共図書館、公民館にも行政資料の寄贈について協力を呼びかけた。また、「福島県立図書館『福島県行政資料コーナー』のご紹介」のチラシを改訂し、館内配布した。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料についても、新聞等での出版情報収集に努めた。

ウ 地域視聴覚資料の収集

県内で撮影されたものや震災関連の映像資料を収集した。また、保存価値の高い地元新聞のCD-ROM等の資料を継続して収集した。

エ 児童資料・研究資料の収集

(7) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、探究型学習に対応するもの、ユニバーサルデザインや多文化に対応する資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料についても収集した。

(4) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。ほかに子どもの読書や読書環境に関する資料の収集にも努めた。

オ 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や県内図書館の求めに対応できる資料を幅広く継続収集した。

また、当館ホームページを改善し、購読している雑誌を探しやすくした。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

福島県内の明治～平成の地方紙の保存と利用の両立を図るため、平成23年度に構築した「新聞記事閲覧システム」を更改し、複数の利用者・職員が同時に使用できるシステムとした。

カ 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心

に、子どもたちの多様な好奇心に応えることができる児童書や話題性の高い文芸書、生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況 (単位：種)

区 分	購 入	寄贈・他	計
新 聞	25	45	70
雑 誌	218	689	907
官 報 等	3	0	3
合 計	246	734	980

資料受入状況 (単位：冊)

区 分	購 入	寄贈・他	計
一 般 資 料	4,234	1,759	5,993
地 域 ・ 行 政 資 料	875	3,074	3,949
児 童 資 料	1,899	560	2,459
児童図書研究資料	351	97	448
市町村支援資料	1,146	1,141	2,287
合 計	8,505	6,631	15,136

蔵書統計 (資料別・分類別)

(単位：冊)

分 類	区 分	4年度累計	5年度増加	5年度除籍	利用替え	5年度累計
一般資料	0 総 記	32,413	323	2	4	32,738
	1 哲 学	27,557	321	7	8	27,879
	2 歴 史	68,535	741	6	12	69,282
	3 社 会 科 学	114,760	1,647	42	41	116,406
	4 自 然 科 学	40,397	579	2	16	40,990
	5 工 学 ・ 工 業	39,036	455	11	14	39,494
	6 産 業	31,051	351	12	15	31,405
	7 芸 術	44,896	647	10	23	45,556
	8 語 学	10,155	96	1	5	10,255
	9 文 学	97,641	833	15	140	98,599
	計	506,441	5,993	108	278	512,604
地域資料	0 総 記	20,016	293	0	1	20,310
	1 哲 学	3,013	34	0	0	3,047
	2 歴 史	41,946	692	0	13	42,651
	3 社 会 科 学	72,986	1,296	1	1	74,282
	4 自 然 科 学	11,214	230	0	2	11,446
	5 工 学 ・ 工 業	16,828	281	0	0	17,109
	6 産 業	24,436	375	0	0	24,811
	7 芸 術	19,131	310	1	5	191,445
	8 語 学	968	43	0	0	1,011
	9 文 学	30,688	395	2	1	31,082
	計	241,226	3,949	4	23	245,194
児童資料	研 究 資 料	39,636	448	3	1	40,082
	児 童 図 書	128,410	2,459	244	21	130,646
	計	168,046	2,907	247	22	170,728
逐次刊行物	雑 誌	189,074	4,703	157	-10	193,610
	新 聞 合 本	16,158	192	0	0	16,350
	新聞記事ファイル	3,839	0	0	0	3,839
	計	209,071	4,895	157	-10	213,799
特 殊 文 庫	70,280	0	0	0	70,280	
館 内 用 計	1,195,064	17,744	516	313	1,212,605	
市 町 村 支 援 計	58,089	2,287	7,890	-313	52,173	
合 計	1,253,153	20,031	8,406	0	1,264,778	

資料受入状況・推移

(単位：冊)

令和3年度	令和4年度	令和5年度
18,921	15,480	15,136

キ 県民のくらし応援文庫

県民が抱える課題の解決に役立つ図書を整備することを目的に、平成28年度に創設した寄贈制度。令和5年度は、5団体(企業)から合計715冊の寄贈を受けた。

3 館内奉仕

開館日は278日、入館者は152,307人、1日平均548人の利用があった。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、館内利用の制限を緩和し、座席数を増やした。また、前年度に地震被害の復旧工事のため休館期間があったが、令和5年度は、開館日は前年度比で41日増え、入館者数も前年度比に対し3万7千人の増となった。新型コロナウイルス感染症行動制限緩和により、来館者は回復傾向になっている。

入館者数

開館日数	278日
入館者数	152,307人
(1日平均)	548人

入館者数・推移 (単位：人)

令和3年度	令和4年度	令和5年度
134,601	115,329	152,307

(1) 調査相談 (レファレンス)

県内外から、日常生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答した。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けた。総件数は前年度より約600件増加した。また、当館のホームページについては、「蔵書検索」へのアクセスが大きく伸びた。

調査相談件数 (単位：件)

	一般・地域・逐刊資料	児童資料	小計
口頭	6,457	841	7,298
電話	1,148	27	1,175
文書	41	0	41
FAX	13	0	13
電子メール	285	1	286
合計	7,944	869	8,813

調査相談件数・推移 (単位：件)

令和3年度	令和4年度	令和5年度
11,932	8,197	8,813

ホームページアクセス件数 (単位：件)

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
トップページ	190,775	144,742	146,625
蔵書検索	650,242	848,379	875,627
横断検索	28,237	25,768	32,350
デジタルライブラリー	2,931	2,372	2,320
こどものへや	2,783	2,012	1,506
利用案内	11,267	9,391	9,046

注) 令和3年1月より情報ネットワークシステムが新システムへ移行したことにより、ホームページへのアクセスの集計方法が変更となっている。

(2) 館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン(第4次)」の活動指針に則り、図書館資料の提供や各種事業の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

さらに、広域な県土を有する本県の実情を踏まえ、予約資料の受取館指定サービス等、Web環境を活用した利用の充実を図った。

加えて新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、前年度に続き閲覧席の削減や定期的な換気などの対策と咳エチケット等の呼びかけに努めたほか、返却された資料や、利用者が使用する端末、カウンター周り等のアルコール消毒を実施した。

(3) 館外個人貸出

貸出冊数は172,763冊、貸出者数は延べ43,158人で前年度から増加した。登録者数は13,535人であった。

直接自宅へ資料搬送する資料宅配サービス(有料)の利用は、3件、17冊と前年度比で件数、冊数とも減少した。

館外個人貸出状況

分類	冊数(冊)	構成比(%)
総記	2,038	1.2
哲学・宗教	4,671	2.7
歴史・地理	7,506	4.3
社会科学	11,765	6.8
自然科学	7,858	4.5
工学・工業	7,420	4.3
産業	4,107	2.4
芸術	7,793	4.5
語学	1,510	0.9
文学	23,212	13.4
地域資料	7,013	4.1
新聞雑誌	7,395	4.3
小計	92,288	53.4
児童	80,475	46.6
合計	172,763	100.0

館外個人貸出・状況・推移

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
冊数(冊)	173,191	147,545	172,763
のべ人数(人)	42,551	35,814	43,158

館外個人貸出登録者数(登録有効期間3年)(単位：人)

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	合計
新規	3,188	3,047	3,051	9,286
更新者	1,417	1,374	1,458	4,249
合計	4,605	4,421	4,509	13,535

館外個人貸出登録者数・推移 (単位：人)

令和3年度	令和4年度	令和5年度
12,889	12,732	13,535

(4) 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸出先	件数(件)	冊数(冊)
官公庁関係	2	48
図書館その他	12	22
会社・事業所	21	214
報道関係	0	0
学校	31	57
計	66	341

特別貸出状況・推移

(単位:冊)

令和3年度	令和4年度	令和5年度
389	292	341

(5) 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。時事展示のコーナーでは「本の中で植物園を体験」、「子どもたちの教科書を見てみよう!」、「時代小説を楽しむ」、「本で巡る世界の食文化」、「読書バリアフリーの世界」、「防災について考える～東日本大震災から13年～」を実施した。ほかに、ビジネス関連資料、認知症、感染症に関する展示を行っている。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「みんなが読書できる社会をつくる」を新規で作成。「裁判員制度を考える」、「暮らしと税金」、「健康と食事を考える」、「人物情報について調べる」、「遠野物語の世界」、「健康で働くために」を改訂し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

令和5年4月29日(土)には「福島県立図書館見学探検ツアー」を実施し、県立図書館の役割や機能について紹介した(参加者11名)。また令和5年11月3日(金)には「福島県立図書館秋の見学探検ツアー」(参加者7名)と「長田弘文庫見学会」を実施した(参加者1名)。

(6) 地域資料

企画展示は「福島の市町村広報誌」展を開催した。期間中は「県北・県中・県南地域」「相双・いわき地域」「会津・南会津地域」の順に3期に分けて資料を入れ替え、全市町村の広報誌を実施した。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「地域の出版文化を支える 福島民報出版文化賞」を改訂し、受賞作発表にあわせて直近10年の受賞作を展示した。

また、『地境争論内済一札』ほか劣化により原資料での利用が難しいものを中心に貴重資料をデジタル化し、閲覧・貸出の利用を容易に行えるようにした。

地域資料については、県内外の個人・団体の様々な調査相談に応えるため、レファレンスサービスを実施したほか、ホームページから目的の資料を検索しやすいう、図書や雑誌の目次入力を継続的に実施した。

(7) 逐次刊行物

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存指定館、現行受入新聞一覧』(令和5年度版)については、大熊町、双葉町の2町以外から回答を得て発行した。

令和5年12月9日(土)に、「図書館バックヤードツアー ふくしまの昔の新聞をみてみよう」を開催し、1名が参加した。当館職員が案内役となり、図書館で保管している明治・大正・昭和の新聞を見学した。

軽読書コーナー及び雑誌展示コーナーにて「元気づくり」、「俳句・短歌・詩」、「ノーベル賞を知る」及び「もっと知りたい徳川家康」など、社会情勢や利用者の興味関心に配慮したテーマの展示を行った。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「新聞の調べ方」、「便利な新聞・雑誌記事のデータベース」の改定を行った。

(8) 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

ア こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行ったほか、ロビー展示コーナーを活用して10代の子どもたちに向けた展示を行った。また、児童図書の調査・研究用の資料や学校図書館支援用の図書を収集し、子どもの読書活動に関わる方に対して資料提供を行った。

イ おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」(毎月第2木曜日)や児童を対象に以下の「おはなしかい」、「子ども向け見学会」を開催した。

・「ちいさなおはなしかい」(5月、6月、9月、10月、11月、12月、1月、3月)

計8回 参加者合計 74名

・「放課後おはなしかい」(4月、5月、6月、10月、11月、12月)

計8回 参加者合計 33名

・県立美術館との連携おはなしかい

「アートなおはなしかい」(令和5年6月17日(土))を実施した。

参加者 17名

・「春のミステリーツアー」(令和5年4月29日(土))を実施した。

参加者 15名

・「冬のミステリーツアー」(令和5年12月26日(火))を実施した。

参加者 13名

ウ 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

参加者合計 511名

エ 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌「LITTLE BIG」や

児童サービス関連情報誌「児童図書研究ニュース」を発行し読書普及のための情報提供に努めた。また、教科書改訂にあわせて「福島県立図書館・小学校国語教科書紹介図書・所蔵一覧」を発行した。

オ 「子育て支援コーナー」の運営

図書館の子育て世代のための育児関連図書のコーナーでは書架の配置替えリニューアルを図るとともに、引き続き、子育てに役立つ図書や雑誌の展示と親子で楽しむ絵本の展示を行った。

カ 講師の派遣

児童サービスに関する講座に講師を派遣した。

- ・「絵本の読み聞かせ講座」
令和5年6月3日(土) 桑折町
- ・「はじめてみよう！読み聞かせボランティア」
令和5年9月21日(木) 会津美里町

(9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成24年度から「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し利用に供している。所蔵数は令和6年3月31日現在で15,385タイトルとなっており、「震災復興ライブラリー増加資料一覧」(令和6年3月31日現在)を作成し、ホームページで公開した。

さらに、福島民報及び福島民友に掲載された「震災」「原発」「復興」関連の記事の見出しを地区ごとにまとめ一覧にした『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を令和5年3月31日現在で更新し、同年5月17日(水)にホームページへ掲載した。

そのほか「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し、活用を図っている。

(10) 複写サービス

コイン式コピー機は1台、レーザープリンター1台、カラープリンター1台、マイクロプリンター2台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

複写利用状況

区分	件数(件)	枚数(枚)
自・他館処理	3,055	40,860
複写利用状況・推移 (単位:枚)		
令和3年度	令和4年度	令和5年度
43,519	38,783	40,860

(11) 障がい者サービス

障がい者サービスの案内を作成し、関連施設等に配布した。また、「福島県立図書館所蔵 大活字コーナー資料リスト」を改訂した。令和6年1月より特定録音物等郵便受施設指定となった。

(12) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を、一般用に6台設置し、情報提供の便宜を図った。6台のうち2台は、短時間の利用ができるように申し込みをせずに利用可能としている。

インターネット利用状況 (単位:人)

区分	一般	児童	合計
人数	2,603	0	2,603

インターネット利用状況・推移 (単位:人)

令和3年度	令和4年度	令和5年度
1,348	1,160	2,603

※令和5年10月より、申込不要としていた短時間利用の端末2台を他の4台と同様に申込制とした。

(13) 展示

ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

- (ア) 『松居直と「こどものとも」から生まれた作家たち』
(令和5年4月7日(金)～5月31日(水))
令和4年11月に亡くなった児童文学作家で月刊物語絵本「こどものとも」初代編集長の松居直の著書と「こどものとも」から生まれた名作絵本を展示した。
- (イ) 『まほろん移動展示「U (アンダー) 15の考古学」』
(令和5年6月2日(金)～7月5日(水))
県内で出土した縄文・弥生時代の資料を展示し、小学6年生が学ぶ歴史の教科書とリンクさせながら、当時の人たちの生活を紹介し、併せて考古学とはどういうものかをイラストやジオラマで紹介した。
- (ウ) 『「福島イノベーション・コースト構想」展』
(令和5年7月7日(金)～8月2日(水))
福島イノベーション・コースト構想に関連した展示を行った。
- (エ) 『佐藤文庫展』
(令和5年8月4日(金)～10月4日(水))
佐藤文庫の紹介を兼ねて、佐藤伝吉氏を収集した貴重な先行関係資料を展示した。
- (オ) 『福島県歴史資料館移動展「ふくしまの歴と元号一会津歴と私年号を中心に」』
(令和5年10月6日(金)～11月1日(木))
江戸時代、ふくしまなど広域で用いられた「会津歴」や、「公年号」(元号)と別にふくしまで使われた「私年号」などを紹介した。
- (カ) 『福島の市町村広報誌』
(令和5年11月3日(金)～令和6年2月4日(日))
福島県内59市町村の各広報誌を展示した。創刊号や記念号のほか、市町村合併や市町村制周年行事などが掲載されている号を取り上げた。
- (キ) 『週刊朝日:100年を振り返る』
(令和6年2月28日(水)～4月3日(水))
日本で最初に創刊された総合週刊誌『週刊朝日』が

創刊から 101 年の令和 5 年に休刊したことから所蔵する同誌を展示した。

イ ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県立図書館の資料展示と団体等のパネル展示を行った。

- (ア) 「YA (ヤングアダルト) の本」 (県立図書館)
令和 5 年 4 月 7 日(金)～5 月 31 日(水)
- (イ) 「本はともだち」、「絵本はともだち」 (県立図書館)
令和 5 年 6 月 2 日(金)～7 月 5 日(水)
- (ウ) 「YA (ヤングアダルト) の本」 (県立図書館)
令和 5 年 7 月 7 日(金)～9 月 6 日(水)
- (エ) 「私の理学療法体験 川柳コンクール」 (福島県理学療法士会)
令和 5 年 9 月 8 日(金)～10 月 4 日(水)
- (オ) 「働くあなたの力になりたい！まずは聞かせてあなたの悩み」 (福島県労働委員会)
令和 5 年 10 月 6 日(金)～11 月 1 日(水)
- (カ) 「災害復旧や防災・減災対策の取組、公共土木施設の整備効果について」 (福島県土木部土木企画課)
令和 5 年 11 月 3 日(金)～令和 5 年 12 月 6 日(水)
- (キ) 「YA (ヤングアダルト) の本」 (県立図書館)
令和 5 年 12 月 8 日(金)～令和 6 年 4 月 3 日(水)

(14) 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

ア 福島を生きる講座

世界的歴史学者・朝河貫一博士をはじめとしたふくしまの偉人や、魅力ある福島の今と未来の発信等、福島に関わる研究者等による、図書館資料を活用した講座やワークショップを実施している。

第 1 回 「吾妻山噴火から 130 年ー火山の怖さ・火山の魅力ー」

開催日 令和 5 年 6 月 24 日(土) 福島県立図書館

講師 磐梯山噴火記念館 館長 佐藤 公

参加者 71 名

第 2 回 「朝河貫一と平和の追求ー『日本の禍機』から『大統領親書草案』へー」

開催日 令和 5 年 8 月 5 日(土) 福島県立図書館

講師 早稲田大学文学学芸院 教授 甚野 尚志

参加者 80 名

第 3 回 「公年号と私年号ーふくしまの庶民間で生まれた『私年号』とはー」

開催日 令和 5 年 10 月 22 日(日) 福島県立図書館

講師 公益財団法人福島県文化振興財団
主任学芸員 小野 孝太郎

参加者 20 名

第 4 回 「甲子園への道」

開催日 令和 5 年 11 月 19 日(土) 福島県立図書館

講師 聖光学院高等学校

硬式野球部監督 斎藤 智也

参加者 123 名

イ 県民講座

福島県立医科大学、法テラス福島など各関係機関との連携による講演会を実施している。

(ア) 「成年後見制度のいろは～安心した暮らしのための意思決定援助～」

開催日 令和 5 年 7 月 22 日(土)

講師 日本司法支援センター 法テラス福島
弁護士 中條 貴則

参加者 12 名

(イ) 「令和の高校教科『公共』に学ぶオトナの法教育」

開催日 令和 5 年 11 月 4 日(土)

講師 桜が丘法律事務所
弁護士 岩崎 優二

参加者 8 名

ウ 衛生学予防医学講演会

福島県立医科大学衛生学・予防医学講座講演会

開催日 令和 5 年 9 月 23 日(土)

講演 1 「何を食べても入ってくる科学物質～それって危ないの？」

講師 福島県立医科大学 医学部

衛生学・予防医学講座 教授 福島 哲仁

講演 2 「適正体重を維持するための食生活のコツ」

講師 郡山女子大学家政学部 食物栄養学科
准教授 伊藤 央奈

参加者 56 名

エ イベント

(ア) 「福島県立図書館見学探検ツアー」

開催日 令和 5 年 4 月 29 日(土)

参加者 11 名

(イ) 「福島県立図書館秋の見学探検ツアー」

開催日 令和 5 年 11 月 3 日(祝・金)

参加者 7 名

(ウ) 「長田弘文庫見学会」

開催日 令和 5 年 11 月 3 日(祝・金)

参加者 1 名

4 館外奉仕

(1) 移動図書館「あづま号」

移動図書館「あづま号」では、以下の目的により巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計 23 自治体及び 5 校に対して合計 22,768 冊の資料を貸出した。

ア 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。また 23 自治体に巡回し、延べ 21,487 冊の資料を貸出した。

イ 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な8自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しと希望自治体へのおはなし会を行った。

公民館、認定こども園、小学校、中学校、デイサービスセンターに対して3,983冊を貸出した。

ウ 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、聴覚支援学校平校・西郷支援学校・石川支援学校・猪苗代支援学校・富岡支援学校の5校を巡回し、延べ1,281冊の資料を貸出した。また、希望校へのおはなし会を開催した。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移 (単位：冊)

令和3年度	令和4年度	令和5年度
23,101	22,234	22,768

(2) 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

令和5年度の利用状況は次のとおりである。

川俣町教育委員会	330冊
浅川町教育委員会	400冊
会津美里町教育委員会	690冊
合計	1,420冊

(3) 福島県立図書館資料の譲与

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。令和5年度の利用状況は次のとおりである。

玉川村教育委員会	334冊
伊達市教育委員会	581冊
川俣町教育委員会	131冊
昭和村教育委員会	22冊
会津美里町教育委員会	257冊
白河市教育委員会	49冊
柳津町教育委員会	3冊
福島市教育委員会	244冊
平田村教育委員会	405冊
浅川町教育委員会	5冊
北塩原村教育委員会	362冊
あさか開成高等学校	21冊
合計	2,414冊

(4) 只見線駅文庫

除籍資料を活用して、待ち時間や車内で自由に利用できる「只見線駅文庫」を令和元年10月からJR只見線の一部に設置している。

(5) 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書を貸出しを行

い、学校図書館読書・学習環境の支援を行う。令和5年度は2団体59冊の貸出があった。

(6) 広報資料の発行

ア 館報「あづま」

第72巻(通巻276)を令和5年11月30日に発行した。主たる掲載事項としては、「県内の図書館／浪江町図書館について」、「学校サポートセットについて」、「福島県立図書館アクションプラン(第4次について)」、「福島県立図書館の地震復旧工事が完了しました」等

イ 令和5年度版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書(データ版)

図書館活動の振興に資するため、県内公共図書館等の年間観覧日数や専任職員数、蔵書数、来館者数、登録者数、個人貸出数、電子書籍導入の有無などについて実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

ウ 福島県郷土資料情報

第64号を発行。特集として平成11年度から連載している「福島県関係書誌の紹介」のうち主題編の総索引(た～わ)を作成し、人物調査の利便性を高めた。ほかに「福島を生きる講座」の実施報告、連載の「貴重郷土資料探照24」「福島県関係書誌の紹介2023」を掲載した。80部発行し、当館ホームページへも掲載する等、郷土の情報を発信した。

5 図書館協力

(1) 相互協力と遠隔地返却、受取館指定サービス

協力貸出(市町村図書館への資料の貸出)、相互貸借(県内外の他館との資料の貸出・借受)、遠隔地返却(当館から借受け資料を他館に返却する。)サービスを行っている。

また、予約した資料を県内の図書館で受け取ることができる受取館指定サービスの利用は新型コロナウイルス感染症対策に伴う外出自粛傾向が落ち着き、増加傾向にあった受取館指定サービス利用の伸びが横ばい傾向になっている。

相互貸借状況 (単位：件/冊)

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	1,060	4,032	377	522	1,437	4,554
借用	150	246	78	94	228	340
小計	1,210	4,278	455	616	1,665	4,894

相互貸借状況・推移 (単位：冊)

令和3年度	令和4年度	令和5年度
5,387	4,315	4,894

遠隔地返却冊数・推移 (利用者が来館し借受けた資料を県内の公立図書館に返却した冊数) (単位：冊)

令和3年度	令和4年度	令和5年度
7,750	6,242	6,681

(2) 学校図書館サポートセット貸出

県内の小・中学校における学校図書館活動を支援するため、授業の過程において利用することを目的に、希望するテーマに合わせて資料を選びセットにして貸出を行った。令和5年度の利用状況は、6校22セット(461冊)。

(3) 図書館協力事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出(資料の貸借)などの資料の搬送支援を行った。令和5年度は、18コースを編成し、35自治体と2高等教育機関、福島県議会図書室に対し巡回した。

(4) 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

ア 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

(ア) テーマ

講話 「図書館の基礎」

講義 ①「学校図書館の目指すもの～その役割を考える～」

②「子どもと絵本を結ぶ～その意義と役割～」

③「図書館業務の実際」

(イ) 期 日 令和5年6月7日(水)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 44名

(オ) 講 師 ①: 義務教育課指導主事 松山 秀和
講話、②、③: 福島県立図書館職員

イ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

(ア) テーマ 電子資料の基礎と貴重資料のデジタル化の実現

(イ) 内 容 講義・実習 「電子化しよう！」

(ウ) 期 日 令和5年11月1日(水)

(エ) 会 場 福島県立図書館

(オ) 参加者 県内図書館・公民館図書室職員等 30名

(カ) 講 師 鶴見大学文学部 教授 大矢 一志

ウ 福島県図書館初任者職員実務研修会

(ア) 期 日 令和5年6月8日(木)～9日(金)

(イ) 会 場 福島県立図書館

(ウ) 参加者 8名

(エ) 講 師 福島県立図書館職員

エ 福島県内児童書担当職員研修会(集合)

(ア) テーマ 「はじめてのブックトーク」

(イ) 期 日 令和5年9月28日(金)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 65名

(オ) 講 師 福島県立相馬高等学校
主任学校司書 小林 沙織

(5) 第21回福島県図書館研究集会(オンライン)

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な研究会を

行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に、福島県公共図書館協会事務局として実施・運営している。

ア テーマ 「電子図書館サービスについて考える」

イ 期 日 令和6年1月31日(水)

ウ 会 場 福島県立図書館

エ 参加者 県内図書館職員等 66名

オ 内 容

講演

「公共図書館におけるこれからの電子図書館サービスの可能性」

講 師 追手門学院大学 国際教養学部
教授、図書館長 湯浅 俊彦

報告

「福島市電子図書館の導入と取組」

講 師 福島市立図書館 図書サービス係
主任司書 本多 恵子

「昭和村電子図書館の導入と取組」

講 師 昭和村教育委員会
主査 五十嵐 正富

(6) 令和5年度図書館地区別(北日本)研修会(ハイブリット)

情報化の進展など図書館に関する最新のテーマや地域における課題について研修を行い、図書館における中堅の司書としての力量を高めることを目的として実施している。

ア 期 日 令和5年10月18日(水)～20日(金)

イ 会 場 福島県立図書館

ウ 参加者 北海小津東北地区図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 108名

エ 内 容

①<基調講演> 「図書館におけるSDGsにつながる支援の実情とは」

講 師 明治大学文学部 専任教授 青柳 英治

②<講 義> 「令和3年改正著作権法と図書館」

講 師 日本図書館協会著作権委員会 小池 信彦

③<講 義> 「福島における震災アーカイブズの構築と図書館との連携」

講 師 東日本大震災・原子力災害伝承館 瀬戸 真之

④<講 義> 「子どもの探求が確実に変わるGIGAスクール時代の学校図書館活用の極意」

講 師 長野県高森北小学校・高森町子ども読書支援センター司書 宮澤 優子

⑤<講 義> 「デジタルアーカイブと図書館の未来」

講 師 慶応義塾大学文学部准教授・東京大学大学院情報学客員准教授 福島 幸宏

⑥<講 義> (事例発表) 「障がい者サービスの実際」

講 師 南相馬市立中央図書館 司書 菊地 伸江
福島県点字図書館 事業兼事務長 大槻 隆一

⑦<講 義> 「地域資料のデジタル化の実現」

講 師 函館市教育委員会生涯学習部文化財課主査・学芸員 奥野 進

⑧<講義>「『100万回死んだねこ』発刊とその後－レファレンスサービスの実現と課題－」

講師 福島県立図書館 主任 宮川 陽子

⑨<講義>「これからの図書館～危機管理を中心に～」

講師 白河市立図書館 館長 中沢 孝之

(7) 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、「福島県内大学図書館連絡協議会」の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館のほか、県内20の自治体の図書館が参加館として参加している

さらに、福島大学附属図書館及び福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

第12節 福島県立美術館

1 概要

昭和59年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

令和4年度美術館活動の概要は次のとおりである。

(1) 美術館運営協議会

ア 委員

大槻 佐恵 福島県中学校教育研究会美術専門部所属
(令和5年1月1日～)

番匠あつみ 福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属
(平成27年1月1日～)

鈴木 淳一 公益財団法人福島県文化振興財団理事長兼
福島県文化センター館長
(令和4年4月23日～) ※会長

佐藤 育子 福島県家庭教育インストラクター
(令和5年1月1日～)

齋藤 勝正 福島県美術家連盟顧問
(平成29年1月1日～)

細田 修二 日本放送協会福島放送局長
(令和4年7月16日～)

岡部 兼芳 はじまりの美術館館長
(令和3年1月1日～)

笠原美智子 アーティゾン美術館副館長
(令和3年1月1日～)

齋藤美保子 郡山女子大学短期大学部副学長
(平成27年1月1日～) ※副会長

舟木 藤弘 福島県立美術館友の会副会長
(平成29年1月1日～)

イ 協議会の開催

(ア) 期日 令和6年2月20日(火)

(イ) 内容 ・令和5年度事業の概要
・令和6年度事業計画案の概要

(2) 他館等との連携

県内外の博物館施設及び全国組織等との連携を図り、運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体 ・全国美術館会議 (会員)
・日本博物館協会 (会員)
・日本博物館協会東北支部 (会員)
・東北地区博物館協会 (会員)
・福島県博物館連絡協議会 (理事)

2 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収蔵作品)の収集活動を継続的にを行っている(ただし平成22年度以降、作品購入実績はない)。

(1) 収蔵作品点数(令和6年3月31日現在)

海外作品	450点
日本画	382点
洋画	928点
版画	1,691点
立体	150点
工芸	158点
書	39点
素描・下絵	218点
写真	411点
作品合計	4,427点
美術資料	73件

(2) 収集評価委員会

ア 委員

中山 恵理 郡山市立美術館主査
(令和元年12月1日～)

松下 由里 群馬県立近代美術館 主幹兼専門員
(令和元年12月1日～)

水沢 勉 神奈川県立近代美術館館長
(令和元年12月1日～)

濱崎 礼二 宮城県美術館副館長
(令和3年12月1日～)

西山 純子 千葉市美術館上席学芸員
(令和3年12月1日～)

イ 委員会の開催

(ア) 期日 令和5年12月16日(土)

(イ) 内容 ・令和3・4年度収集作品の報告
・令和5年度収集候補作品

(3) 図書資料の収集

収蔵図書数 66,053冊

(4) 保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

ア 保存環境調査の実施(虫菌害モニタリングと環境測定)
時期 令和5年6月5日(月)～19日(月)、
8月9日(水)～25日(金)
内容 展示室、収蔵庫、搬入口及びその他の館内外の
虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

イ 美術品の修復

酒井三良《村芝居》、荻生天泉《待宵》、内田あぐり《ロマ
ノフの海》、木村荘八《於東京帝大構内》、瑛九《建物》、織
田彩子《サイネリア》、土橋醇《仏蘭西の避暑地》の修復を行
った。北川民次《二十年目の悲しみの夜》、野田英夫《母子像》
の額を交換した。そのほか、アンドリュウ・ワイエス《松ぼ
っくり男爵》、クロード・モネ《ジヴェルニーの草原》、カミ
ーユ・ピサロ《エラニーの菜園》、カミーユ・コロー《ヴィル
ダヴレー 林をぬけてコロ家へ向かう池沿いの道》、ピエ
ール＝オーギュスト・ルノワール《帽子を被る女》、ジョルジュ
ルオー《超人》、関根正二《姉弟》、関根正二《自画像》、関
根正二《神の祈り》、安井曾太郎《ターヴルの上》、岸田劉生
《自画像》、岸田劉生《静物(白き花瓶と台皿と林檎四個)》の
ガラスのクリーニングを行った。

また、退色が指摘されていた庭園の彫刻、フェルナン・レジ
ェ《歩く花》の再塗装を行った。

ウ 敷地内の放射線測定

(ア) 時期 年4回測定

(イ) 場所 美術館内及び敷地内 計8か所

3 展示事業

(1) 常設展

収蔵及び寄託の美術作品を展示している。美術の多様な
領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保
全に配慮して、年4回(版画は年8回)展示替えを行って
いる。

第Ⅰ期コレクション展

令和5年3月18日(土)～6月18日(日)

- ・春から初夏の日本画
安田 鞞彦《茶室》、小茂田 青樹《薫房》ほか
- ・福島の洋画
吉井 忠、鎌田 正蔵、若松 光一郎、橋本 章ほか
- ・西洋の近代版画
エルンスト《博物誌》、ルオー《ミセレーレ》ほか
- ・追悼 大宮 政郎

第Ⅱ期コレクション展

令和5年7月1日(土)～8月27日(日)

- ・勝田蕉琴と福陽美術会 酒井 三良ほか
- ・印象派とフランス美術 モネ、ピサロほか
- ・日本の水彩画 後藤 工志《[失題]》ほか
- ・小関 庄太郎と芸術写真

第Ⅲ期コレクション展

令和5年9月16日(土)～12月27日(水)

- ・現代の工芸 山田 光ほか
- ・安齋勇雄コレクションと石原コレクション
- ・ワイエスとアメリカの具象絵画
ワイエス《松ぼっくり男爵》 ほか
- ・斎藤 清の木版画：《会津の冬》シリーズほか

第Ⅳ期コレクション展

令和6年1月10日(水)～3月3日(日)

- ・戦後の日本画：横山操《闇迫る》ほか
- ・関根正二と大正期の洋画：関根正二《姉弟》ほか
- ・50年前の美術——1970年代の姿かたち
- ・ベン・シャーン《ラッキードラゴン》

常設トーク

- ・5月14日(日) 14時～14時30分
担当 濱田 洋亮(学芸員)、橋本 恵里(学芸員)
参加者数 3名
- ・8月20日(日) 11時～11時30分
担当 濱田 洋亮(学芸員)
参加者数 20名
- ・10月22日(日) 14時～14時30分
担当 月本 寿彦(副主任学芸員)
参加者数 11名
- ・2月18日(日) 11時～11時30分
担当 濱田 洋亮(学芸員)
参加者数 15名

(2) 特集展示

「眼にうつる詩—美術と文学の交差点」

(ア) 会期 令和5年5月30日(火)～6月18日(日)

開催日数 18日

(イ) 分野 海外、洋画、日本画、版画

(ウ) 展示数 146点

(エ) 観覧料 常設展料金

(オ) 観覧者数 1,198名

(カ) 概要

古くから美術と文学は親和する関係にあるとされてきた。当館にも、明治期から現代に至るまでの文学と関わりをもった美術作品が多数収蔵されている。それらから見えてくるのは、美術と文学には、社会や時代背景と接続する多彩な関わり合いがあることだ。美術家と文学者の交流や、画家をモデルにした小説、あるいは自ら詩作をした美術家など、美術と文学は芸術ジャンルの領域を越えて交錯していた。この展覧会では、当館の収蔵作品から美術と文学の様々なつながりを紹介し、美術を通して文学史の一側面を辿った。

(キ) 関連事業

ギャラリートーク

講師 濱田 洋亮(学芸員)

日時 令和5年6月3日(土) 14時～15時

場所 企画展示室

参加者数 25名

(3) 企画展

令和5年度は6回の企画展を開催し、国内外の様々な芸術文化を紹介した。

ア 美(み)をつくしー大阪市立美術館コレクション

(ア) 会期 令和5年3月21日(火・祝)～5月21日(日)
開催日数 54日(令和4年度10日)

(イ) 分野 絵画、書籍、彫刻、工芸等

(ウ) 展示数 約180点

(エ) 主催 大阪市立美術館ふくしま展実行委員会
[構成 福島県立美術館、テレビユー福島、福島民報社]
企画協力 大阪市立美術館、毎日新聞社

(オ) 観覧料 一般1,300(1,100)円
高校・大学生1,000(800)円
小・中学生400(300)円

※()内は前売り、20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 18,703名(令和4年度 2,698名)
(令和5年度 16,005名)

(キ) 概要

昭和11年(1936)5月、庭園(慶沢園)とともに大阪市に寄贈された住友家の本邸があった天王寺茶臼山の地に、大阪市立美術館は開館した。8500件以上にのぼる所蔵作品は、日本・中国の絵画・書蹟・彫刻・工芸など多岐にわたる。関西を中心に活躍した財界人らが収集したコレクションをまとめて所蔵する点に特徴があり、古美術から近代の作品まで実に多彩な顔ぶれである。

本展は、開館90周年を迎えるのを前に大規模な改修工事を行う休館の時期に、大阪市立美術館が所蔵するこれらの名品から厳選された172件の作品を一堂で紹介する企画であった。

(巡回先 サントリー美術館、熊本県立美術館)

(ク) 関連事業

・講演会「大阪市立美術館のコレクションについて」

講師 内藤 栄(大阪市立美術館館長)

日時 令和5年4月22日(土)14時～15時30分

場所 美術館講堂

参加者数 85名

イ ブルターニュの光と風 モネ、ゴッガン、ボナール—遙かなる理想郷—ブルターニュの光と風 モネ、ゴッガン、ボナール—遙かなる理想郷

(ア) 会期 令和5年7月1日(土)～8月27日(日)
開催日数 51日

(イ) 分野 絵画、版画

(ウ) 展示数 69点

(エ) 主催 「ブルターニュの光と風」福島展実行委員会
[構成 福島県立美術館・福島テレビ・福島民報社]
後援 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、福島県、福島県教育委員会、福島市、福島市教育委員会、福島リビング新聞社

協力 福島交通

企画協力 (株) ホワイトインターナショナル

(オ) 観覧料 一般1,500(1,300)円、大学生1,000(800)円
小・中・高校生600(500)円

※()内は前売り券及び20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 24,050名

(キ) 概要

本展は、ブルターニュに所在するカンペール美術館の屈指の収蔵品を中心に、45作家による69点の油彩画・版画・素描を御紹介する展覧会である。フランス北西部のブルターニュ地方は印象派をはじめ、ポン＝タヴァン派、ナビ派などの新しい美術運動が生まれる契機となった地である。モネやボナール、ゴッガンといった著名な画家の作品とともに、これまであまり日本で紹介されてこなかった、それ以前のサロンの画家の海を描いた大作などもあり、美術と地域を結びつける内容が新鮮であった。(巡回先 SOMPO美術館、静岡市美術館、豊橋市美術館博物館、広島県立美術館)

(ク) 関連事業

・記念講演会

講師 千足 伸行(本展監修者・広島県立美術館長)

日時 7月2日(日)14時～15時

場所 美術館講堂

参加者数 120名

・ギャラリートーク

日時 7月22日(土)14時～15時

担当 橋本 恵里(学芸員) 72名

日時 7月29日(土)14時～15時

担当 濱田 洋亮(学芸員) 75名

日時 8月13日(日)14時～15時

担当 濱田 洋亮(学芸員) 20名

日時 8月20日(日)14時～15時

担当 橋本 恵里(学芸員) 35名

・アオウゼ出張レクチャー「ブルターニュの光と風展 見どころはここ！」

日時 7月14日(金)14時～15時

担当 橋本 恵里(学芸員) 参加60名

ウ 発掘された珠玉の名品 少女たち 夢と希望—そのはざままで—星野画廊コレクションより

(ア) 会期 令和5年9月23日(土・祝)～11月12日(日)
開催日数 44日

(イ) 分野 日本画、洋画

(ウ) 展示数 121点

(エ) 主催 福島県立美術館

企画協力 青幻舎プロモーション

(オ) 観覧料 一般・大学生1,000(800)円
高校生600(500)円
小・中学生400(300)円

※()内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 4,017名

(キ) 概要

星野画廊は星野桂三氏（1943～）により、1973年京都に開設された。ユニークな人柄と眼力で集められた作品は、有名無名を問わず、きらめく個性を放っている。京都日本画の個性派画家・岡本神草、秦テルヲや、浅井忠門下の画家たちなどを、次々と発掘、紹介した。中核をなす、時代の空気や情念をとらえた女性像の数々は、リアルな生気を宿している。話題作約121点の日本画・洋画作品による、初の星野コレクション本格的紹介展である。

（巡回先 京都文化博物館、新潟市美術館、高知県立美術館、呉市立美術館、三鷹市美術ギャラリー）

(ク) 関連事業

・特別ゲストトーク

講師 星野 桂三（星野画廊代表）

日時 10月8日（日）14時～16時

場所 企画展示室

参加者数 42名

・ギャラリートーク

日時 9月24日（日）14時～15時

担当 堀 宜雄（専門員）21名

日時 10月14日（土）14時～15時

担当 月本 寿彦（副主任学芸員）35名

日時 11月3日（金、祝）14時～15時

担当 堀 宜雄（専門員）17名

エ 現代版画の小宇宙 金子コレクションから

(ア) 会期 令和5年11月21日（火）～12月27日（水）

開催日数 31日

(イ) 分野 版画

(ウ) 展示数 258点

(エ) 主催 福島県立美術館

(オ) 観覧料 一般・大学生1,000(800)円

高校生600(500)円

小・中学生400(300)円

※（ ）内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 2,484名

(キ) 概要

福島県伊達市出身の精神科医・金子元久氏は、現代日本版画や蔵書票の収集家としても知られている。当館では2022年度に同氏から130作品の寄贈に加え、400点以上の作品の寄託を受けた。なかでも木版画家・黒崎彰の作品は90点にも上り、初期から晩年まで彼の作風をたどることができる貴重なコレクションと言える。

本展は黒崎彰に加え、木口木版画家・柄澤齊や銅版画家・北川健次、日本の現代美術のひとつの動向である「もの派」を主導した李禹煥など、戦後の日本版画界を代表する作家から、シャガールのポスターまで、258点の作品を通して、同氏のコレクションの全貌に迫った。

(ク) 関連事業

・講演会 「現代版画入門—金子コレクションから—」

講師 三木 哲夫（兵庫陶芸美術館長）

日時 12月17日（日）14時～15時30分

参加者数 50名

・ギャラリートーク

講師 坂本 篤史（主任学芸員）

日時 12月9日（土）14時～15時

参加者数 20名

オ 福島アートアニュアル2024 二次の彼方に

(ア) 会期 令和6年2月3日（土）～3月3日（日）

開催日数 26日

(イ) 分野 絵画

(ウ) 展示数 約50点

(エ) 主催 福島県立美術館

(オ) 観覧料 一般・大学生400(300)円

高校生200(100)円

小・中学生100(50)円

※（ ）内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 2,881名

(キ) 概要

福島県出身・ゆかりの若手作家を紹介するシリーズ企画の第3回展。近年、特にオンライン・コミュニティにおいてマンガ、アニメやゲームなどの影響を受けた二次元キャラクターを題材とする絵画作品が大きな注目を集めている。本展では安齋菜由（1999年二本松市出身）、ク渦群（1993年南相馬市生まれ）、高木ちやー（1997年福島市生まれ）の3名を取り上げ、現代絵画における二次元コンテンツの影響と創作への可能性について考察を試みた。

(ク) 関連事業

・出品作家によるギャラリートーク

日時 令和6年2月10日（土）14時～15時

参加者数 87名

カ 美人画の雪月花 培広庵コレクション展

(ア) 会期 令和6年3月23日（土）～5月12日（日）

開催日数 44日（令和5年度は8日）

(イ) 分野 日本画

(ウ) 展示数 約160点

(エ) 主催 福島県立美術館

特別協力 培広庵

企画協力 ヤマト運輸株式会社

(オ) 観覧料 一般・大学生1,000(800)円

高校・大学生600(500)円

小・中学生400(300)円

※（ ）内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 5,524人

(キ) 概要

本展は、長い年月と情熱をかけて「美人画」を蒐集してきた培広庵氏のコレクションから、上村松園や北野恒富、島成園、土田麦僊、菊池契月ら京都大阪の画家や、浮世絵の流れをくむ鏑木清方や門下の伊東深水、山川秀峰ら、東西美人画の名品160点を特別公開する。大正から

昭和初期の、「夢二美人」に代表されるどこか憂いを含んだ女性像や、モダンなライフスタイルを反映した「新しい女」たちの様子が垣間見られ、展覧会をとおして時代と世相、女性美の変化を楽しめる内容となっている。

(ク) 関連事業

・ギャラリートーク

講師 月本 寿彦 (副主任学芸員)

日時 令和6年3月24日(日) 13時30分～14時30分

参加者数 37人

(4) 動画配信等による情報発信

展覧会や教育普及事業など、美術館の事業を幅広い世代へ即時効果的に発信するため、広報印刷物の発行のほか、ホームページ、ブログ、ツイッター、YouTube、教育委員会公式noteなど、SNSを活用した情報発信を行っている。

広報印刷物 ミュージアムカレンダー、「美術館NEWS」年6回、美術館年報、企画展ポスター・チラシ等

SNS発信 ブログ投稿 15回(常設展示、教育普及事業の紹介)、YouTube動画7本(企画展の紹介)等、X(旧Twitter)フォロワー1,864人、Instagram(令和5年9月開設)フォロワー598人

4 調査研究事業

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

今年度は県内の美術品調査と、県内出身作家やゆかりの作家、収蔵作家の調査を重点的に行った。

5 教育普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っている。

(1) 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞マナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

令和5年度の受入団体総数80団体2,410人で、そのうち解説を行ったのは34団体1,309人である(令和6年1月31日現在)。

(2) 鑑賞講座

芸術鑑賞講座 「名画との対話」

講師 早川 博明(当館元館長)

場所 講堂

第1回「ウィリアム・ターナー」

日時 令和5年8月19日(土) 10時30分～12時

参加者数 61名

第2回「カスパー・フリードリヒ」

日時 令和5年10月14日(土) 10時30分～12時

参加者数 50名

第3回「フランシスコ・デ・ゴヤ」

日時 令和5年12月9日(土) 10時30分～12時

参加者数 36名

第4回「ウジェーヌ・ドラクロワ」

日時 令和6年3月30日(土) 10時30分～12時

参加者数 60名

(3) 創作プログラム

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術の創作と鑑賞の一助とする目的で、子どもから大人まで幅広い対象に応じたプログラムを実施している。

ア 「名画でつくろうマグネット」(「美をつくし展」関連)

講師 齋藤 恵(主任学芸員)、白木 ゆう美(副主任学芸員)

日時 令和5年 ①4月29日(土・祝)

②5月14日(日)

場所 エントランスホール

参加者数 ①34名、②39名

イ 「音の風景—心象表現を楽しもう—」

講師 福田 美里(作家)

日時 令和5年5月13日(土) 9時40分～12時10分

場所 実習室、庭園

参加者数 7名

ウ 「オリジナルマグネットをつくろう！」(「ブルターニュの光と風展」関連)

講師 齋藤 恵(主任学芸員)、白木 ゆう美(副主任学芸員)

日時 令和5年

①7月9日(日) 10時30分～12時

②8月5日(土) 14時30分～16時30分

③8月16日(水) 10時30分～12時

④8月27日(日) 10時～11時30分

場所 エントランスホール

① 42名 ②39名 ③55名 ④50名

エ 「光を描く～メゾチント体験～」

講師 安部 直人(版画家、当館収蔵作家)

日時 令和5年7月16日(日)、22日(土)、23日(日)

※3日間で1講座

場所 実習室

参加者数 8名

オ 「彫刻ってなんだ！？—石膏型で彫刻をつくろう—」

講師 對木 裕里(現代作家)

日時 令和5年7月29日(土) 10時～15時

場所 実習室、庭園

参加者数 17名

カ 「“までい”な花—飯館村の美しい自然を表現しよう」

<NPO法人ふくしま再生の会との共催>

講師 酒百 宏一（美術作家・東京工科大学教授）

日時 令和5年9月24日(日) ①10時～12時
②14時～16時

場所 エントランスホール

参加者数 ①10名 ②7名

キ 「《歩く花》のともだちをつくろう！」

講師 齋藤 恵（主任学芸員）、白木 ゆう美（副主任学芸員）

日時 令和5年10月15日(日) 10時～15時

場所 実習室

参加者数 3名

ク 「消しゴムはんこで年賀状をつくろう」（「現代版画の小宇宙展」関連）

講師 齋藤 恵（主任学芸員）、白木 ゆう美（副主任学芸員）

日時 令和5年11月25日(土) 9時45分～12時15分

場所 実習室

参加者数 8名

ケ 「架空の自分の本『最期にこれを食べたい』のカバーの絵を描こう」

講師 コーチはじめ（イラストレーター）

日時 令和5年12月2日(土) 10時30分～15時30分

場所 実習室

参加者数 9名

コ 「年賀状づくりコーナー（特設ワークショップ）」

日時 令和5年11月28日(火)～12月27日(水)

場所 エントランスホール

参加者数 267名

サ 「彫刻家になってみよう！叩き鑿を五感で味わおう」

講師 佐藤 忠博（彫刻家）

日時 令和6年2月17日(土)10時～15時

場所 エントランスホール

参加者数 16名

(4) 美術館への年賀状展

県内の小・中・高校生から寄せられた手作り年賀状をすべてエントランスホールに展示した。

- ・会期 令和6年1月12日(金)～1月31日(水)
- ・応募総数 188通
- ・観覧者数 718名

(5) 美術館・学校教育連携事業

ア 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成15年度より実施している連携事業。子どもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通して子どもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元を図る。

令和5年度は、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・適応指導教室・生涯学習センター合わせて10校（参加者延べ248名）で開催した。ワークショップで制作した作品は、令和6年2月10日(土)～2月25日(日)の期

間、当館企画展示室Bにおいて、活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

(ア) 講師 FRIDAY SCREEN（アートユニット）

プログラム凸凹テキスト（でこぼこてきすと）

内容 身の周りに溢れている「文字」をテーマにしたワークショップ。グラフィックデザインの発想から造形までを経験する内容。

開催校・人数

須賀川市立岩瀬中学校（1年生）

令和5年10月4日(水) 36名

郡山ザベリオ学園小学校（1年生）

令和5年10月5日(木) 26名

福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）

令和5年10月20日(金) 5名

福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）

令和5年11月9日(木) 6名

福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）

令和5年11月10日(金) 6名

郡山市立日和田中学校（美術部）

令和5年11月11日(土) 7名

郡山市立御館中学校（1・2年生）

令和5年11月13日(月) 26名

会津美里町本郷生涯学習センター（年中～6年生）

令和5年12月16日(土) 25名

(イ) 講師 よしもと みか（移動絵本図書館 みず文庫）

プログラム 私の「いま」を色と形で表現してみよう。

内容 子どもたちと日々触れ合っている先生から実態を聞き、それぞれにあった素材と画材を選んで色と形を表現するワークショップ。

開催校・人数

福島県立いわき支援学校くぼた校（高等部1年生）

令和5年10月19日(木) 12名

小野町立小野小学校（6年生）

令和5年11月2日(木) 65名

福島県立富岡支援学校（小学部1～6年生）

令和5年11月16日(木) 20名

福島県立伊達高等学校（美術部）

令和5年11月30日(木) 14名

イ 先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について、講座を開催する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。

令和5年度は、下記のとおり講座を開催した。

日時 令和5年11月1日(水) 9時50分～16時

場所 福島県立美術館

講義・演習「学校と美術館の連携活動について」

演習・協議「感性を働かせるプログラム」

講義・演習「鑑賞教育のこれから」

講師 梅野 史代（教育センター指導主事）、

齋藤 恵（主任学芸員）、

上野 行一（美術による学び研究会 代表）
参加者 小学校教諭 3名、中学校教諭 4名、特別支援
学校教諭 4名、特別支援学校教諭 1名 計 12名

(6) 博物館実習

学芸員資格取得のため当館での実習を希望する大学生を
受け入れ、カリキュラムを組んで指導を行った。

日時 令和5年8月22日(火)～8月27日(日)

受講者数 5名

(7) 「中学生ドリームアップ事業」職場体験活動

日時 令和5年7月4日(火)～7月6日(木)

平野中学校 2年生 6名

(8) 「福島県高等学校文芸研修会」生徒作品展示

県内の文芸部に所属する高校生を対象に、創作活動の技
術力向上や、生徒同士で交流し、創作技法などについて意
見を交換し合うことを目的として研修会が開催された。当
館の「第Ⅲ期コレクション」の展示作品をみて、詩、短歌、
俳句を創作するワークショップが行われた。常設展示室で、
生徒が創作に選んだ展示作品の近くに、手書きの生徒作品
カードを掲示した。

参加校 東日本国際大学附属昌平高等学校、福島県立会津
学鳳高等学校、福島県立安積高等学校、福島県立
安積黎明高等学校、福島県立郡山東高等学校、福
島県立須賀川創英館高等学校、福島県立橘高等学
校、福島県立福島西高等学校 8校

参加人数 高校1～3年生 38名

(9) 県立図書館との連携事業

「アートなおはなしかい」（「眼にうつる詩展」関連）

幼稚園児・小学生とその保護者を対象にした、図書館の
「よみかかせ」と美術館の「鑑賞と工作のワークショップ」
を連携させた「アートなおはなしかい」を、平成18年度か
ら継続実施している。

日時 令和5年6月17日(土)14時～15時30分

場所 福島県立図書館、福島県立美術館

参加者数 17名

6 館外連携

県内外の関係機関等と連携・協力して、芸術文化活動の質の
向上、県民の美術に対する知識及び教養の向上、地域の活性
化に取り組んでいる。

令和5年度においても、関係団体との連携事業を実施する
とともに、他機関からの要請に応じて委員会委員や講師等と
して学芸員を派遣し、専門的事項に関する助言・協力を行った。

(1) 友の会、協力会との連携事業

令和5年度に友の会や協力会と実施した連携事業は次の
とおりである。

ア 触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ

<NPO法人福島県立美術館協力会との共催>

日時 令和5年10月28日(土)

①10時30分～12時、②14時～15時30分

場所 常設展示室

講師 白木 ゆう美(副主任学芸員)、橋本 恵里(学
芸員)、齋藤 恵(主任学芸員)、濱田 洋亮(学
芸員)、高橋 肅子(福島県点字図書館)

参加者数 ①11名 ②7名 計18名

イ アートチャリティーバザー

<福島県立美術館友の会の主催>

友の会会員や美術館関係者が美術工芸品、美術図書、
図録、ミュージアムグッズなどを持ち寄り、バザーを実
施した。

日時：令和5年12月10日(日) 9時30分～12時

場所 エントランスホール

参加者 250名

ウ ミュージアム・コンサート

<NPO法人福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共催>

日時 令和6年2月25日(日) 14時～15時

場所 エントランスホール

出演 松尾 沙樹(ヴァイオリン)、後藤 泉(ピアノ)

参加者 300名

エ アートカード『ぼけっとアート』貸出

平成29年4月から、当館所蔵作品80点をカード形式
にした鑑賞補助教材『ぼけっとアート』の貸出を継続し
て行っている。今年度の貸出総数は、小学校、中学校、高
校、その他教育関係機関を含め、170カ所、855セットで
ある(令和6年1月31日現在)。

オ アートカード関連事業

県立葵高等学校の浦埜好美教諭による美術Ⅱの授業で
は、「勝手に美術館応援プロジェクト」と題し、アートカ
ードを活用して美術館を応援する図柄をデザインし、シ
ルクスクリーンにてエコバッグを制作している。この授
業で制作した生徒37名の作品を展示した。

会期 令和5年12月5日(火)～12月27日(水)

場所 美術館エントランスホール

(2) 文化財保護(レスキュー)活動

災害時においては、県内の美術作品を中心として文化財
の被災情報を収集し、関係機関と連携しながら、作品保全
のための活動を行うこととしている。

能登地震の被害状況についても全国美術館会議を通じて情報
収集しており、可能な範囲で協力する予定である。

(3) 他機関への協力

他機関からの要請に応じて委員会委員や講師等として学芸員
を派遣し、専門的事項に関する助言・協力を行っている。

ア 委員等

・福島ユニセフ協会評議員 根本 和代 館長

・福島市文化振興審議会委員 根本 和代 館長

・斎藤清画伯顕彰協議会特別幹事

根本 和代 館長、増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長

・福島県総合美術展覧会運営委員

増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長

- ・第77回福島県総合美術展覧会大賞選考委員
増淵 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・県外在住功労者知事表彰選考委員
増淵 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員会委員
増淵 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・新潟市美術館・新津美術館美術資料選定委員委員
増淵 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・喜多方市美術品収集委員会委員
増淵 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・倫雅美術奨励賞選考委員 増淵 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・第21回猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト審査委員
坂本 篤史 主任学芸員
- ・茅ヶ崎市美術館「生誕100年没後60年小津安二郎展」協力
月本 寿彦 副主任学芸員
- ・福島市写真美術館運営委員会委員
白木 ゆう美 副主任学芸員
- ・第18回西会津国際芸術村公募展審査員
坂本 篤史 主任学芸員
- ・FUKUSHIMA Next Creators Challenge 2023 予備審査会
齋藤 恵 主任学芸員
- イ 講師派遣、寄稿、発表、受賞等
- ・福島県立医科大学保健科学部「福島県を知る」
開催日 令和5年5月10日(水)
講師 増淵 鏡子 副館長心得兼学芸課長
宮武 弘 主任学芸員
- ・福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ主催イベント
「《大人の遠足》芸術の初夏！美術館と図書館を探検しよう！」
開催日 令和5年5月10日(水)
講師 橋本 恵里 学芸員
- ・令和5年度 福島県高等学校教育研究会美術・工芸部
会「第68回研究大会」
前期 令和5年6月9日(金)、
後期 令和5年10月6日(金)
講師 齋藤 恵 主任学芸員
- ・江東区立東川小学校開校150周年特別授業「おしえて！
関根くん！」
開催日 令和5年6月16日(金)
講師 堀 宜雄 専門員
- ・フォーラム福島トークイベント「美術館の裏側」
（「わたしたちの国立西洋美術館」上映記念）
開催日 令和5年9月23日(土・祝)
講師 坂本 篤史 主任学芸員
- ・県教育センター主催「創造性を育む図画工作・美術の
鑑賞指導法講座」
開催日 令和5年11月1日(水)
講師 齋藤 恵 主任学芸員
白木 ゆう美 副主任学芸員
- ・福島市文化団体連絡協議会主催「市長を囲む文化懇談

会」講演会講師

開催日 令和6年2月14日(水)

講師 根本 和代 館長

- ・第34回倫雅美術奨励賞受賞 坂本 篤史 主任学芸員
「没後200年 亜欧堂 田善 江戸の洋風画家・創造
の軌跡」の企画および図録中の論文

第13節 福島県立博物館

1 概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及
事業を中心に、内容の充実を図っている。

令和5年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

(1) 運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長
に対して意見を述べる機関である。

ア 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある
者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の
選考に一部公募方式を導入した。

学校教育 高橋 由江 会津若松市立神指小学校長

本田 知史 福島県立だて支援学校校長

社会教育 長野 隆人（会長） いわき芸術文化交流館副館長

佐藤 公（副会長） 磐梯山噴火記念館館長

家庭教育 長沼 千恵 福島県家庭教育インストラクタ
一連絡協議会理事

学識経験者 川口 立喜 公立大学法人会津大学グロー
バル推進本部国際戦略室長・上級准教授

四家 久央 合名会社四家酒造店代表社員

大越 章子 日々の新聞社記者

岩崎 和美 書道家

公 募 町田 久次 公募委員

イ 会議

第1回 令和5年6月20日(火)

議題

- ①令和4年度博物館入館者数について
- ②県立博物館・鶴ヶ城天守閣・茶室麟閣共通観覧券の導入について
- ③博物館法の改正について
- ④令和5年度当初予算について
- ⑤令和5年度事業計画について
- ⑥第3期中期目標の進捗状況について
- ⑦「三の丸からプロジェクト」について
- ⑧博物館が抱える課題について

第2回 令和6年2月28日(水)

議題

- ①令和6年度事業計画（案）について
- ②令和6年度文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸
からプロジェクト」事業計画（案）について
- ③博物館が抱える課題（収蔵庫の逼迫）について
- ④第4期中期目標の進捗状況について

2 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員長
岡田 清一	東北福祉大学名誉教授	副委員長
青野 友哉	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科准教授	
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	
奥村 弘	神戸大学理事・副学長	
加藤 幸治	武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授	
北野 博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授	
角屋 由美子	米沢市上杉博物館上杉文化研究室室長	
玉川 一郎	前 福島県考古学会会長	
原田 一敏	ふくやま美術館長	
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館教授	
柳沢 秀行	公益財団法人大原美術館学芸統括	

イ 会議

新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い拡大状況に応じた対策を行うため、対面開催・オンライン開催を組み合わせた開催方法とした。

開催日 令和5年7月26日(水)

議題

- ①今後3年間の展示計画について
- ②令和6年度・令和7年度開催予定企画展について
- ③購入予定資料について
- ④「博物館資料展示活用アウトリーチ事業」について
- ⑤「三の丸からプロジェクト」について
- ⑥震災遺産の常設展示化について

(2) 受贈・受託

ア 歴史資料

- (ア) 受贈 軍事郵便ほか 計25件
(イ) 受託 会津藩家訓写真原版ほか 計15件

イ 美術資料

- (ア) 受贈 秋草蒔絵盆ほか 計155件
(イ) 受託 木造吉祥天立像ほか 計10件

ウ 民俗資料

- (ア) 受贈 行李ほか 計69件
(イ) 受託 映写機・フィルムほか 計41件

エ 考古資料

- (ア) 受贈 須恵器ほか 計2件
(イ) 受託 個人収集考古資料・古文書 計41件

オ 自然資料

- (ア) 受贈 いわき市産白亜紀化石 1件
(イ) 受託 宮古層群産アンモナイト 1件

カ 災害分野

- (ア) 受贈 富岡は負けん! (横断幕) 1件

(3) 購入

ア 美術資料

- 佐竹永海作「大黒天図」 1件

イ 自然資料

- 恐竜類レプリカ 7件

ウ 図書資料

- (ア) 一般図書 29冊
(イ) 定期刊行物 30種

(4) 制作

ア 民俗資料

- 「田島祇園祭の本膳」食品サンプルほか 計5件

3 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料は1件と数える。

収蔵資料数(令和6年3月31日現在)

分野	件数	備考
考古	21,073	土器・石器・金属器ほか
民俗	14,275	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	22,718	書籍・文書資料ほか
美術	7,579	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	44,565	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	637	被災遺物、文書資料、写真ほか
合計	110,847	

令和5年度収蔵指定文化財 国指定：9件
福島県指定：46件

イ 図書及び映像

(ア) 収蔵図書数 (令和6年3月31日現在)

考古分野	30,069冊	民俗分野	5,171冊
歴史分野	11,197冊	美術分野	4,985冊
自然分野	17,987冊	保存分野	1,967冊
震災遺産	207冊	その他	65,668冊
		合計	137,251冊

(イ) 収蔵映像資料数(令和6年3月31日現在)

収蔵映像資料総数 1,920点

(2) 登録・整理

ア 資料管理システムの運用

平成25年度から、それまでのサーバクライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入している。

イ 資料の登録・資料情報の外部公開

登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和6年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (令和5年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (令和5年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	238	12,829	82	4,500
民俗資料類	8,077	24,730	7,249	14,274
歴史資料類	0	47,036	2,529	20,800
美術工芸品類	397	7,568	0	194
自然標本類	3,051	29,877	2,533	19,074
合計	11,763	122,040	12,393	58,842

ウ ボランティア

博物館資料の整理のため、次のとおり資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止により、ボランティア活動日が減った。

(ア) 自然資料整理

相馬中村層群資料の整理作業

登録人数 1名 活動日数 42日

(イ) 古文書整理

歴史資料の整理作業(表題・年代・法量などのデータ採取) 登録人数 13名 活動日数 11日

(ウ) 民俗資料整理

写真資料の整理

登録人数 2名 活動日数 9日

(エ) 考古資料整理

寄贈資料の整理・撮影

登録人数 1名 活動日数 18日

(オ) 美術資料整理

会津工業高校旧蔵資料整理作業

登録人数 1名 活動日数 62日

(3) 貸出

ア 博物館資料

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
郡山市熱海町出土ナウマンゾウ臼歯(レプリカ) 1点	大安場史跡公園	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	常設展
跡見塚古墳出土土玉類 318点	須賀川市立博物館	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	常設展
桜井遺跡出土土器ならびに石器 21点	南相馬市博物館	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	常設展
十二天図(慧日寺旧蔵)旧軸木 正徳6年銘 1点 十二天図(慧日寺旧蔵)旧軸木 文政9年銘 1点	磐梯町磐梯山 慧日寺資料館	令和5年4月5日～ 12月1日	常設展
源氏物語図屏風 六曲一隻	新潟県立歴史博物館	令和5年6月～9月	企画展「NST開局55周年 上杉景勝没後400年 上杉景勝その生涯」
張り子 32点 だるま木型 2点	とみおかアーカイブ・ミュージアム	令和5年6月28日～ 9月30日	企画展「ふくしまの張り子」
正直9号墳出土石製模造品 2点	大安場史跡公園	令和5年7月3日～ 9月15日	企画展「福島県における古墳出土石製祭祀遺物」
原山1号墳出土踊る埴輪1点、琴を弾く埴輪1点	東北歴史博物館	令和5年7月9日～ 10月8日	特別展「古墳をつくる人びとーはにわ工人、ハジベ君!ー」
谷文晁筆「八仙人図」三幅	栃木県立美術館	令和5年10月4日～ 12月26日	企画展「文晁と北斎」
黒釉鉢 1点、黒釉湯たんぼ(当館寄託) 1点 黒釉壺(当館寄託) 1点	いわき市立美術館	令和5年10月17日～ 12月22日	企画展「民藝 MINGEIー美は暮らしのなかにある」
菊漆絵堤重 1点、藤蒔絵堤重 1基 坂内青嵐筆「花見遊楽図」 1面	郡山市立美術館	令和5年10月27日～ 令和6年1月30日	企画展「酒と醸す美術展」
阿弥陀二十五菩薩来迎図(当館寄託) 1幅	府中市美術館	令和6年2月23日～ 5月28日	企画展「ほとけの国の美術」
刺繍阿弥陀名号 1幅	東京国立博物館 京都国立博物館	令和6年3月22日～ 12月末日	特別展「法然と極楽浄土」

イ 写真資料

総数：82件 208点

考古：16件 48点 民俗：7件 16件

歴史：34件 62点 美術：25件 34件

(4) 保存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫及び展示室など主要箇所での保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

ア 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）など主要なスペースの保存環境を6月と10月の年2回調査した。

イ 生物被害防除

7月に1回、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施した。

4 展示事業

(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。分野別の展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

令和6年2月22日以降、排煙設備不具合のため総合展示室は閉室としている。

ア 常設展示室の改善

「三の丸からプロジェクト」におけるインバウンド対応として、分野別展示室の小テーマ解説・展示資料解説（キャプション）の多言語化を進めている。また、展示ロビーを「三の丸アベニュー」として整備した。三の丸アベニューにはあいづスタジアム、分野別展示室（民俗）入口にグラフィックマップ「いま・むかし奥会津めぐり」「鶴ヶ城・城下町年表」を設置した。

イ テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全10回開催した。

- (ア) 「よみがえる会津大塚山古墳」
- (イ) 「花をたずねて—会津ゆかりの漆芸家たち—」
- (ウ) 「会津唐人風の世界」
- (エ) 「けんぱくの宝—会津の絵画 寄贈作品を中心に—」
- (オ) 「祈りのふくしま7—会津の神様 小平瀨天神と土津神君—」
- (カ) 「三島町荒屋敷遺跡を考える」
- (キ) 「地域に生きた民間宗教者」
- (ク) 「四季のうつろい」
- (ケ) 「手仕事が生む花—ふくしまの彼岸花—」
- (コ) 「美しき刃たち」

ウ ポイント展

常設展示室内及びエントランスホールにおいて、特

定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全16回開催した。

- (ア) 「これは何の化石？」
- (イ) 「伝える—新型コロナウイルス感染症関連資料—」
- (ウ) 「猪苗代城絵図」
- (エ) 「ニワトリのなかの恐竜」
- (オ) 「慧日寺の宝物」
- (カ) 「軍事郵便が繋いだ絆」
- (キ) 「都々古別神社の宝物」
- (ク) 「みんなの震災遺産」
- (ケ) 「山川艶—会津藩家老・山川家を支えた女性—」
- (コ) 「写真でみる関東大震災」
- (サ) 「古代官道をゆく」
- (シ) 「若松が大変！城下町と災害」
- (ス) 「民具が伝える災害の記憶」
- (セ) 「山頂の前期古墳—会津若松市堂ヶ作山古墳—」
- (ソ) 「発見！日本初の種類のオウムガイ類化石」
- (タ) 「いいたてミュージアム」
- (チ) 「震災遺産を考える」

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然・災害の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、会期を設定して開催している。令和5年度は、3本の企画展示を開催した。

ア 春の企画展

「Go!Go! 5世紀—東北地方中・南部の古墳文化—」

(ア) 会期 令和5年4月29日(土)～7月2日(日)

開館日数 57日間

- (イ) 会場 企画展示室
- (ウ) 入館者数 6,035人
- (エ) 担当学芸員 考古分野：平澤 慎
- (オ) 趣旨

5世紀とは日本最大の古墳、大仙古墳を含む「百舌鳥・古市古墳群」が造られ、中国大陸や朝鮮半島をはじめとする東アジアと密接に関わり、当時の日本に生活様式の変化など大きな影響を与えた激動の時期であった。ふくしまでもこの時期の古墳や集落遺跡が発見されているが、未だ謎が多い。しかし、喜多方市の灰塚山古墳では出土人骨から科学分析で当時の姿が復元されるなど、近年新たな成果も続いている。

本展では、4世紀後半から5世紀後半までの「古墳時代中期」に焦点をあて、ふくしまを中心に近年の発掘調査成果や新たな出土資料、これまでに知られている資料をとおして、改めてふくしま、東北のこの時代を生きた人々に迫った。

(カ) 展示構成

- a 古墳時代中期のはじまり
- b 王者のすがた—古墳文化の拡大—
- c 開拓する—ムラをつくる、ひろげる—
- d 暮らしを支えた道具たち—つくる・つかう・いのる—

(キ) 関連事業

a 展示解説会

4月29日(土・祝)・5月13日(土)・5月20日(土)
6月18日(日)・7月2日(日)

b 古墳時代のヨロイを着てみよう

5月5日(金・祝)

c 記念講演会「埴輪からわかる東北の5世紀」

5月14日(日)

講師 藤澤 敦(東北大学総合学術博物館教授)

d まじないの道具 石製模造品をつくろう

6月3日(土)

イ 夏の企画展

「仕事が仕事をしている仕事 ー福島のものづくり
と民藝ー」

(ア) 会期 令和5年7月15日(土)～9月24日(日)

開館日数 62日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 4,565人

(オ) 担当学芸員 美術分野:塚本 麻衣子、原 恵理子
民俗分野:山口 拡

(カ) 趣旨

本県には手仕事によるものづくりの文化が根付いており、生活の中で受け継がれてきた。こうした暮らしの中の手仕事の魅力を紹介することを通じて、地域の文化を再発見すること、持続可能な社会のあり方を発信することを目指した。

本展では、民藝運動によって「発見」された手仕事の数々を取り上げ、どのような評価がされたのかを概観した。一方、市井の人々が暮らしの必要性の中で作り出した手仕事を展示することで、作り手にとっての「うつくしさ」や「よるこび」の価値を考えた。

これによって、手仕事の価値を考え、現代の生活のあり方について考えるきっかけとなる展覧会を目指した。

(キ) 展示構成

a 仕事が仕事をしている仕事

b 民藝と民具

c 民藝とは何か

d 手仕事のうつくしさ

(ク) 関連事業

a 講演会「作るのではなく、生まれる」

8月19日(土)

講師 鞍田 崇(哲学者/明治大学准教授)

b ワークショップ「ほうきをつくろう」

9月9日(土)

講師 宮原 克人(筑波大学准教授)

c からむし織体験生30周年記念事業「からむしと仕事道具、作品展」

8月26日(土)～9月10日(日)

主催:昭和村、共催:福島県立博物館

d 展示解説会

7月15日(土)、8月12日(土)、8月27日(日)、
9月23日(土・祝)

ウ 秋の企画展「伝えるー災害の記憶ー」

(ア) 会期 令和5年10月7日(土)～12月17日(日)

開館日数 61日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 2,878人

(オ) 担当学芸員 災害分野:筑波 匡介、鈴木 弥生

(カ) 趣旨

関東大震災から100年の節目の年に、大正後期から戦前期にかけ同和火災海上保険(現あいおいニッセイ同和損保株式会社)の廣瀬鍼太郎氏が収集した「あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料」を紹介する展示会。18世紀から20世紀初頭に全国で発生した火災・台風・地震・疫病などによる各災害をほぼ網羅したもので、これらの記録は、現代の災害と地域的に一致するものもあり、災害の生々しい状況を伝えるとともに、災害を擬人化して笑い飛ばそうとする態度が見られることも特徴のひとつである。過去の人々がどのように災害と向き合い、災害を伝えようとしていたのか、災害が頻発する現代においても、防災・減災に繋がるヒントを見つける機会としたい。ふくしまの経験として「震災遺産」の紹介も行った。

(キ) 展示構成

a 京都・大坂の災害史

b 江戸の災厄と絵画

c 諸国の災害と復興

d 近代の災害とメディア

e 疫病との向き合い方

f 震災遺産を考える

(ク) 関連事業

a 防災イベント「消防車と煙体験」

10月7日(土)

講師 会津若松地方広域市町村圏整備組合会津若松消防署

b 防災イベント「その時君はどうする？」

10月7日(土)

講師 日本赤十字社福島県支部

c 防災イベント「降雨体験」

10月21日(土)

講師 国土交通省北陸地方整備局阿賀川河川事務所

d 防災イベント「マイ避難推進講座」

10月21日(土)

講師 福島県危機管理課

e 展示解説会

11月3日(金・祝)

f 企画展関連講座「川と人の物語」

11月5日(日)

講師 鈴木 克彦(元当館学芸員)

g 震災遺産講座「災害とミュージアム」

11月11日(土)

講師 内山 大介(淑徳大学教授)、

筑波 匡介(当館学芸員)

h 防災イベント「そなえる・ふくしま出前講座」

11月18日(土)

講師 福島県危機管理課

エ 冬の企画展「古い道具と昔の暮らし～今の生活と比べてみよう～」

(ア) 会期 令和6年1月13日(土)～3月31日(日)

開館日数 67日間

(イ) 会場 収蔵資料展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 4,702人

(オ) 担当学芸員 民俗分野：山口 拓

(カ) 趣旨

小学校3、4年生の社会科単元に昔のくらしや道具に関する学習が含まれていたことから、長年全国の博物館や郷土資料館において関連する展示や学習プログラムが開催されてきた。しかし、学習指導要領の改訂等に伴い、こうした学習に関する需要にも変化がみられるようになってきている。本特集展は、これまで当館が開催してきた「古い道具と昔のくらし」に関する小展示の成果をまとめるとともに、これらの資料をどのような学習に活用することができるかという可能性を提示するものとして開催した。

(キ) 展示構成

氷冷蔵庫、羽釜、洗濯板、タライ等展示資料 53件

(3) 指定文化財の公開

令和5年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った(館蔵・寄託品などは除く)。

ア 国指定

〈重要文化財〉

(ア) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち2点 檜葉町教育委員会(福島県)

(総合展示室：原始にて展示公開)

イ 県指定(福島県指定)

〈重要文化財〉

(ア) 関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器 4点 福島県

(イ) 根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1点 いわき市

(ウ) 夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2点 いわき市

(エ) 森北1号墳出土品のうち 石製品及び鉄製品 4点 会津坂下町

(以上4件は、総合展示室：古代にて展示公開)

(4) 展示解説

ア 展示解説員

令和5年度の展示解説員の人数は13名で前年度と変わらなかった。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い拡大状況に応じた対策を行いながら、展示解説員としての対応を検討してきた。総合受付・売店およびモギリのアクリルパーテーションなども段階的に撤収を行っている。

イ 学芸員

企画展及び特集展の開催中は、職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。令和5年度は年間165回を数えた。

2月以降は総合展示室が閉室となっており、展示資料の保全等について対応を行っている。

5 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向け、令和5年度は以下の7テーマの調査を実施した。

ア 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古分野

(イ) 調査概要

新地町教育委員会所蔵三貫地貝塚出土製塩土器の内容確認調査と当館所蔵土偶の内部構造調査を実施した。

イ 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 民俗・考古・歴史・自然・災害分野

(イ) 調査概要

震災遺産の常設展での展示に向けて、学芸員との意見交換を通じて、来館者に求められる内容の検討や、今後展示に必要な資料等の確認を行った。他施設の学芸員とも現代史の捉え方や関連資料に関して意見交換を行った。第二次世界大戦後から県土の開発や産業の変遷などを軸とした現代史の展示として東日本大震災までを検討範囲としている。また震災遺産を用いた教育普及活動を通じて、問いを活用した講座やワークショップを実施し、災害伝承の持続可能性の獲得についても検討を行った。特に高校における授業を教員と共に実施することができた。またその成果の一部を研究紀要に掲載した。

ウ 福島県の恐竜化石産地の研究

(ア) 分野 自然分野

(イ) 調査概要

恐竜化石産地の現地調査を行い、新たに中生代大型化石を採取した。いわき市、広野町、南相馬市での調査研究を中心に調査をすすめた。

エ 近世・近代絵地図の研究

(ア) 分野 歴史分野

(イ) 調査概要

主に福島県立図書館、福島県歴史資料館、会津若松市立会津図書館、防衛研究所戦史研究センター史料室所蔵の絵図・地図等の資料を調査した。成果の一部は、

ポイント展「猪苗代城絵図」として公表した。

オ 福島県内の食文化の伝承に関する研究

(ア) 分野 民俗分野

(イ) 調査概要

田島祇園会館の協力を得て、伝統的な保存食の一つである「つと豆腐」や田島祇園祭おとうや行事において作られる「どぶろく」や「本膳料理」について祭礼の様子や製作の流れを撮影・調査するとともに、食品サンプルを製作し、展示資料の充実に資した。

カ 国宝・白水阿弥陀堂の維持修理に関する基礎研究

(ア) 分野 保存科学分野

(イ) 調査概要

いわき市所有行政資料、国立歴史民俗博物館所蔵資料を中心に熟覧を行った。

キ 会津地方の仏像・仏画の調査研究

(ア) 分野 美術分野

(イ) 調査概要

会津地方の中央エリア・北エリアを中心に調査を行った。喜多方市万勝寺・弁財天像は、調査結果に基づいて喜多方市の文化財指定を受け、将来的な保存に向けた動きにつながった。柳津町では正徳寺薬師堂薬師如来像など2件の仏像調査を行い、現状の保存状態を確認するとともに、地域の方に保存体制の確認を行った。

(2) その他の調査研究事業

ア 古文書整理事業

坂内(利)家・年野家・齋藤(俊)家・笠間家の資料整理を行った。整理が済んだ笠間家・石井(健)家・年野家の資料については、写真撮影も行った。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「松崎達夫家寄贈資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア 研究成果の公表(職員の氏名あいうえお順)

(ア) 唐沢 與希、鈴木 颯一郎、西 夏輝、二上 文彦、猪瀬 弘瑛

「相馬中村層群(中部ジュラ系～下部白亜系)産出の絶滅オウムガイ類2属」『日本古生物学会第173回例会講演要旨集』

猪瀬 弘瑛

「アウセリナ」「アンモライト」「カルピオネラ」「コンボウガキ」「単板類」「浮動軌道周期年代」「メガロドン」「メガロドン石灰岩」「竜骨群集」『最新 地学事典』

猪瀬 弘瑛、塚本 麻衣子、小林 めぐみ、川延 安直、西尾 祥子、小林 美夏

「実践報告「孔雀石での岩絵の具づくり講座」」『福島県立博物館紀要』第38号

猪瀬 弘瑛、自見 直人

「福島県南会津郡只見町に分布する中新統布沢層から産した多毛類化石について」『福島県立博物

館紀要』第38号

猪瀬 弘瑛、橋本 海瑠

2024.3「福島県伊達市に分布する中新統梁川層から産した *Aturia cubaensis*」『福島県立博物館紀要』第38号

猪瀬 弘瑛、歌川 史哲、相場 大佑、村宮 悠介

「福島県いわき市に分布する上部白亜系双葉層群足沢層から得られた *Tongoboryceras kawashitai* (アンモノイド) について」『福島県立博物館紀要』第38号

栗原 祐斗

「陸軍歩兵第二十九連隊資料『内務参考書綴』附『若松衛戍勤務規則』」『福島県立博物館紀要』第38号

高橋 充

「中世の社会と信仰・宗教」『相馬市史』第一巻 通史編1 原始・古代・中世 福島県相馬市 642-685頁

高橋 充

「資料紹介 会津三十三所順礼記」『福島県立博物館紀要』第38号

高橋 満

「東北地方南部における縄文中期末の人体文・狩猟文土器」『土偶研究の新展開～資源利用史と土偶祭祀～』明治大学資源利用史研究クラスター研究成果公開シンポジウム予稿集 pp11-16

高橋 満

「製塩土器を観察する一階上町内出土の縄文時代晩期の事例一」『はしかみ』八十号、階上町教育委員会

塚本 麻衣子

「馬頭観音堂 木造馬頭観音立像解説」『会津坂下町仏像等悉皆調査報告書』上巻 会津坂下町教育委員会

筑波 匡介

「東日本大震災の震災遺産からの「気づき」とこれから」『非常時の記録保存と記憶化 戦争・災害・感染症と地域社会』地方史研究協議会編 岩田書院

筑波 匡介

「地域資源に関わる博物館—デジタル、仕事、協働」『文化資源の保全と図書館・博物館』LRG2023 秋号 45号

関谷 央子、筑波 匡介

「震災遺産と問い」『福島県立博物館紀要』第38号

筑波 匡介

「博物館における防災教育」『福島県立博物館紀要』第38号

平澤 慎、高橋 満、山本 俊、田中 敏

『Go! Go! 5世紀 東北地方中・南部の古墳文

化』福島県立博物館

山口 拓、塚本 麻衣子、原 恵理子

『仕事が仕事をしている仕事ー福島のものづくりと民藝ー』福島県立博物館

Chinzorig, T., Takasaki, R., Yoshida, J., Buyantegsh, B., Mainbayar, B., Tucker, R., Tsogtbaatar, K., Zanno, L.E.

(2023). The oldest pachycephalosaur (ornithischia:marginocephalia) from the Lower Cretaceous Huhteg Formation at Khuren Dukh locality in southeastern Mongolia. Abstract book for 83rd Annual meeting of Society of Vertebrate Paleontology, Cincinnati, USA

(イ) 学会発表

唐沢 與希、鈴木 颯一郎、西 夏輝、二上 文彦、猪瀬 弘瑛

「相馬中村層群（中部ジュラ系～下部白亜系）産出の絶滅オウムガイ類 2 属」日本古生物学会第 173 回例会

高橋 満

「震災遺構『富岡町災害対策本部跡』を考える」とみおかアーカイブミュージアム『震災遺産を語る 2023』

高橋 満

「東北地方南部における縄文中期末の人体文・狩猟文土器」明治大学資源利用史研究クラスター研究成果公開シンポジウム『土偶研究の新展開～資源利用史と土偶祭祀～』

関谷 央子、筑波 匡介

「震災遺産と問い」東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会

筑波 匡介

「博物館の防災講座ー震災遺産を活用した防災教育についてー」東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会

平澤 慎

「東北における方墳の展開」関東・東北前方後円墳研究会第 26 回研究大会シンポジウム『東北・関東における方墳の展開』

吉田 純輝

「福島県立博物館から 最新の恐竜研究」丹波竜フェスタシンポジウム『ここがすごい！最新恐竜化石調査～次世代古生物学者が語る～』

Chinzorig, T., Takasaki, R., Yoshida, J., Buyantegsh, B., Mainbayar, B., Tucker, R.,

Tsogtbaatar, K., Zanno, L.E.

(2023). The oldest pachycephalosaur (ornithischia: marginocephalia) from the Lower Cretaceous Huhteg Formation at Khuren Dukh locality in southeastern Mongolia. 83rd Annual meeting of Society of Vertebrate Paleontology, Cincinnati, USA

Yoshida, J.

(2023). Hear the Past: The first discovery of dinosaur larynx. Dinosaurs: New Discoveries. A Conference honoring Dr. Mark A. Norell in American Museum of Natural History, New York, USA.

Kondo, M., Tanaka, K., Utagawa, F.,

Yoshida, J.

(2023). A possible ornithopod sternal from the Upper Cretaceous Ashizawa Formation of the Futaba Group in Iwaki City, Fukushima Prefecture, Japan. 2nd Asian Palaeontological Congress, Tokyo, Japan.

6 教育普及事業

(1) 他団体による委嘱等

猪瀬 弘瑛 ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーターほか 3 件

大里 正樹 須賀川市文化財保護審議会委員ほか 7 件

川延 安直 喜多方市美術館収集委員会委員ほか 8 件

栗原 祐斗 郡山市文化財保護審議会委員ほか 2 件

小林めぐみ 福島芸術計画運営委員会委員ほか 10 件

高橋 充 二本松城跡整備検討委員会委員ほか 16 件

高橋 満 明治大学資源利用史研究クラスター研究推進員

田中 敏 会津坂下町史編さん委員ほか 3 件

塚本麻衣子 喜多方市文化財保護審議会委員ほか 1 件

筑波 匡介 磐梯山ジオパーク協議会運営委員ほか 3 件

原 恵理子 大堀相馬焼伝統工芸産地委員会委員ほか 2 件

山口 拓 会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員

吉田 純輝 北海道大学総合博物館資料部研究員ほか 1 件

(2) 研究助成金等

高橋 満

科研費・基盤研究 (C)

「霞ヶ浦沿岸における縄文時代土器製塩史復元のための基礎的研究」研究代表者

吉田 純輝

科研費・若手研究

「鳥類固有の発声器の発生の研究～「鳴管」の形態形成と起源の解明～」研究代表

(1) 講座・講演会

館長と学芸員による各種講座のほか、外部講師によるさまざまな講座・講演会等を実施している。令和 5 年度の各講座開催数は 105、総参加者数は 8,464 人であった。

ア 令和 5 年度講座・講演会等行事一覧

(7) 特別講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
特別講座①「詩人のいる博物館 まず撮る、まず書く」	和合 亮一（詩人） 初沢 亜利（写真家）	令和5年9月2日（土）	32
特別講座②「詩人のいる博物館 書を捨てよ、博物館へ行こう」	和合 亮一（詩人） 佐々木 英明（三沢市寺山修司記念館館長）	令和5年12月23日（土）	65
特別講座③「詩人のいる博物館 時を経て、書く、今」	和合 亮一（詩人） 佐藤 厚志（小説家）	令和6年2月17日（土）	94

(イ) 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
縄文土器をつくろう	高橋 満・山本 俊（学芸員）	令和5年7月29日（土） 令和5年7月30日（日）	21
縄文土器の野焼き	当館考古分野学芸員	令和5年10月8日（日）	10
会津大塚山古墳をつくろう	平澤 慎（学芸員）	令和5年11月12日（日）	12
歩いて学ぶ会津大塚山古墳	平澤 慎（学芸員）	令和5年11月23日（木・祝）	19
勾玉・ガラス玉をつくろう	田中 敏、平澤 慎（学芸員）	令和6年3月17日（日）	15

(ウ) 民俗講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
リニューアル記念 部門展示室（民俗） 展示解説会	大里 正樹、山口 拓（学芸員）	令和5年4月23日（日）	46
テーマ展「会津唐人凧の世界」解説会	大里 正樹（学芸員）	令和5年5月13日（土）	11
記録映像で見るふくしまの暮らし1		令和5年8月27日（日）	8
記録映像で見るふくしまの暮らし2		令和5年9月24日（日）	20
記録映像で見るふくしまの暮らし3		令和5年10月22日（日）	14
テーマ展「地域に生きた民間宗教者」解説会	山口 拓（学芸員）	令和5年11月5日（日）	9
集まれ彼岸獅子！シンのお面をつくろう！	山口 拓（学芸員）	令和6年2月24日（土）	16
テーマ展「手仕事が生む花-ふくしまの彼岸花-」解説会	大里 正樹（学芸員）	令和6年3月16日（土）	29

(エ) 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
はじめてさんの古文書講座①	栗原 祐斗（学芸員）	令和6年2月3日（土）	26
はじめてさんの古文書講座②	栗原 祐斗（学芸員）	令和6年2月12日（月・祝）	26
かじったさんの古文書講座① 「会津藩の家世実紀を読んでみよう」	高橋 充（副館長）	令和6年3月9日（土）	46
かじったさんの古文書講座② 「会津の三十三観音順礼記を読んでみよう」	高橋 充（副館長）	令和6年3月16日（土）	41

(オ) 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
新種の見つけ方	猪瀬 弘瑛、吉田 純輝（学芸員）	令和5年5月4日（木・祝）	13
恐竜の科学	吉田 純輝（学芸員）	令和5年7月17日（月・祝）	37

(カ) 保存科学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
古代の紙について学ぼう！	杉崎 佐保恵（学芸員）	令和5年7月9日（日）	6

(キ) 美術講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
美術放談1「工芸的絵画と絵画的工芸」	小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員）	令和5年5月27日（土）	27
美術放談2「会津の絵画」	小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員）	令和5年8月5日（土）	38
神になった人々 菅原道真と保科正之	佐藤 弘夫（東北大学名誉教授）	令和5年10月1日（日）	28
美術放談3「神様と殿様」	小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員）	令和5年10月28日（土）	27
美術放談4「自然の表象（イメージ）」	小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員）	令和6年1月13日（土）	27
美術放談5「託した思い」	小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員）	令和6年2月24日（土）	23
未来の記憶のために	港 千尋（写真家/著述家/多摩美術大学教授）	令和6年3月10日（日）	23

(ク) 防災講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
伝える～楽しいそなえ	鈴木 弥生、筑波 匡介 (学芸員)	令和5年9月1日(金)	10

(ケ) 企画展・特集展関連行事

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
企画展「Go!Go! 5世紀」内覧会 (友の会・報道向け)		令和5年4月28日(金)	12
企画展「Go!Go! 5世紀」展示解説会	平澤 慎 (学芸員)	令和5年4月29日(土・祝)	13
		令和5年5月13日(土)	11
		令和5年5月20日(土)	8
		令和5年6月18日(日)	20
		令和5年7月2日(日)	40
古墳時代のヨロイを着てみよう	山本 俊、平澤 慎 (学芸員)	令和5年5月5日(金・祝)	25
講演会「埴輪からわかる東北の5世紀」	藤澤 敦 (東北大学総合学術博物館教授)	令和5年5月14日(日)	47
まじないの道具 石製模造品をつくろう	平澤 慎 (学芸員)	令和5年6月3日(土)	20
企画展「仕事が仕事をしている仕事」内覧会 (友の会・報道向け)		令和5年7月14日(金)	17
企画展「仕事が仕事をしている仕事」展示解説会	山口 拓、塚本麻衣子 (学芸員)	令和5年7月15日(土)	9
		令和5年7月22日(土)	9
		令和5年8月12日(土)	7
		令和5年8月27日(日)	21
		令和5年9月23日(土・祝)	12
講演会「作るのではなく、生まれる」	鞍田 崇 (哲学者/明治大学准教授)	令和5年8月19日(土)	67
ワークショップ 「ほうきをつくろう」	宮原 克人 (筑波大学准教授)	令和5年9月9日(土)	15
		令和5年9月10日(日)	15
企画展「伝える 災害の記憶」内覧会		令和5年10月6日(金)	16
防災イベント「消防車と煙体験」	会津若松地方広域市町村圏整備組合会津若松消防署のみなさん	令和5年10月7日(土)	123
防災イベント「その時、君はどうする」	日本赤十字社福島県支部のみなさん	令和5年10月7日(土)	43
防災イベント「降雨体験」	国土交通省北陸地方整備局阿賀川河川事務所のみなさん	令和5年10月21日(土)	60
防災イベント「マイ避難推進講座」	福島県危機管理課のみなさん	令和5年10月21日(土)	36
企画展「伝える 災害の記憶」展示解説会	鈴木 弥生 (学芸員)	令和5年11月3日(金・祝)	12
講座「川と人の物語」	鈴木 克彦 (当館元学芸員)	令和5年11月5日(日)	8
	筑波 匡介 (学芸員)		
震災遺産講座「災害とミュージアム」	内山 大介 (淑徳大学教授) 筑波 匡介 (学芸員)	令和5年11月11日(土)	19
防災イベント「そなえる・ふくしま出前講座」	福島県危機管理課のみなさん	令和5年11月18日(土)	15

(コ) 博物館講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ナイトミュージアム		令和5年8月19日(土)	75
親子で探検！博物館のウラ側		令和5年8月20日(日)	17
		令和6年2月4日(日)	14
三の丸から講座①「三の丸誕生」	高橋 充 (副館長)	令和5年10月22日(日)	39
三の丸から講座②「文化の華開く若松城」	高橋 充 (副館長)	令和5年11月25日(土)	34
	小林 めぐみ、川延 安直 (学芸員)		
三の丸から講座③「知られざる三の丸の昔と今」	吉田 純輝 (学芸員)	令和5年12月9日(土)	37
三の丸から講座 特別講演会「会津鶴ヶ城に刻まれた時代の移り変わり」	齋藤 慎一 (公益財団法人東京都歴史文化財団江戸東京たてもの園)	令和6年1月21日(日)	115

(サ) みんなでつくるイベント

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
津軽三味線と各地の民謡	玄如節顕彰会	令和5年6月17日(土)	83
会津磐梯山市民盆踊り	会津磐梯山盆踊り保存会	令和5年8月15日(火)	151
けんぱくクリスマスコンサート	酒蔵オペラ合唱団 with friends	令和5年12月24日(日)	103
会津の彼岸獅子	本滝沢獅子舞保存会	令和6年3月3日(日)	88
こどもミニミニはくぶつかん	会津大学短期大学部幼児教育学科・福祉学科葉山ゼミ、 会津大学短期大学部あそびサークル、当館学芸員	令和5年5月3日(水・祝) ～5日(金・祝)	439
		令和5年8月12日(土)	135
	会津大学短期大学部幼児教育学科・福祉学科 葉山ゼミ、会津大学コンピューター理工学部	令和6年1月27日(土)	60
博物館でもよみきかせ	心に虹のおはなし会	令和5年5月13日(土)	11
	ハーモニー	令和5年6月10日(土)	8
	会津大学短期大学部幼児教育学科・福祉学科葉山ゼミ	令和5年7月8日(土)	9
	会津大学短期大学部幼児教育学科・福祉学科葉山ゼミ	令和5年8月12日(土)	50
	マザーグース	令和5年9月9日(土)	8
	坂下読み聞かせの会	令和5年10月14日(土)	5
	ハーモニー	令和5年11月11日(土)	30
	会津大学短期大学部幼児教育学科・福祉学科 葉山ゼミのみなさん	令和5年12月9日(土)	2
会津短大生とあそぼう	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科あそ びサークルのみなさん	令和5年7月29日(土)	21
		令和5年10月1日(日)	22
		令和5年12月9日(土)	8

(シ) 実技講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ワークショップ 会津唐人和風作り	大里 正樹(学芸員)	令和5年5月3日(水・祝)	71
藁に親しむワークショップ～楽しく学ぼう わら細工	大里 正樹、山口 拡、西尾 祥子(学芸員)	令和5年12月2日(土)	22

(ス) 三の丸からプロジェクト

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
雪国ものづくりマルシェ・春		令和5年5月20日(土) ～5月21日(日)	2,091
雪国ものづくりマルシェ・秋		令和5年9月16日(土) ～9月17日(日)	2,069
武士が愛したかそけき音色・七弦琴に触れる	飛田 立史(琴士)	令和5年10月9日(月・祝)	15
刀剣取扱い講座	藤安 将平(将平鍛刀場 刀匠)	令和5年11月4日(土)	17
松平家の茶道を見る、飲む、楽しむ	茶道石州流宗家会津支部のみなさん	令和5年11月19日(日)	36
見て触れて、能を体験してみよう	会津能楽会のみなさん	令和5年11月26日(日)	10
カラムシの繊維でコースターを織ろう!	奥会津昭和村振興公社のみなさん	令和5年12月10日(日)	13
会津木綿でブックカバーとしおりをつくろう	田崎 薫(株式会社はらっぱ)	令和5年12月16日(土)	11
会津本郷焼の器をつくろう	宗像 利像(宗像窯9代目)	令和6年1月14日(日)	15
錫粉蒔絵に挑戦!～ミニトレイまたは盃の 絵付け体験～	八木 由紀子、佐藤 淳(蒔絵師)	令和6年1月28日(日)	16
ヒゴからつくるコースターづくり	菅家 豊(編み組細工職人)	令和6年2月11日(日)	17
六ッ目ザルをつくろう～またたび細工	菅家 豊(編み組細工職人)	令和6年2月25日(日)	5

(セ) 共催事業

テーマ	主催	期日	参加人数
ふくしまの城・城址巡り会津三城ものがたり 歴史講演会&パネルディスカッション	千田 嘉博(城郭考古学者)ほか	令和5年6月24日(土)	200
実技講座「鉱物標本をつくろう」	博物館友の会化石鉱物探検隊のみなさん	令和5年8月6日(日)	21
会津史学会歴史文化講演会「幕末会津藩の国事周旋」	白石 烈(宮内庁書陵部主任研究官)	令和5年11月12日(日)	132

(7) 後援事業

テーマ	主催	期日	参加人数
歴史春秋出版・講演会「法相宗徳一の教化－会津と常陸を語る－」	内山 純子	令和5年4月22日(土)	106
福島県民俗学会大会		令和5年6月4日(日)	20
雪と氷のワークショップ in 福島	中谷宇吉郎雪の科学館友の会	令和5年8月11日(金・祝)	68
蒲生氏郷講演・シンポジウム		令和5年9月3日(日)	150
学校法人同志社大学創立150周年記念講演会「新島八重さんの贈り物－心の和きものその人は地を嗣がむ－」	山下 智子 (同志社大学教授)	令和5年9月23日(土)	84
会津若松観光ルネッサンス主催 講演会「蒲生氏郷の部屋で学ぶ」	庄司 裕 (会津史学会)、宮崎 宗伊 (会津茶道会)、高橋 充 (副館長)	令和6年3月17日(日)	19
会津民俗研究会講演会		令和6年3月31日(日)	62

(8) 友の会事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
講演会「平安時代の会津の仏像」	若林 繁 (元東京家政大学教授)	令和5年4月9日(日)	73
講演会「恐竜の声がきこえる?～福島県博から恐竜研究の最前線へ～」	吉田 純輝 (学芸員)	令和5年12月17日(日)	51

(2) 雪国ものづくり広場 なんだべや

エントランスホール隣に位置し、さまざまな体験を提供する場として設置されたスペース。令和4年度に「三の丸からプロジェクト」により、ものづくり文化を体験・学ぶことのできるスペースへとリニューアルし、本年度は同プロジェクト体験型プログラム（武家文化体験、ものづくり体験）や、雪国ものづくりマルシェのワークショップを開催した。また、ものづくりの制作者の滞在制作も実施し、ものづくり文化に触れられる空間として充実をはかった。その他、トークイベントやワークショップ等を開催し、なんだべやの多様な活用につなげた。また、「博物館でも読み聞かせ」など未就学児向けの事業を定期的に開催した。

(3) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

ア 展示室での自主学習（しおり・ワークシート）

新型コロナウイルス感染防止対応のため、展示室での密集を避け常設展示室を各自のペースで見学できるワークシート（「キミだけの「たからもの」をさがそう！」）を当館ホームページで公開、ダウンロードしていただけるようにしている。また、親子で来館された利用者向けには、文化庁の「令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業」を活用し、ポリフォニックミュージアムアートワークショップ「博物館部」で作成したワークシート（「博物館でどうぶつさがし」）を常設展示入口や体験学習室に設置している。

イ 学習プログラム

課外授業・修学旅行の学校団体に対し、常設展示の見どころや概要を伝える学習講座を多数開催した。

公民館や地域のコミュニティセンターなどの団体には、企画展見どころ解説のプログラムをご利用いただいた。また、特別支援学校や未就学児の教育・保育施設（幼稚園・こども園等）の団体に対しては、事前に先生方との打合せの時間を十分にとり、園児・児童・生徒の理解や興味関心などの実態を把握した上で、さわれる資料の提示や関連するワークショップを行うなど、楽しみながら学びにつながる独自のプログラムを作成、提案した。

ウ 未就学児団体連携事業

前年度の試行の検証を踏まえて、「会津慈光こども園」「会津慈光第二こども園」とは通年で学習プログラムを実施した。また、「認定こども園こどもの森」とは、「ハニワ」をテーマに春の企画展観覧以降、通年でゲストティーチャーと学習プログラムを組み合わせた連携事業を行った。これらの連携事業を紹介することで、博物館の事業やめざす姿を知っていただく場にするため、1月13日(土)～1月26日(金)の期間に「子ども園と福島県博の連携事業の事業報告展」として、連携事業により制作した作品の展示を行った。

エ 障がい者支援団体連携事業

福島県立会津支援学校（竹田校を含む）と連携し、ゲストティーチャー、来館時の学習プログラム提供などを通年で実施した。先生方と事前の打合せを行い、授業のねらい、児童・生徒の障がいや興味関心などの実態把握をした上で、延べ22回実施した。令和6年2月20日(火)～3月10日(日)の期間に「アートによる新生ふくしま交流事業『アートで広げる子どもの未来プロジェクト』福島芸術計画2023』の成果展とあわせ、「福島県博の連携事業の事業報告展」として、連携事業により制作した作品等の展示を行った。

オ 指導者向け研修

今年度は「博物館を活用した学びプログラム研修会」と題し、当館が学校や公民館等の団体向けに提供してきたプログラムや協働の事例を紹介した。博物館のもつ多様な学習プログラムを伝えると同時に、利用者とともに振り返る報告を交え、当館の学校や公民館における活用の推進を図った。

- ・令和6年2月6日(火) 6名の参加

カ 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で貸出用の学習用具・教材等を準備している。新型コロナウイルス感染症の予防のため貸出事業の停止となった期間に各分野にて貸出用具・教材の準備を整えたが、今年度の貸出は考古分野の舞いぎり式発火具セットの貸出1件に止まった。

キ ゲストティーチャー

学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。令和5年度の実施回数は62回で、参加者は3,956人であった。

ク 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和4年度は7校からの要請があり、受け入れを実施した。

○職場体験受け入れ実績(生徒のみ)

- ・福島県立会津西陵高等学校 (2年生1名) 2日間

- ・会津若松市立大戸中学校 (2年生1名) 3日間
- ・福島県立若松商業高等学校 (2年生3名) 1日間
- ・会津若松市立北会津中学校 (2年生1名) 2日間
- ・金山町立金山中学校 (3年生1名) 1日間
- ・会津若松市立若松第三中学校 (2年生3名) 2日間
- ・福島県立会津支援学校 (高等部10名) 2日間

ケ 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。令和5年度は県内出身学生8名を受け入れた。

実習期間 令和5年8月29日(火)～9月3日(日)

(4) 生涯学習・研究支援

ア 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物及び博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は2,994冊である。

イ 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数

考古：11件22点 歴史：17件198点 民俗：5件66点
美術：3件10点 自然：1件1点 計37件297点

ウ 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。令和5年度の派遣回数は17回で、参加者は655人であった。

講師派遣一覧

月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催
令和5年5月14日(日)	高橋 満	災害	震災遺構「富岡町災害対策本部跡」を考える	とみおかアーカイブ・ミュージアム
令和5年5月28日(日)	猪瀬 弘瑛	自然	ワークショップ「アンモナイトの名前をあてよう！入門編」	南相馬市博物館
令和5年6月10日(土)	筑波 匡介	災害	コア・アクティブ科目講義	福島大学
令和5年7月8日(土)	筑波 匡介	災害	コア・アクティブ科目講義	福島大学
令和5年8月26日(土)	筑波 匡介	災害	第3期防災教育コーディネーター養成塾	公益社団法人中越防災安全推進機構 地域防災力センター
令和5年8月31日(木)	高橋 充	歴史	教養部研修会「鶴ヶ城について」	会津若松市区長会
令和5年9月1日(金)	高橋 充	歴史	三十三観音霊場へのあこがれ	極上の会津プロジェクト協議会
令和5年9月1日(金)	高橋 充	歴史	江戸時代の猪苗代	猪苗代町教育委員会
令和5年9月8日(金)	高橋 充	歴史	蒲生氏郷の人物像とまちづくりについて・神田万世橋教室	会津若松市ルネッサンス協議会・大人の休日倶楽部
令和5年10月14日(土)	高橋 満	考古	三貫地貝塚里帰り展展示解説	新地町
令和5年10月19日(木)	高橋 充	歴史	中近世の二本松城について	福島県教育委員会・公益財団法人福島県文化振興財
令和5年10月24日(火)	筑波 匡介	災害	防災ワークショップ	猪苗代町ボランティア連絡協議会
令和5年11月4日(土)	高橋 充	歴史	中世の会津ーそこにはいつも戦いがあったー	会津坂下町教育委員会
令和5年12月3日(日)	吉田 純輝	自然	丹波龍フェスタ2023「次世代古生物学者が語る！地域の恐竜化石調査・研究」	丹波市

月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催
令和5年12月6日(水)	吉田 純輝	自然	恐竜博士になろう	会津若松市生涯学習総合センター
令和5年12月18日(月)	吉田 純輝	自然	恐竜は鳴く?～なぞの骨の正体を探る～	いわき市アンモナイトセンター
令和6年1月27日(土)	山本 俊	考古	縄文時代からの遺物採集家の生涯－ 好古の人・丹野狄仙－	相馬郷土研究会

エ 子育て世代対応事業

「博物館でもよみきかせ」「こどもミニミニ博物館」を実施した。令和5年度は本事業を他団体との協働による事業として実施した。協働の団体として、地域の読み聞かせの団体の会員、連携している会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科の先生と学生、会津大学コンピューター理工学部の先生・学生と事前の打合せと事後の振り返りの時間を確保し、丁寧に意見交換をしながら実施にあたった。

オ 動画の制作と配信

前年度から引き続き、自宅でも楽しみながら学べる機会を提供しようというねらいのもと動画の制作と配信を行った。令和5年度は5本の動画を公開した。

(5) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して当館開催事業の周知、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア 友の会の概要

(ア) 発足 平成元年3月10日

(イ) 設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(ウ) 総会の開催

会計年度の期間が変更されたことにより、令和5年度の事業・会計決算報告と令和6年度の事業・予算案を審議する総会は、令和6年4月14日(日)に開催されることとなった。

(エ) 令和5年度会員数

個人会員 137名 家族会員 34名 高校生会員 0名
賛助会員 3名 合計 175名

イ 令和5年度事業概要

(ア) 講演会の開催

2回の講演会を開催した。内容と日時は「6-(1)-(ウ)友の会事業」を参照。

(イ) 研修旅行

令和5年度の研修旅行の実施は見送られた。

(ウ) 会報の発行

友の会会報第130号・第131号を発行し会員に配布した。

(エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、参加申し込み・定員制とし、展示室での解説は行わず、講堂での解説、展示室での自由観覧という開催形態をとった。

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

ウ サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会、考古学倶楽部、仏像を研究し旅する会の4サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立。会員数40名。令和5年度は全6回の野外活動(化石・鉱物の観察活動)のほか、実技講座「化石標本をつくろう」といったイベントを博物館で開催した。

(イ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時17名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは4つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解説・考察にあたっている。通常月1回の活動計画で、令和5年度は前年度から引き続き「大町に関する書上」の解説を行った。

(ウ) 考古学倶楽部

考古学に興味をもつ友の会会員が集うサークルで、令和3年4月に発足した。研修会や考古学関連の展覧会の見学を行った。

(エ) 仏像を研究し旅する会

県内の仏教文化、特に仏像に関心をもつ会員によって、令和3年度から活動を開始。会員は11名。本年度は会津地域を中心に寺院を訪れての仏像見学を全6回行った。併せて、博物館での展示見学や関連する美術講座への参加、会員各自の興味関心や学習成果を発表する勉強会を組み合わせる形で活動を行った。

7 文化財・自然資料レスキュー

(1) 東日本大震災に伴う被災文化財・自然資料レスキュー

東日本大震災の発生以来、福島県立博物館では、被災文化財・自然資料レスキューを実施してきた。令和5年度には次の活動を行った。

ア レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」

(当館は副代表・幹事・事務局)に参画して活動した。今年度は7月12日、令和6年2月20日に打ち合わせを行った。

イ 被災地域の資料への対応

当館が新規で関わった被災地域の資料の調査や受け入れはなかった。また平成23年度から様々な事情によって当館で受け入れた資料のうち、所蔵先の避難状況の変化によって返還できるようになった場合は、順次対応するようにしているが、今年度の該当はなかった。

(2) その他の災害発生時対応に伴う活動

令和元年度に福島県文化財保存活用大綱が策定され、災害発生時に文化財・自然資料レスキューを実施するしくみが整えられた。災害時には市町村からの救援応援要請が出され、相互応援協定による支援・応援が実施されることになった。6月1日、令和6年3月15日に連絡会議が行われ、7月14日に「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議が県文化財センター白河館で開催され、県内各地の事例報告や情報交換等が行われた。

8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

(1) 震災遺産保全チームの組織

活動母体である実行委員会が解散後は、博物館内の「震災遺産保全チーム」が分野横断のプロジェクトチームとして活動を続けている。今年度は民俗1名、歴史1名、自然1名、美術1名、災害2名の計6名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害分野担当学芸員を中心に、所蔵する資料の研究・調査を取りまとめ、教育普及活動、ポイント展の実施を行った。

(2) 震災遺産の調査・保全

震災遺産に関わる今までの活動の経緯や、資料の来歴などを取りまとめるとともに未整理資料の整理を進めた。写真撮影を行い、中性紙封筒へ納めるなどした。

前年度末より引き続き、新型コロナウイルス関連資料の収集を継続している。コロナ関連資料は、企画展「伝える災害の記憶」の「5章 疫病との向き合い方」に関連させ展示を行った。

(3) 他団体・他機関との連携・協力

公害資料館ネットワークふくしま大会に実行委員会として運営に参加した。磐梯山ジオパーク運営協議会とも防災教育の普及活動を展開し学校行事へ防災学習の提案を行った。博物館資料展示活用アウトリーチ事業は、とみおかアーカイブ・ミュージアムと実施した。会津自然の家や磐梯

山青少年交流の家との連携も定例化し、猪苗代町社会福祉協議会とも連携して地域づくりへの参画を始めた。

(4) 普及事業

ゲストティーチャー、講師派遣、特別プログラムなどの対応回数が50回を超えた。南会津高校や小高産業技術高校などまだわずかではあるが、震災遺産をテーマとした高校生向けの授業づくりを教員と相談して進めている。

9 三の丸からプロジェクト

(1) 事業趣旨

令和2年5月1日に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、当館では、共同申請者と共に「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、申請し、令和2年11月18日に認定を受けた。同計画の実現のため、令和2年度から5ケ年にわたって「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を実施することとなった。

(2) 組織

ア 申請者 福島県（福島県立博物館）

イ 共同申請者

会津若松市、一般財団法人会津若松観光ビューロー、公益財団法人福島県観光物産交流協会（地域連携DMO）、会津若松商工会議所、只見川電源流域振興協議会

(3) 助成

令和5年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）

(4) 事業内容

ア 文化資源磨き上げ事業

周遊のための文化資源の調査・撮影等調査については、絵図や古文書などから若松城下の町や商業の成り立ちを探り、地形図等の精査から城や城下町の立地の地形的な特色等について検討した。撮影については、当館が収蔵する文化資源の撮影（デジタル化）を「若松城下絵図・追鳥狩図屏風」「大川・只見川図巻」（国重文）を対象に実施した。また、当館がかつての若松城三の丸に建っていることを来訪者が実感し、本事業の目的である若松城址の周遊へ誘う動機付けとするために、地中に眠る若松城堀跡の堀幅の広さが際立つような外構展示の設置を計画し、外構展示のための基礎データ収集のため、地中レーダー探査を実施した。

イ 体験型プログラム提供事業

武家文化を観賞・体験する4つのプログラム（七絃琴、茶道、刀剣取り扱い、能楽）を実施した。今年度は新たに会津藩にゆかりのある浦上玉堂や会津藩士がこよなく愛した七絃琴の実演・演奏体験を取り入れることで、より会津に特色ある武家文化体験とすることができた。体験の内容に合わせて博物館収蔵品を活用した展示や空間演出を行い、博物館ならではの体験を提供した。

ウ 若松城下まちなか連携事業

分野別展示室（民俗）と、夏の企画展「仕事が仕事をしている仕事」と連動し、会津若松市街地に点在する商工文化を伝える歴史的建造物で連携展示（テーマ「雪国のくらしとものづくり」）及び連携イベント（テーマ「会津ものづくりめぐり」）を各会場で開催した。連携展示は末廣酒造嘉永蔵、会津塗伝承館鈴善漆器店、竹藤を、福西本店、会津塗伝承館鈴善漆器店（いずれも国登録有形文化財）を会場とした。連携展示ではスタンプラリーを実施し、周遊を促進するとともに周遊効果の検証を行った。連携イベントは末廣酒造嘉永蔵、竹藤を会場とし、開催後も会津を訪れる動機付けとなるよう動画を作成し当館 YouTube チャンネルで公開した。また、会津のものづくり（会津木綿、会津本郷焼、会津塗、野鍛冶）を博物館ならではの視点で紹介する冊子を作成した。

エ 多言語化事業

分野別展示室の展示解説及び、インバウンドや国内に居住する外国語ユーザー向けパンフレットの英語、中国語（簡体字・繁体字）原稿作成を行った。

オ ツアー造成事業

「雪国のくらしとものづくり」「会津の SAMURAI 文化」をテーマにツアーコンテンツを開発し、共同申請者である一般財団法人会津若松観光ビューローから旅行商品として販売を行った。ツアーコンテンツ開発、運用、拠点整備のために、共同申請者及び周遊拠点の担い手とともに文化観光に取り組む他地域のツアー先進事例である富山県南砺市、長野県木曾・奈良井の取り組みを視察・勉強会を実施した。3エリア周遊の促進のためのツアープロモーション映像を作成した。

カ 利便性向上事業

Webブラウザで閲覧できる情報ビューワー「VRナビゲーションけんぱくん」を整備した。また、前年度に作成した視覚支援カード『さわって観るてんじカード』の内容を補強するハンズオン資料の製作を行った。そのほか、視聴覚障がい者の観覧をサポートするために、学芸員・解説員など障がい者に接する機会がある者を対象に視聴覚障がいへの理解を深める研修を実施した。

キ 周遊促進事業

福島県立博物館のレストランを「雪国ものづくり食堂つきない」としてリニューアルオープンし、食を通して「若松城下ものづくり」「雪国ものづくり」を体感できる場として提供を開始した。また、会津の「ものづくり」と「食文化」を紹介・体験することができるマルシェを春と秋に開催した。

ク 国内外プロモーション事業

JR郡山駅・会津若松駅で本事業をイメージづけるポスターの駅貼や公共交通機関において本事業の魅力伝えるパンフレットの配布などを行った。日本政府観光局（JNTO）より令和6年度以降の国内外へのプロモーションへの助言として「Webによる国内海外プロモーション」

ン」についてのレクチャーを受けた。

ケ 3エリア周遊につながるゲートウェイ機能のための展示室・無料空間整備

常設展「展示ロビー」を、ゲートウェイ展示のコアゾーン「三の丸アベニュー」として整備した。「三の丸アベニュー」には、江戸時代末期頃の若松城下の範囲をほぼ収めた約6m×4m大の縮尺ジオラマを造形し、ジオラマ上に併せて制作したプロジェクションマッピングを自動投影する仕組みを整えた。

また、壁面には奥会津地域のグラフィックマップ「いま・むかし奥会津めぐり」を造作して、設置したモニターで「大川・只見川図巻」や館蔵の昭和年間の古写真を動画的に配信するように整備した。

第14節 福島県自然の家

1 概要

(1) 沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも3番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」（以下「自然の家」という。）を開設。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」（以下「青年の家」という。）を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型2施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内4施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの3年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり4施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため、平成21年度から4施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他3施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の

家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団（平成26年度より公益財団法人に移行）」に指定管理することとなる。

平成30年度に開催した指定管理者選定検討会において令和元年度から令和5年度まで「福島県郡山自然の家」について、「学校法人国際総合学園」に、「福島県いわき海浜自然の家」について、「公益財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。

令和2年度に開催した指定管理者選定検討会において令和3年度から令和5年度まで「福島県会津自然の家」について、「アメニティグループ」に指定管理することとなる。

令和5年度に開催した指定管理者選定検討会において令和6年度から令和10年度まで、「福島県郡山自然の家」については「学校法人国際総合学園」に、「福島県会津自然の家」は「アメニティグループ」に、「福島県いわき海浜自然の家」は「公益財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。

(2) 所在地

ア 福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46
〒963-0213 TEL 024-957-2111
FAX 024-957-2112

URL <https://koriyama-nc.fcs.ed.jp/>

イ 福島県会津自然の家

福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1
〒969-6504 TEL 0242-83-2480
FAX 0242-83-2481

URL <https://www.aizu-shizen.jp/>

ウ 福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき市久之浜町田之網字向山 53
〒979-0335 TEL 0246-32-7700
FAX 0246-32-7730

URL <https://iwaki-nc.fcs.ed.jp/>

2 教育目標及び基本的視点

(1) 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

- ア 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。
- イ 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。
- ウ 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育

てる。

(2) 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるように、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

- ア 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。
- イ 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。
- ウ 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。
- エ 民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。
- オ 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

3 新型コロナウイルスの影響

自然の家の令和5年度の受け入れは、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、令和5年5月8日から5類感染症に移行されたことから、拡大防止のため行われていた利用定数、利用団体数、利用日数（宿泊日数）の制限などをそれぞれの自然の家の状況に合わせて、解除しながら運営を行った。

しかしながら、令和5年度の予約は、基本的に前年度中に行われることもあり、利用状況は回復傾向ではあったものの、全体的には、コロナ禍前の平成30年度と比較すると、利用者数で6割、利用団体数で8割に留まった。

第15節 福島県郡山自然の家

1 概要

(1) 沿革

郡山自然の家は、昭和47年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、令和5年度には延べ利用者数が180万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約11km、郡山中央スマートインターから車で約6分、郡山南インターより約8分という交通の便に恵まれ、豊かな自然環境に囲まれた都市近郊型の自然の家として、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、活動を展開している。また、生涯学習の拠点として県民に親しまれる施設を目指し、随時、施設の改築・改修を進め、園児から高齢者まで幅広い年齢層の方々やジェンダーを問わず利用しやすい施設とすべく、多種多様な企画事業を展開し特色あるプログラムの開発に努めている。

平成31年4月1日より学校法人国際総合学園が指定管理

者となり管理運営を行っている。

東日本大震災以降は、放射線量が比較的高い場所の除染を実施し放射線量の低減に取り組むとともに、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに掲載するなど情報提供に努めてきた。

年間の利用状況については、5月に新型コロナウイルス感染対応が2類から5類への移行に伴い、利用制限を見直した結果、利用団体数394団体（前年比118団体増）、延べ利用者数17,398人（前年比5,904人増）となった。

(2) 職員組織

職名	人員
所長	1
指導部長	1
事務局長	1
指導部主任	1
指導員	1
体験指導員	2
事務員	1
運転手	1
計	9

(3) 令和5年度重点目標と成果

「SDGsを念頭に社会教育施設として質の高い活動を提供するとともに、LGBTQなど性の多様性を尊重し互いの価値観の尊重により人に優しい自然の家。」を実現すべく取り組んだ。

ア 利用団体への効果的な支援の充実

(ア) 団体が主体的に活動できるよう、学校利用団体・社会教育団体の担当者との緊密な連携に努めた。特に学校利用団体については、4月と7月に学校利用指導者研修会を実施した。その際、所においては新型コロナウイルス対応が5類に移行した後も、感染症予防に最大限努めるとともに、安全安心に利用して頂けるよう対応について情報共有を図った。

(イ) 社会教育団体の利用については、各団体代表者との連絡を密にしながら、事前の施設見学を実施するとともに活動計画作成を支援した。

(ウ) 利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等を用いて集約・分析し、より良いプログラムの提供が図れるよう努めた。

イ 魅力ある企画事業の運営

(ア) 自然の家らしい季節感を生かした魅力ある事業を企画立案するとともに、今までの事業を見直し利用者のニーズに合った事業展開を図るとともに、地域や関係機関との連携に努めた。

(イ) 前年度の反省や評価を踏まえ、内容や方法等に工夫・改善を加え、利用者の満足度向上に努めた。

ウ 広報の充実と利用促進

(ア) ホームページやInstagramなど様々な広報機会

を利用し、本所における事業実施に関する情報提供に努めた。特に、園や学校を通して園児や児童・生徒に直接チラシを配布することにより、各家庭に各種企画事業について情報提供を行った。

また、サザッピー会員に対しては、事業に関する案内を電子メールにより直接情報提供を行った。

(イ) 企画事業案内及び事業の実施状況等をホームページに逐次掲載するなど、タイムリーな情報提供に努めた。また、毎月エリア内5か所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう情報提供を行った。

(ウ) 県内の自然の家が広報機会を共有するという目的の下、各所で作成するチラシ等に他所の情報を掲載するコーナーを設けたが、効果的な運用には至らなかった。

(エ) 利用促進を図るため、平成25年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなみ「サザッピークラブ」とした。新規会員登録に努めた結果、年度末には会員数が399名となった。

エ 安全管理と保健安全指導の徹底

(ア) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という前提に立ち、所員の安全意識の徹底を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても施設の安全な利用について働きかけを行った。また、新型コロナウイルスに関する対応マニュアルについて、随時見直しを行うとともに対策の徹底を図った。

- ・各団体の利用前のコースや遊具点検を徹底した。
- ・手洗い等の感染症対策と職員のマスク着用での対応を行った。
- ・食物アレルギー対応のため、利用団体との情報共有及び給食業務委託業者との連携を進めた。
- ・スズメバチ等害虫対策として、捕虫装置の設置と点検を実施した。
- ・松食い虫被害による倒木防止のため、郡山市森林組合及び郡山市公園緑地課との連携による計画的な伐採と日常の安全点検を実施した。

(イ) 防災に関しては、国際医療看護福祉大学校及び郡山消防署の協力のもと、給食・警備・清掃等の委託業務担当者の参加協力を得て、消火訓練や避難訓練・救急救命訓練を実施した。毎年定期的の実施することにより、関係者のスキルアップが図られ、実効性のある訓練を実施することができた。実際に消火設備を用いて各種訓練を実施することにより、運用上の課題が明確となり対策を講じることができた。さらに、安全・安心な施設は、そこに勤務する職員の意識に負う所が大きいことから、相互の信頼関係を日々醸成するべく情報の共有・伝達に努めた。

オ 施設・設備の整備及び消毒

(ア) 常に利用者目線での施設の整備に努めた。具体的にはフィールドワーク活動の際など、小学生の目線でコース

整備を行い目の高さにある木の枝を除伐したり、杭やコースロープを設置し、安全・安心に利用できるよう対応に努めた。また、総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検に際しては、「目視、触診、打音、振動、負荷、作動」により器具の状態を確認するとともに、随時、必要な補修及び整備に努めた。

- (イ) 館内については、1階のトイレを洋式化し利用者の利便性を図った。また、多目的トイレをみんなのトイレとし、LGBTQ等ジェンダーに配慮した施設利用に努めた。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46 番地

(2) 宿泊定員

- ア 本館 172名 (15部屋)
イ ロッジ 126名 (9棟)
ウ テント 120名 (20張)

(3) 敷地面積

237,587.59 m²

(4) 建物面積

延床面積 3,792.12 m²

- ・本館 (管理棟・宿泊室・研修室・浴室)
- ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

(5) 設備備品等

- ア 野外活動設備
みどりの広場アスレチック、フィールドアドベンチャーコース、アーチェリー場 24 的、ナイトハイクコース、スコアオリエンテーリングポスト、フィールドワークコース、スタンプラリー、営火場 4 か所
- イ その他
野外炊飯用具、インラインスケート、フリスビーゴルフ、フロッカー、キンボール、ペタンク、マウンテンバイク、グランドゴルフ、スナップゴルフ、スラックライン、ボッチャ、モルック、そり、各種クラフト用具、伝承遊びセット、ピアノ、双眼鏡、液晶プロジェクター、テレビほか

3 利用状況

令和 5 年度利用者数

延べ利用者数 17,398 人

内訳 学校教育団体 186 団体 7,201 人

社会教育団体 140 団体 3,659 人

企画事業 68 事業 6,538 人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校利用指導者研修会

(ア) 目的

本所での主体的な利用促進のため、活動計画の立案や活

動の実際について研修し、指導者としての資質を高める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 ①令和 5 年 4 月 27 日 (木) 参加者数 23 校 25 名

②令和 5 年 7 月 25 日 (火) 参加者数 29 校 34 名

(ウ) 研修内容

施設紹介と活動プログラム立案、本所利用ルールの説明や活動プログラム実技研修を実施した。

イ ボランティア実践研修

(ア) 目的

本所のプログラム活動体験や宿泊体験を通してボランティア活動についての理解を深め人材の育成を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和 5 年 7 月 15 日 (土)～16 日 (日)

対象 県内の高校生以上の学生

参加者数 8 名

(ウ) 研修内容

ボランティア活動の意義や安全・救急救命講習、活動プログラム実技研修などを実施した。

ウ ボランティア育成講座

(ア) 目的

本所のプログラム活動体験を通してボランティア活動についての理解を深め人材の育成を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和 6 年 3 月 24 日 (日)

対象 県内の高校生以上の学生

参加者数 10 名

(ウ) 研修内容

ボランティア活動の意義や安全・救急救命講習、防災炊飯実技研修などを実施した。

エ セカンドスクール

(ア) 目的

小学校における教科等に関連付けた活動プログラムを実施することにより、「主体的・対話的で深い学び」につなげ、集団宿泊活動の教育的効果向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和 5 年 11 月 14 日 (火)～17 日 (金)

参加校 郡山市立穂積小学校・三和小学校

参加児童数 20 名

(ウ) 研修内容

4 泊 5 日を通して郡山自然の家の活動プログラムや震災を学ぶ活動、職業体験学習、大安場史跡公園見学学習、国語算数合同授業などを実施した。

(2) 利用拡大事業

ア サクラ・カタクリ月間

(ア) 目的

カタクリの群生、桜を觀賞し、春の自然を満喫する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和 5 年 4 月 1 日 (土)～30 日 (日)

対象 一般

参加者数 618名

(ウ) 活動内容

本所の一部を開放し、春の植物を観賞した。

イ さくらウォーク

(ア) 目的

春の三穂田路の野山や田園地帯を歩きながら自然に親しみ、健康増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年4月8日(土)

対象 一般

参加者数 45名(ほかボランティア3名)

(ウ) 活動内容

本所を出発し笹原川千本桜まで約5km・10kmに分かれて散策をした。

ウ オープニングセレモニー

(ア) 目的

令和5年度のオープンに合わせ、アスレチックと総合活動館を地元小学生に開放し、使い始めを行う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年4月19日(水)

対象 郡山市立多田野小学校(堀口分校含)

4、5年生と教員

参加者数 35名

(ウ) 活動内容

児童代表あいさつや鳶を用いたテープカットなどのセレモニーを行った後、アスレチックを楽しんだ。

エ 春のオープンデー

(ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年5月28日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 420名(ほかボランティア1名)

(ウ) 活動内容

郡山自然の家の活動プログラム、学校法人国際総合学園各大学校のお仕事体験ブースなどを提供した。

オ 親子でチャレンジ!

(未来キッズ生き活き事業と併催)

(ア) 目的

家族や親子で野外活動に挑戦し、体力の増進を図るとともに、家族間の絆を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年6月18日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 102名

(ウ) 活動内容

午前午後の定員制とし、3種目をローテーションで体験した。

カ 夢冒険キャンプ

(ア) 目的

キャンプ生活を通して、自然との共存を図りながら様々な困難にチャレンジして打ち勝つことのできる子どもを育成する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年8月1日(火)～2日(水)

対象 県内の小学4年生～6年生

参加者数 30名(ほかボランティア2名)

(ウ) 活動内容

野外炊飯やアーチェリーやインラインスケートなどの体験とロッジでの宿泊体験をした。

キ 親子で満喫テント泊

(未来キッズ生き活き事業と併催)

(ア) 目的

自然の家で、火おこし、野外炊飯、テント泊を通して家族の絆と家族の交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年8月26日(土)～27日(日)

対象 県内の小学生を含む家族

参加者数 32名

(ウ) 活動内容

テントの設営やアーチェリーや野外炊飯などを通して他の家族とも親睦を深めた。

ク 第21回郡山自然の家オープンデー

(未来キッズ生き活き事業と併催)

(ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年9月10日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 423名(ほかボランティア3名)

(ウ) 活動内容

郡山自然の家の活動プログラム、学校法人国際総合学園各大学校の仕事体験ブースなどを提供した。利用者180万人達成式典を行い、達成時利用保育園のピアノ演奏や郡山消防署大槻基幹分署による出展と消防ショーを実施した。

ケ 家族でアーチェリー&秋カレーを作ろう!

(ア) 目的

自然の中で体を動かし、野外炊飯を体験して家族の交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年9月24日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 60名(ほかボランティア1名)

(ウ) 活動内容

複数の家族で班を編成し野外炊飯を実施した。カレー作りを通して親睦を深めた。

コ 家族でダンス&マルチスポーツ体験

(ア) 目的

ダンスとマルチスポーツの体験を通して運動能力の向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年10月1日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 23名(ほか講師2名)

(ウ) 活動内容

家族でダンスの基礎や運動能力を引き出す体の使い方を学べるマルチスポーツの体験を行い楽しんだ。

サ 自然散策といも煮

(ア) 目的

秋の自然散策と野外炊飯・いも煮を通して食についての意識を高め、家族やグループとの交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年10月15日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 57名(ほかボランティア1名)

(ウ) 活動内容

複数の家族で班を編成し野外炊飯を実施した。いも煮作りを通して親睦を深めた。

シ 家族で登山を楽しもう

(ア) 目的

登山についての知識を学び、トレッキングしながら紅葉を楽しむ。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年10月21日(土)

対象 一般

参加者数 23名

(ウ) 活動内容

荒天のため、那須茶臼岳から宇津峰山へ変更し登山を楽しんだ。

ス 五色沼ハイキング

※荒天のため中止

セ ハッピークリスマス&ハッピーニューイヤー

(ア) 目的

ミニ門松やクリスマスリース作りをとおして、文化を見直し家族や友達との交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年12月10日(日)

対象 幼児から小学生とその家族

参加者数 48名(ほか講師3名)

(ウ) 活動内容

ミニ門松とクリスマスリースを作り親睦を深めた。

ソ 名人から学ぶけん玉教室

(ア) 目的

家族でけん玉検定にチャレンジし、交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年12月24日(日)

対象 幼児から小学生とその家族

参加者数 61名(ほか講師5名)

(ウ) 活動内容

公益社団法人日本けん玉協会東東北ブロック講師の協力のもと、けん玉の基礎から上級技までコツを学びながら、家族で楽しんだ。

タ 家族スケート教室

※磐梯熱海アイスアリーナの今期営業終了に伴い中止

チ 家族でハッピーバレンタイン

(ア) 目的

お菓子作りをとおして、作る楽しさを学ぶとともに家族や友達との交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和6年1月28日(日)

対象 幼児から小学生を含む家族

参加者数 66名(ほか講師2名)

(ウ) 活動内容

チョコレート菓子の制作は幼児でも大変分かりやすく、家族で手作りする楽しい時間となった。

ツ わくわく! ファミリー冬のつどい

(ア) 目的

スキーや雪遊びを体験し冬のスポーツを楽しむとともに、家族間の交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和6年2月3日(土)~4日(日)

対象 県内の小学生を含む家族

参加者数 30名(ほか講師2名)

(ウ) 活動内容

裏磐梯スキー場にてスキー教室を実施した。

テ 冬のクラフトまつり

(ア) 目的

家族でクラフト制作をすることにより、ものづくりの楽しさを体験し、家族間の交流と親睦を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和6年2月25日(日)

対象 県内の小学生を含む家族

参加者数 56名

(ウ) 活動内容

体育館で8種類のクラフト制作を自由に選択し、各制作コーナーを巡り制作活動を実施した。

ト スコアオリエンテーリング記録にチャレンジ

(ア) 目的

スコアオリエンテーリングの記録会を実施し、自然への親しみと健康増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和6年3月3日(日)

対象 県内の小学生を含む家族

参加者数 64名

(ウ) 活動内容

家族で自然を体験し、健康増進と親睦を図る良い機会

となった。

ナ サザンクラブDAY

(ア) 目的

本所サザンクラブ限定の企画を開催することでクラブ会員同士の親睦を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和6年3月10日(日)

対象 サザンクラブ会員

参加者数 36名

(ウ) 活動内容

家族対抗フロッカー大会を実施し親睦が図られた。

(3) 協力事業

ア 逢瀬公園さくら祭り

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年4月16日(日)

対象 逢瀬公園さくら祭り参加者

参加者数 109名

(ウ) 活動内容

缶バッジ制作を実施し、参加者及び他団体との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

イ イトーヨーカドー郡山店出張出前講座

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を提供し、利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年5月3日(水)

対象 イトーヨーカドー郡山店来店者

参加者数 89名

(ウ) 活動内容

缶バッジ制作を実施し、参加者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

ウ FSGカレッジリーグ学園祭

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年8月27日(日)

対象 FSGカレッジリーグ学園祭参加者

参加者数 259名

(ウ) 活動内容

缶バッジ制作を実施し、参加者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

オ あったかふれあいまつり

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年10月9日(月)

対象 会津自然の家あったかふれあいまつり参加者

参加者数 138名

(ウ) 活動内容

缶バッジの制作を実施し、参加者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

カ 第33回浄土松公園まつり

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年10月14日(土)

対象 浄土松公園まつり参加者

参加者数 174名

(ウ) 活動内容

缶バッジの制作を実施し、参加者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

キ いわき海浜自然の家秋のオープンデー

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年10月29日(日)

対象 いわき海浜自然の家秋のオープンデー参加者

参加者数 395名

(ウ) 活動内容

缶バッジの制作を実施し、参加者及との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

ク ハロウィンパレード2023

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を提供し、利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年10月29日(日)

対象 小学生以下の子どもとその保護者

参加者数 200名

(ウ) 活動内容

缶バッジの制作を実施し、参加者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

ケ お正月を遊ぼう

(ア) 目的

本所の活動プログラム体験を提供し、利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和6年1月7日(日)

対象 郡山市青少年会館お正月を遊ぼう参加者

参加者数 7名

(ウ) 活動内容

伝承遊びを提供し、参加者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

コ 福島ファイヤーボンズホームゲーム出店

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日、参加者数及び対象

期日 令和5年10月14日(土) 参加者数275名

令和5年10月15日(日) 参加者数258名

令和5年11月25日(土) 参加者数143名

令和5年11月26日(日) 参加者数224名

令和5年12月16日(土) 参加者数114名

令和5年12月17日(日) 参加者数200名

対象 ゲーム観戦者

(ウ) 活動内容

缶バッジの制作を実施し、観戦者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

(4) 年間継続事業

ア 無料開放DAY

(ア) 目的

屋内施設とみどりの広場アスレチックを開放し、思い切り体を動かす機会を提供するとともに、体力の増進を図る。

(イ) 期日、参加者数及び対象

a 期日 令和5年4月22日(土) 参加者数36名
令和5年5月13日(土) 参加者数12名
令和5年5月20日(土) 参加者数10名
令和5年11月4日(土) 参加者数21名
令和5年11月25日(土) 参加者数6名
令和5年12月2日(土) 参加者数3名
令和5年12月16日(土) 参加者数16名
令和6年1月20日(土) 参加者数20名
令和6年2月17日(土) 参加者数9名
令和6年3月17日(日) 参加者数10名

対象 県中地区の特別支援学校・学級の幼児及び小学生とその家族

b 期日 令和5年4月23日(日) 参加者数193名
令和5年5月14日(日) 参加者数116名
令和5年5月21日(日) 参加者数91名
令和5年11月5日(日) 参加者数76名
令和5年11月26日(日) 参加者数67名
令和5年12月3日(日) 参加者数16名
令和5年12月17日(日) 参加者数53名
令和6年1月21日(日) 参加者数48名
令和6年2月18日(日) 参加者数55名
令和6年3月16日(土) 参加者数20名

対象 県中地区の幼児及び小学生とその家族

(ウ) 活動内容

施設を開放し家族で体を動かす機会を提供した。

イ 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的

家族や親子に体を動かす機会を提供するとともに、自然の家のプログラム体験をとおして、心身の健康や体力向上を図る。

(イ) 期日、参加者数及び対象

a 期日 令和5年5月28日(日) 参加者数 108名
6月25日(日) 参加者数 104名
対象 県北地区の小学生を含む家族
b 期日 令和5年5月28日(日) 参加者数 287名
7月2日(日) 参加者数 91名
対象 県中地区の小学生を含む家族

c 期日 令和5年5月28日(日) 参加者数 7名

7月2日(日) 参加者数 14名

対象 県南地区の小学生を含む家族

d 期日 令和5年7月9日(日) 参加者数 99名

対象 相双地区の小学生を含む家族

(ウ) 活動内容

本所の様々なプログラムを家族で楽しんだ。

ウ 特別企画 自然の家でからだを動かそう

(ア) 目的

本所を利用し、子どもたちの健康の維持増進と体力の向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年12月1日(金)～令和6年3月8日(金)

対象 県中地区内の幼稚園・保育園

参加者数 38団体953名

(ウ) 活動内容

みどりの広場や活動館のアスレチックと体育館などを使って体を動かす機会を提供した。

エ こころのケアが必要なこどもを対象とした事業

(ア) 目的

様々な不安を抱え登校等が困難な児童生徒を対象に豊かな自然の中での活動を通して自己肯定感を高める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年5月19日(金) 参加者8名

令和5年10月13日(金) 参加者27名

令和5年10月28日(土) 参加者7名

令和5年12月10日(日) 参加者7名

令和6年1月28日(日) 参加者10名

対象 集団活動や登校が困難な児童生徒

(ウ) 活動内容

保護者や教員と連携し、児童生徒の状況や負担に配慮しながら自然体験活動や交流活動を実施した。

第16節 福島県会津自然の家

1 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、令和5年度末で43年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

令和5年度の利用者数は、22,638人で、前年度を3,209人上回った。新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、企画事業の工夫や出前講座を積極的に実施することで、利用促進に努めることができた。

また、4つの重点目標を掲げ、その達成のため、誰もが利用しやすい魅力的な施設を目指して運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

(1) 職員組織

職名	人員
所長	1
副所長	2
総務長	(1)
総務事務員	2
指導員(常勤)	4
指導員(非常勤)	3
嘱託運転手	2
計	14

(2) 令和5年度重点目標と成果

利用者の満足度90%以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。

ア 利用者が満足感を持つことのできる活動を提供する。

(ア) 利用者のニーズに応じた「研修プログラム」の提供
活動プログラム集を作成し、学校団体から社会教育団体まで幅広い団体のニーズに応じたプログラムを提供することができた。

(イ) 施設開放等、地域参加型の「企画事業」の開催
里山開放デーなどの自然体験活動や家族がふれあえる企画事業の立案に努めた。

(ウ) 幅広い年齢層に対応した出前講座の推進
学校、公民館など教育施設への出前講座を行い、子どもから高齢者まで楽しめる講座を提供することができた。

(エ) 魅力的な「企画事業」や「研修プログラム」の開発
前年踏襲にとらわれず、企画事業において子どもだけでなく大人も対象とした様々なプログラムを提供するとともに、利用者のニーズに応えらえるよう創造的な事業の企画立案に努めた。

イ 生涯学習施設の拠点としてプログラムの提供や情報発信を行う。

(ア) 各関係機関との連携強化(事業のタイアップ)
市町村教育委員会や学校、公民館等、様々な関係機関と連携しながら、新聞やラジオ、フリーペーパー等を利用し、事業の広報活動に努めた。

(イ) ホームページやフェイスブックを活用しての効果的な情報の発信

タイムリーな話題を、時期を逃さずホームページにアップできるよう、担当が中心となり更新に努めた。新たな利用者層にアプローチするために、フェイスブックを活用し、活動の様子や企画事業の案内に努めた。

(ウ) 地域や各団体への新規プログラムの提供
研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い、各団体のニーズに合った活動ができるようにした。

(エ) ボランティアを育成する研修の開催と活動機会の提供
ボランティアのつどいを実施し、ボランティアの確保

とともに、参加者のスキルアップに努めた。

ウ 安全・安心で好感度の高い活動や環境を提供する。

(ア) 笑顔と元気なあいさつ、親切・丁寧な接遇
団体対応はもとより、来客や電話対応など、相手の立場に立った対応に努め、好感度の高い施設を目指すことができた。

(イ) 感染症(新型コロナウイルス、ノロウイルスなど)への対策や予防徹底

利用者の事前の健康チェック、来所時、活動時の検温と消毒、食堂の椅子の配置、消毒液の設置などあらゆる対策に努めた。

(ウ) 日常(事前、事中、事後)及び定期的安全・確認の徹底
労務員も含めた全所員による定期安全点検と日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。

(エ) 施設内の「ごみゼロ」と迅速な施設の整備・修繕
所員だけでなく、委託業者とも連携し、清潔な所内の環境づくりに努めることができた。

エ 施設・財産を守る。

(ア) 適切な会計処理とチェック体制の充実
会計事務にかかる研修や、服務倫理委員会を定期的に開催し、会計事務の適正化を図った。

(イ) 事業等の整備と保管
a 研修プログラムや企画事業の電子データ化と指導手順のマニュアル化

研修プログラム、企画事業の電子データ化を行い、写真や動画ですぐに確認できるように整備した。

b 活動や施設設備等のデータの累積とその有効活用
活動プログラムの説明や注意事項、放送設備等の使用方法などをデータに保存し、活用できた。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番 1

(2) 宿泊定員

ア 本館 25室 292名(うち1室障がい者用)

イ ロッジ 10棟 120名

ウ テント 16張 50名

(3) 敷地面積

249,848.98㎡

(4) 建物面積

ア 延床面積 5,864.83㎡

(ア) 管理研修棟(鉄筋造2階建)

(イ) 宿泊棟(鉄筋造2階建)

(ウ) プレイホール(鉄筋造)

(エ) アセンブリホール(鉄筋造)

(オ) 機械棟(鉄筋造3階建)

(カ) ロッジ(木造平屋建)

(キ) 野外活動管理センター(鉄筋造)

(ク) 薪置場(コンクリートブロック造)

(ケ) 車庫(鉄筋造)

(ロ) 野外便所(鉄筋造)

(5) 運動広場面積

8,500 m²

(6) 設備備品等

- ア フィールドアスレチック
- イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具
- ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR
- エ 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー
- オ ピアノ、オルガン
- カ 伝承遊びセット
- キ クラフト用具
- ク 各種オリエンテーリング用具
- ケ アルペンスキー
- コ 歩くスキー(クロスカントリースキー)
- サ そり、スノーチューブ
- シ スノーシュー
- ス 営火場(4か所)
- セ 諸活動コース
- ソ その他

3 利用状況

令和5年度の利用団体数

延べ利用者数 22,638人

内訳	学校教育団体	232団体	13,380人
	社会教育団体	122団体	6,432人
	ファミリー	28団体	139人
	企画事業	33企画	2,687人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

(ア) 目的

- a 自然の家設立の趣旨・教育目標・方針・利用のねらい及び運営方法の理解を図る。
- b 児童・生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう、屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解し、効果的な活動計画が作成できるようにする。
- c 集団宿泊活動等が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図る。

(イ) 期日、参加者数及び対象

- a 第1回：令和5年4月19日(水) 27名参加
第2回：令和5年4月25日(火) 23名参加
第3回：令和5年4月26日(水) 31名参加
- b 幼稚園、保育所及び小中学校の教員

(ウ) 研修内容

- a プログラム体験
- b プログラム調整会

イ ボランティアのつどい

(ア) 目的

- a ボランティアに関する講話や実践例などを聞く機会とし、ボランティアの意識高揚を図る。
- b ボランティアメンバーの交流の場を設け、情報交換などを通してボランティアとしての意欲を高める。
- c プログラム体験の機会を設け、各種主催事業等に協力する際に必要な体験活動に関わるスキルを身につけることができるようにする。

(イ) 期日、参加者数、対象

- a 第1回：令和5年5月7日(日) 23名参加
第2回：令和5年11月19日(日) 7名参加
- b 高校生、一般

(ウ) 研修内容

- a ボランティア講座
- b 本所プログラム研修

(2) 教育研究事業

ア 通学キャンプ

(ア) 目的

- a 自然の家での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自律的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。
- b 中学校進学前に、同じ中学校へ進学予定の他校の児童との交流を図ることにより、中学進学不安を少しでも解消できるようにする。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和5年11月30日(木)～12月2日(土)
- b 会津坂下町立坂下南小学校・坂下東小学校の5～6年児童
- c 23名

(ウ) 活動内容

- a 室内ゲーム、ニュースポーツ
- b 学習会
- c クラフト体験

イ お正月飾りを作ろう

(ア) 目的

正月飾りをつくることで、日本の伝統文化を知る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和5年12月17日(日)
- b お正月飾り作りに興味のある方とその家族
- c 115名

(ウ) 活動内容

お正月飾り作り

(3) 利用促進事業

ア 第19回高寺山山開き(会津坂下町との共催)

(ア) 目的

参加者同士が共に汗を流し登山することにより、健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和5年4月16日(日) 100名参加
- b 希望者

- (ウ) 活動内容
高寺山・見明山登山
- イ 里山開放デー（未来キッズ生き生き事業との併催）
- (ア) 目的
自然の家の野外プログラムを活用して、心身の健康増進や自然の中で家族のコミュニケーションを図る。
- (イ) 期日、対象、参加者数
a 令和5年7月16日(日) 797名参加
b 希望者
- (ウ) 活動内容
a 協力外部団体(ツリーイング、里山アドベンチャー、水辺の生き物観察、森のスライダー)
b 本所プログラム(カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どこどこOL、ムシムシランド、ニュースポーツ)
- ウ 夏の川遊びを楽しもう！
- (ア) 目的
a 暑い夏に川遊びを行い、自然に親しむとともに、地域の自然についての理解を深める。
b 夏の暑さのもとでの様々な水辺の活動を通して、大自然の恵みや季節感を楽しむ豊かな心を育むと共に、水への安全な関わり方について身に付けさせる。
- (イ) 期日、対象、参加者数
a 令和5年7月29日(土) 127名参加
b 県内の幼児、小・中学生とその家族
- (ウ) 活動内容
a カヌー体験・川流れ体験
b 水辺の生き物探し
c 河原で水遊び
- エ あったかふれあいまつり
(未来キッズ生き生き事業との併催)
- (ア) 目的
a 野外活動プログラムや各種体験などの自然や人とのふれあいを通して、心身のリフレッシュや体力増進を図る。
b 県民に施設及び周辺の環境を開放し、活動プログラムを体験することができる場を提供することにより、自然体験機能及び生涯学習機能を兼ね備えた本所への理解を深め、今後の集客につなげる。
c 各団体と連携を図ることにより、体験活動の充実を図る。
- (イ) 期日、対象、参加者数
a 令和5年10月9日(月) 441名参加
b 県内の幼児、小・中学生とその家族
- (ウ) 活動内容
a 協力外部団体(ツリーイング、秘密基地づくり、水辺の生き物観察)
b 本所プログラム(野外クッキング、森遊び、カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どこどこOL、昆虫OL、スタンプラリー)
- オ 東松ウォーキング大会2023
- (ア) 目的
東松峠ウォーキング大会に地区外からの参加を集うことにより、交流・地域の活性化を図る。
- (イ) 期日、対象、参加者数
a 令和5年10月21日(土) 80名参加
b 一般
- カ 三たてを味わう 新そばにチャレンジ
- (ア) 目的
会津の代表的な郷土料理であるそばを打ち、新そばの豊かな味わいを堪能するとともに、郷土の食文化のすばらしさを知る。
- (イ) 期日、対象、参加者数
a 第1回：令和5年11月25日(土) 37名参加
第2回：令和5年11月26日(日) 39名参加
b 県内の小・中学生とその家族
- (ウ) 活動内容
そば打ち体験と試食
- キ 手作り森のクリスマス
- (ア) 目的
a クリスマス用のクラフト作りや食事を味わうことを通して、家族間の交流を図る。
b 手作りの良さや自然素材の温かみを味わってもらうとともに、本所プログラムや施設についての理解を図り、今後の利用促進につなげる。
- (イ) 期日、対象、参加者数
a 第1回：令和5年12月23日(土) 61名参加
第2回：令和5年12月24日(日) 56名参加
b 県内の小・中学生とその家族
- (ウ) 活動内容
a クリスマスケーキデコレーション
b クリスマスクラフト作成
- ク ウィンターフェスティバル
- (ア) 目的
雪国ならではのスノーボード体験やそり・チューブ遊び、雪と親しむ活動等に触れることを通して、会津の冬の楽しさを感じさせる。
- (イ) 期日、対象、参加者数
a 令和6年1月20日(土)～21日(日) 36名参加
b 県内の幼児、小・中学生とその家族
- (ウ) 活動内容
a スノーシュー体験、スノーチューブ体験
b 雪灯ろう作り、キャンプファイヤー
c スノーボード教室、そり遊び
- ケ クラフトキッズフェア
- (ア) 目的
a 親子で工夫し、楽しみながらクラフト製作を行うことにより、子どもの発想力や創造力を高めたり、親子の絆を深めたりする。
b クラフト製作の場を提供することにより、本所のプログラムについての理解を深める機会と利用機会の

拡大を図るきっかけを作る。

- (イ) 期日、対象、参加者数
 - a 令和6年3月3日(日) 205名参加
 - b 県内の幼児、小・中学生とその家族
- (ウ) 活動内容
 - a 木目コースター
 - b ジョイントクラフト
 - c 缶バッジ
 - d Ori kiri ori クラフト
 - e 卵のひな人形づくり

(4) その他の企画事業

ア 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的、対象

県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待し、プレイリーダーの協力も得ながら、一日を通して、自然の家でのプログラムに基づき、心身の健康や運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。

会津地方の12歳以下の子どもたちとその家族を対象とする。

(イ) 名称、期日、参加者数

- a はじめてキャンプ
令和5年5月20日(土)～21日(日) 33名参加
- b 会津自然の山里山開放デー・・・前
令和5年7月16日(日) 797名参加
- c あったかふれあいまつり・・・前
令和5年10月9日(月) 441名参加
- d 秋だ！ちびっこ大集合！
令和5年10月22日(日) 120名参加
- e ウィンターフェスティバル・・・前
令和6年1月20日(土)～21日(日) 36名参加
- f そりすべり団体開放
令和5年1月10日(水)～2月17日(土)
1,261名参加
- g 雪遊びファミリーデー
令和6年2月4日(日) 107名参加

(ウ) 活動内容

- a アスレチック、カヌー、UFO ゴルフ、迷路
- b クラフト、オリエンテーリング、ボッチャ
- c そり遊び、スノーチューブ

イ 心のケア事業「もっくんリフレッシュデー」

(ア) 目的

心のケアが必要な児童生徒に対して、会津自然の家の豊かな環境を活かしたプログラムを提供し、自然体験活動や交流活動を通して、心身ともに健やかな人間性を育むとともに、自ら主体的に考え行動できるようなたくましい子どもたちの育成のための支援を図ることを目的とする。

(イ) 期日、参加者数

- 令和5年7月8日(土) 12名参加
- 令和5年9月19日(火) 15名参加

- 令和5年9月30日(土)～10月1日(日) 12名参加
- 令和5年11月5日(日) 10名参加
- 令和5年11月18日(土) 16名参加
- 令和5年12月10日(日) 17名参加
- 令和6年1月28日(日) 14名参加
- 令和6年2月21日(水) 21名参加

(ウ) 活動内容

保護者、児童、施設と連携し、児童生徒の状況に配慮しながら自然体験活動や手作りの活動を実施した。

- a ペットボトルロケット、カヌー
- b 野外炊飯、ツリーイング
- c そば打ち体験、自然散策
- d 冬の遠足
- e 自然散策、クラフト

第17節 福島県いわき海浜自然の家

1 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校教育団体の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年11月1日から財団法人いわき市教育文化事業団(平成26年4月1日に「公益財団法人いわき市教育文化事業団」と改称)を指定管理者として一部再開した。

以降、利用者が安心して利用できる環境を創出するため、平成23年度から同26年度にかけて、本館周辺及び野外施設の放射線量低減措置を実施し、順次供用を再開した。山林部については、一部で放射線量がいわき市の基準値まで低下していないこと、また、遊歩道や各種遊具などの再整備が必要であることから、フィールドアスレチックや冒険の森を利用した活動プログラムの再開はできていないが、令和5年度には老朽化して使用不可となっていた一部フィールドアスレチック施設の解体、階段の再整備を実施し、試験的に使用した。

海浜活動については、沿岸部の復旧状況に合わせて平成25年度から順次再開し、平成30年度に四倉漁港でいかだ乗り、カヤック乗り、ボディボードを再開したことで、全てのプログラムを再開することができた。海浜に隣接した施設としての特性を生かした海浜活動のプログラムは、会津及び中通り地方の学校教育団体だけでなく、相双地区やいわき地区の利用団体からも好評を得ている。

5年度の利用受け入れについては、新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが5類に変更された直後より段階的に利用制限を緩和し、11月1日(水)からは宿泊利用定数・日数とも制限を撤廃した。しかしながら、学校教育団体・社会教育団体とも利用予約が前年度に行われ、利用団体がほぼ確定

していたため、全体的な利用状況の回復傾向は認められたが、大幅な増とはならなかった。

年間の利用状況については513団体（前年比75団体増）、延べ利用者数36,402人（前年比8,998人増）となった。

施設管理に関しては、日常的に保守点検や環境美化に努めるとともに、利用者が少ない時期には、設備の細部点検や修繕等を集中して実施し、利用環境の整備・向上を図った。また、引き続き本所の「庁舎管理規程」「危機管理マニュアル」等に基づき、利用者が安全・安心に利用できるよう努めた。

(1) 令和5年度重点目標と成果

震災の影響で未だに一部の自然体験活動が制限されている中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう、引き続き次の目標に取り組んだ。

ア 本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ア) 青少年教育施設としての位置づけを明確にし、利用者への理解徹底を図るため、健全な青少年の育成を目的とした利用のあり方を検討しながら受け入れを実施した。学校教育団体へは、所報「しおね」や企画事業チラシ・ポスター等を配付するなど、本所の取り組みや事業について情報提供し、周知と利用促進に努めた。また、生涯学習施設としての役割に鑑み、いわき市内の教育文化施設及び社会教育施設と連携し、公民館への出前講座等で体験活動を提供するなど、社会教育団体への利用促進を図った。

(イ) 利用団体の指導者への啓発的支援を通して、青少年の自主的自律的な心身の育成を図るため、学校教育団体及び社会教育団体の指導者向けに活動計画立案や活動プログラム体験などを取り入れた研修会を実施した。令和5年度は、学校教育団体を対象とした学校団体指導者事前研修会について、新型コロナの法的位置付けが5類に変更されたことを受け、対面方式での開催を再開した。研修会では、研修目的に沿った活動の提案や、宿泊活動が円滑に行えるよう調整を行った。

(ウ) 利用団体へのオリエンテーション等を通して宿泊活動における生活指導を行い、共同生活の場における社会的集団的なルールの理解と定着を図った。

(エ) 企画事業の充実を図るため、提供プログラムの教育的効果や自然体験を多く取り入れたプログラムの開発について、所員が意見を出し合いながら事業を進めた。令和5年度は、春・秋のオープンデーなどの企画では、自由参加制を再開し、多くの参加者があった。広報活動についても、指定管理者が管理受託する施設と連携し、効率的な広報に努めた。

イ 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ア) 利用者の研修目的達成のため、団体の特性に合わせた活動プログラムの開発に取り組んだ。特に学校教育団体については、プログラムの教育的効果について再検討し、野外活動・海浜活動の内容の見直しについて検討を

行った。

(イ) あらゆる年齢層に対応するため、幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅の広いプログラムの開発と内容の充実に努めた。令和4年度より、幅広い年齢層で活動できるニュースポーツとして、モルックを導入した。

(ウ) アンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行った。プログラムについては自然の家に求められている体験活動について、既存の内容の見直しを随時行った。また、団体の自主性・主体性を尊重しながら、研修目的を達成できるよう、適切な支援方法について、所員研修を行いながら改善を進めた。

(エ) 誰もが安心して楽しく利用できる施設を目指し、活動前の施設の安全点検だけでなく、活動プログラムについても定期的に安全面での検証を行い、支援に取り入れた。特に海浜活動については、毎年シーズン前に所員研修で安全な支援方法の確認を行っている。さらに、新型コロナウイルス感染症についても基本的な感染拡大防止対策を継続しながら活動を支援した。

(オ) 平日の昼間に自然体験活動を希望する大人向けに、閑散期の利用促進対策も兼ねてミニ企画等を実施し、利用者から好評を博した。

(カ) 閑散期の土日に施設の一部を開放する「自然の家であそんじゃお！（ミニ開放デー）」を開催した。SNSのみの広報であったが、想定を上回る参加者があった。

ウ 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

(ア) 施設内外の安全点検を定期的実施し、事故の未然防止を徹底した。特にトリムランドは利用前に所員が点検を行うとともに、年1回の公園施設製品安全管理士による点検を実施し、安全管理に努めた。用具についても、利用前に消毒と不具合の有無についての確認を徹底した。

(イ) 学校教育団体及び社会教育団体への事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底を図った。令和5年度は、学校団体指導者研修会・活動プログラム研修会ともに対面方式で開催し、きめ細かい調整を行うとともに、受付やオリエンテーション、活動支援においても、安全のための適切な助言や指導を行った。

(ウ) 自然災害及び事故発生時の緊急事態等に対応するため、危機管理マニュアルを作成しており、緊急時の対応及び連絡体制を明確にすることで、情報共有の徹底と危機管理体制の充実に努めた。マニュアルは毎年見直しを行っており、令和5年度は新型コロナウイルス感染症に関する項目を見直した。

(エ) 本所の危機管理体制と安全対策を周知するため、海浜活動時等の自然災害等での避難方法、新型コロナウイルス感染症に関する対策等についてマニュアル化し、利用者に配布するとともに、受付時にも説明を行った。また、放射線量について、施設全体と活動エリアである海岸、

さらに現在使用休止中の山林部についても、定期的に測定を実施し、データをホームページで公表した。

- (カ) 利用者がより良い環境の中で安全に安心して活動できるよう、地域の消防署、交番とも連携して安全対策を徹底した。また、所外での活動に備えて2台のAEDを準備し、年一回の救急救命訓練を実施するなど、安全対策の充実を図った。
- (キ) 火災予防については、消防法に定められた防火設備の点検を実施するとともに、消防計画の作成、消防訓練の実施など、常に防火管理に努めた。
- エ 定期的な業務内容の点検と改善に努める。
- (ア) 利用者へのアンケート結果を参考に、プログラム内容や支援への意見・要望などを分析しながら業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援及び管理運営に努めた。
- (イ) 指定管理者である公益財団法人いわき市教育文化事業団の理事会及び評議員会や、法人が管理受託している施設全体の施設長会議などにおいて、計画的かつ定期的な評価を受け、改善点の明確化を図り、満足度の高い施設運営に努めた。
- (ウ) 自然体験活動にふさわしい環境整備を心がけ、利用団体の活動に支障がないよう施設の維持保全に努めた。食事提供業務、施設等維持保全関連業務の再委託については、指名競争入札により経費の削減を図りながら、受託業者と連携して利用者へのサービス向上に努めた。
- オ 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。
- (ア) ボランティア養成講座を年4回開催し、ボランティアの意義について理解を深めるための講座及びグループワーク、自然体験活動支援に必要な知識と技術を習得する実技研修を実施した。ボランティア養成講座には、社会人だけでなく、高校生及び大学生が参加しており、社会教育や生涯学習につながる体験の場を提供することができた。規定の講座修了後には事業支援ボランティアとして企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。
- また、環境ボランティアによる所内美化活動を通年で実施したほか、海浜活動を実施する舟戸海岸・四倉漁港の清掃活動を年1回行い、地域に根ざした施設づくりに努めた。
- (イ) 地域の公民館及び教育文化施設等と社会教育に関する情報を共有し、スポーツ団体や漁業関係者との連携、協力を得て、企画事業等で様々なプログラムを提供した。また、地域のまちづくり活動へ協力することで、各種団体との連携強化に努めた。

(2) 職員組織

職名	人員
所長	1

職名	人員
次長	1
専門指導員	1
主査	1
副主任指導員	1
指導員	2
主事	1
教育指導専門員	1
体験活動指導員	4
運転手	2
環境整備員	1
事務補助員	2
計	18

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山 53

(2) 宿泊定員

- ア 本館定員 300名 (和室 28室)
 イ ロッジ定員 160名 (10棟)
 ウ テント定員 100名 (25張)

(3) 敷地面積

350,171 m²

(4) 建物面積

ア 延床面積 6,696.97 m²

(ア) 中心施設

本館 (宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等)
 体育館

(イ) 野外施設

管理棟、ロッジ、便所等

(5) 野外活動施設面積

- ア つどいの広場 7,000 m²
 イ 多目的広場 8,890 m²
 ウ 自然観察園 4,050 m²
 エ みんなの広場 4,700 m²

(6) 設備備品等

ア 体育館

バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面 (バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、バドミントンコート2面、卓球台3台、ピアノ1台、キンボール ほか

イ 野営場

野外炊飯場、キャンプ用品一式、冷蔵庫 ほか

ウ 野外活動設備

フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、トリムランド、営火場5か所 (うち1カ所は利用休止中)、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース ほか。なお、次の施設は平成23年

度から利用制限中（フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、ロープコース）

エ 多目的広場

ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール ほか

オ その他

視聴覚機器、無線機、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、足けりバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、マイクロバス ほか

3 利用状況

令和5年度利用者数

延べ利用者数 36,402人

内訳	学校教育団体	252 団体	20,754 人
	社会教育団体	214 団体	9,627 人
	ファミリー	8 団体	120 人
	企画事業	39 団体	5,901 人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校教育団体指導者事前研修会

(ア) 目的

令和5年度利用の学校教育団体の指導者が、活動計画の立て方や本所の利用方法について理解を深めるとともに、同日に利用する学校間での活動プログラムの調整を図る。

(イ) 期日及び参加校数

期日	令和5年4月13日(木)	参加 45校
	令和5年4月20日(木)	参加 55校
	令和5年4月27日(木)	参加 51校
	令和5年7月25日(火)	参加 33校

(ウ) 内容

新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが5類に変更されたことを受け、4年ぶりに集合・対面形式で実施した。同時期利用校同士でコミュニケーションを取りながら円滑に活動調整を行うことができた。

イ 社会教育団体指導者事前研修会（活動プログラム研修会）

(ア) 目的

令和5年度利用の社会教育団体の指導者が、見学会や実技研修等を通して、活動の進め方や活動計画作成に理解を深めることができるよう提案する。

(イ) 期日及び参加者数

期日	令和5年5月12日(金)	参加者数 21名
----	--------------	----------

(ウ) 内容

活動プログラムを体験することによりプログラムの理解を深め、計画の立案材料として役立たせることができた。また、相談会では、参加者の目標とする計画に沿うよう立案の助言や他

団体との調整を行い、利用当日の計画が円滑に実施で

きるように調整した。

ウ ボランティア養成講座

(ア) 目的

自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、本所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。

(イ) 期日、参加者数及び対象

・期日	令和5年5月7日(日)	参加者数23名
	令和5年7月9日(日)	参加者数10名
	令和5年9月24日(日)	参加者数13名
	令和5年12月17日(日)	参加者数10名
・対象	高校生以上	

(ウ) 内容

実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。

(2) 利用促進事業

ア 遊ぼう！初夏の海で

(ア) 目的

初夏の舟戸海岸で、魚釣りや磯遊びを楽しみながら、親子のふれ合いを深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

・期日	令和5年7月16日(日)
・対象	小学校に通う児童とその家族
・参加者数	34名

(ウ) 内容

定員30人の事前予約制で実施。当初は5月20日(土)の実施を計画していたが、5月19日(金)に発生した地震の影響により日程を変更した。参加者は夏の海で魚釣りをしながら家族の会話を楽しみ、子どもたちは磯の生き物に興味津々だった。また、磯の生き物の生態を理解し、実際に手でふれることで命の大切さを学んだ。

イ 春のオープンデー（未来キッズ生き活き事業）

(ア) 目的

施設を県民へ広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解を深めるとともに、子どもたちの豊かな人間性や生きる力の育成を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

・期日	令和5年5月28日(日)
・対象	一般
・参加者数	1,515名

(ウ) 内容

自由参加制で実施。様々な活動を通して当所への理解を深めるとともに、未来キッズ生き活き事業として、子どもたちが身体を動かす機会を提供することができた。

ウ ふれあいサマーキャンプ

(ア) 目的

自然体験活動を通して自然や人とふれあう喜びを体得するとともに、協調性・社会性や自立心を養う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

・期日	令和5年7月29日(土)～7月30日(日)
-----	-----------------------

・対象 小学生（４～６年生）

・参加者数 32名

(ウ) 内容

定員30名の事前予約制で実施。自然体験を通して、参加者同士の交流を深めるよう活動に流れをつけ、協調性を高めた。また、グループ内で個人の役割を与えることにより、自己肯定感の向上や責任感をもたせ、自ら考え行動する姿を見ることができた。

エ スポーツフェスティバル（未来キッズ生き生き事業）

(ア) 目的

子どもから大人まで一緒に様々なニュースポーツを楽しみながら、健康への意識向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

・期日 令和5年10月8日(日)

・対象 一般

・参加者数 875名

(ウ) 内容

自由参加制で実施。協力団体と連携して様々なプログラムを提供したことで、運動への意識を高めることができた。特にいわきラグビースクールを講師に招いたラグビー体験教室は好評であった。

オ 秋のオープンデー（未来キッズ生き生き事業）

(ア) 目的

施設を県民へ広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解を深めるとともに、子どもたちの豊かな人間性や生きる力の育成を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

・期日 令和5年10月29日(日)

・対象 一般

・参加者数 1,348名

(ウ) 内容

自由参加制で実施。様々な活動を通して当所への理解を深めるとともに、未来キッズ生き生き事業として、子どもたちが身体を動かす機会を提供することができた。また、郡山自然の家や当財団指定管理施設と連携し、様々なプログラムを提供した。

カ ふれあいオータムキャンプ

(ア) 目的

自然体験活動を通して自然や人とふれ合う喜びを体得するとともに、協調性・社会性や自立心を養う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

・期日 令和5年11月11日(土)～12日(日)

・対象 小学生（４～６年生）

・参加者数 24名

(ウ) 内容

定員30名の事前予約制で実施。交流ゲーム、野外炊飯、キャンプファイア、背戸岬廊ハイキング等の自然体験活動を通して、いわきの自然の豊かさを感じながら、協調性・社会性を身につけ、個々の自立心を養った。

キ 親子のつどい

(ア) 目的

自然の素材を用いて季節にふさわしい創作活動、共同作業を通して、家族の親睦を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

・期日 令和5年12月10日(日)

・対象 未就学児・小学生とその家族

・参加者数 88名

(ウ) 内容

定員25組程度の事前予約制で実施。参加者は、自然の素材を利用したクリスマスガーランド・しめ縄作りの創作活動や、火起こし・焼きマッシュマロ作り体験を協力して行い、家族の絆を深めた。

ク 冬を楽しもう！～スキー教室～

(ア) 目的

雪で遊ぶことが少ない浜通りの親子を対象として会津地区でスキー教室を実施し、福島県の風土の豊かさを感じるとともに、自然体験活動の楽しさを知る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

・期日 令和6年1月21日(日)

・対象 小学生とその家族

・参加者数 33名

(ウ) 内容

コロナ禍により令和2年度から実施を見合わせていたが、4年ぶりに定員35名程度の事前予約制で実施。裏磐梯スキー場を会場とし、参加者はスキーを楽しみながら家族の親睦を深めることができた。

ケ クラフトのつどい

(ア) 目的

子どもから大人まで楽しめる様々なクラフトを提供し、多くの地域の方々に自然の家についての理解を深めてもらう。

(イ) 期日、対象及び参加者数

・期日 令和6年2月4日(日)

・対象 一般

・参加者数 204名

(ウ) 内容

一部の企画を除き、自由参加制で実施。参加者はコースター、表札、草花の万華鏡、草木染めのエコバッグ作りなどの様々なクラフト体験を楽しみ、多くの方々に自然の家への理解を深めてもらうことができた。

コ 自然の家であそんじゃお！（ミニ開放デー）

(ア) 目的

閑散期を利用し、体育館とトリムランドを開放し、他者との交流の場を提供するとともに、当所の魅力を発信し、施設の周知を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

・期日 令和6年2月25日(日)

・対象 一般

・参加者数 129名

(ウ) 内容

自由参加制で実施。アスレチック遊具やニュースポーツ、オリエンテーリングを通して身体を動かす機会を設け、あわせて自然の家の理解と利用促進を図った。

サ 森の音楽会

(ア) 目的

地元演奏家によるコンサートを聴き、音楽に親しむことや、本所の魅力の発信と周知を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和6年3月10日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 167名

(ウ) 内容

定員150人の事前予約制で実施。豊かな自然環境にある当所で、いわき出身の音楽家である菊池章夫氏の演奏を楽しんでいただき、多くの地域の方々に自然の家への理解を深めてもらうことができた。

シ 早春の里山散歩

(ア) 目的

利用の少ない年齢層を対象として、早春の自然(冒険の森3コース)を楽しんでもらい、自然の家の魅力の発信と周知を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和6年3月22日(金)
- ・対象 一般(大人)
- ・参加者数 20名

(ウ) 内容

定員20名の事前予約制で実施。普段利用の少ない曜日・年齢層(平日の中高年)を想定していたが、募集開始2.5時間で定員に達し、潜在的なニーズがあることが確認された。

(3) その他の企画事業

ア 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的

子どもたちに海活動やレクリエーション・スポーツなどを通して、身体を動かす機会を提供し、体力・運動能力の向上、心身のリフレッシュおよび健康増進を促す。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- 第2回 令和5年8月5日(土) 参加者数79名
- 第3回 令和5年8月19日(土) 参加者数99名
- 第6回 令和5年12月3日(日) 参加者数689名
- ・対象 未就学児・小学生とその家族

(ウ) 内容

第2・3回は定員100人程度の事前予約制、第6回は自由参加制で実施。第1・4・5回は主催事業と共催。第2・3回は、ボディボードや砂遊びを所員による指導・支援のもとに行い、いわきの海を満喫した。第6回はアスレチック施設以外にニュースポーツや昔遊びなどのプログラムを提供し、家族一緒に楽しく活動できたとの高い評価を得た。特に、いわきFCの協力による運動

体験、親子でノルディックウォーキング体験、いわき出身の現役プロ野球選手らの指導による野球教室およびトークショーなどを行い、好評を博した。

イ 心のケアが必要な子ども(不登校等)を対象とした自然体験事業

(ア) 目的

浜通り地域の不登校傾向にある児童生徒を対象に、自然体験活動や交流体験の機会を提供する事業。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- 第1回 令和5年5月26日(金) 参加者数20名
- 第2回 令和5年9月17日(日) 参加者数6名
- 第3回 令和5年10月25日(水) 参加者数17名
- 第4回 令和5年11月18日(土)
～11月19日(日) 参加者数31名
- 第5回 令和6年2月2日(金) 参加者数14名
- ・対象 小学生とその家族

(ウ) 内容

関係機関やスクールカウンセラーと連携を図りながら、自然体験活動を通して、自尊感情や自己肯定感を高めることができた。いわき市については、いわき市総合教育センターと連携しながら事業を進めるとともに、第4回は一泊二日の宿泊で実施した。第5回では、節分行事、餅つきを楽しみ、参加した子どもたちや保護者からも大変好評であった。

(4) 連携事業

ア キッズミュージアムin伝承郷

主催：いわき市アンモナイトセンター

(ア) 目的

自然の家の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、体験活動のプログラムを提供する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和5年5月3日(水・祝)
- ・対象 小学生とその保護者
- ・参加者数 141名

(ウ) 内容

自然の家職員が講師を務め、ゴム鉄砲射的・輪投げなどの昔あそび体験プログラムを提供した。

イ 親子ものづくり講座④ 主催：いわき市生涯学習プラザ

(ア) 目的

自然の家の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、体験活動のプログラムを提供する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和5年12月16日(土)
- ・対象 小学生とその保護者
- ・参加者数 20名

(ウ) 内容

自然の家職員が講師を務め、親子で協力して本格的なクリスマスリースを作成した。

ウ 第19回生涯学習フェスティバル

主催：いわき市生涯学習プラザ

(ア) 目的

本所の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、体験活動のプログラムを提供する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和6年2月17日(土)・18日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 346名

(ウ) 内容

本所の施設及び事業紹介、ストラックアウト、輪投げ体験を行った。本所の周知について、良い広報の機会となった。

エ いわきの文化総合講座⑨ 主催：いわき市生涯学習プラザ

(ア) 目的

自然の家の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、職員の専門領域における研究成果を提供する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和6年2月28日(水)
- ・対象 一般
- ・参加者数 8名

(ウ) 内容

自然の家職員が講師を務め、いわきの獅子舞について最新の情報を提供した。

オ 出前講座(全8件)

(ア) 目的

いわき市内の公民館や児童クラブ等が主催する児童向けの事業において、自然体験活動やクラフト等のプログラムを提供し、自然の家の活動について理解を深めてもらう。

(イ) 対象、期日及び参加者数

- a いわき市立長倉小学校ときわ児童クラブ
令和5年7月28日(金) 参加者数32名
- b いわき市立長倉小学校ときわ児童クラブ
令和5年8月18日(金) 参加者数37名
- c いわき市立江名小学校かもめ児童クラブ
令和5年8月22日(火) 参加者数26名
- d いわき市立夏井公民館藤間っ子土曜クラブ
令和5年8月26日(土) 参加者数48名
- e いわき市立好間公民館
令和6年3月12日(火) 参加者数24名

(ウ) 内容

貝飾り、万華鏡など、クラフト体験の出前講座を実施した。